

### Ⅲ 調査結果



# 1 第1回アンケートの調査結果



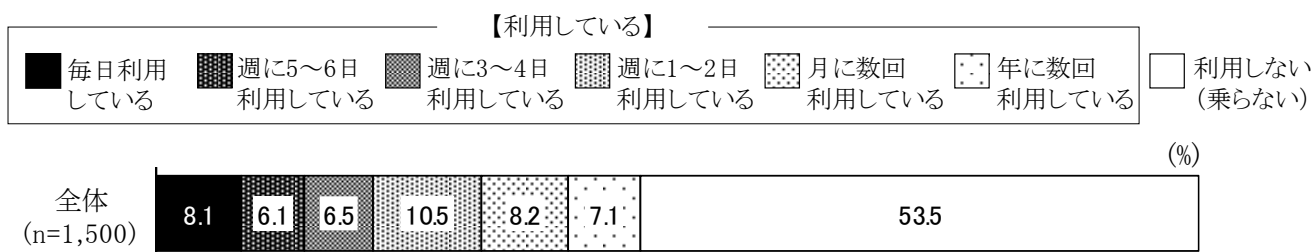
## 1.1 自転車の利用状況及び自転車走行ルール等の認識について

### (1) 自転車の利用状況

Q 1. あなたは自転車を利用していますか。

「利用しない (乗らない)」が 53.5%と 5割を超えている。「毎日利用している」から「年に数回利用している」を合計した【利用している】は 46.5%であり、その中では「週に1～2日利用している」が 10.5%と最も高い。

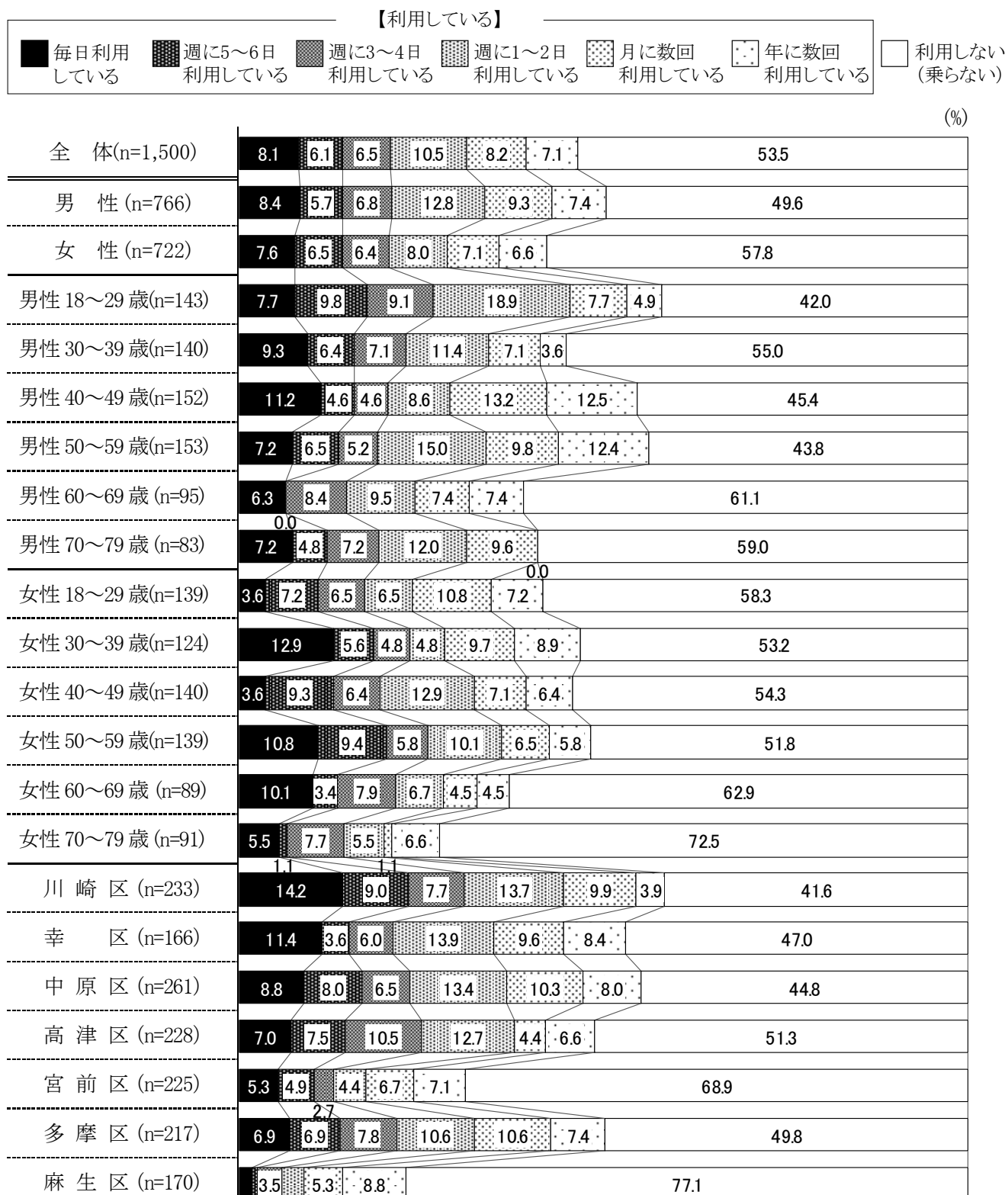
【図表 1】自転車の利用状況



性／年齢別に見ると、【利用している】は、男性は18～29歳が58.0%と最も高く、40～49歳と50～59歳でも5割台半ばとなっており、女性は50歳代以下が4割を超えている。また、男女ともに60歳代以上では他の年代と比べて低い傾向が見られた。

居住区別に見ると、【利用している】は、川崎区が58.4%と最も高く、中原区(55.2%)、幸区(53.0%)、多摩区(50.2%)でも5割を超えているが、宮前区(31.1%)と麻生区(22.9%)では低くなっている。

【図表 2】自転車の利用状況（性／年齢別、居住区別）

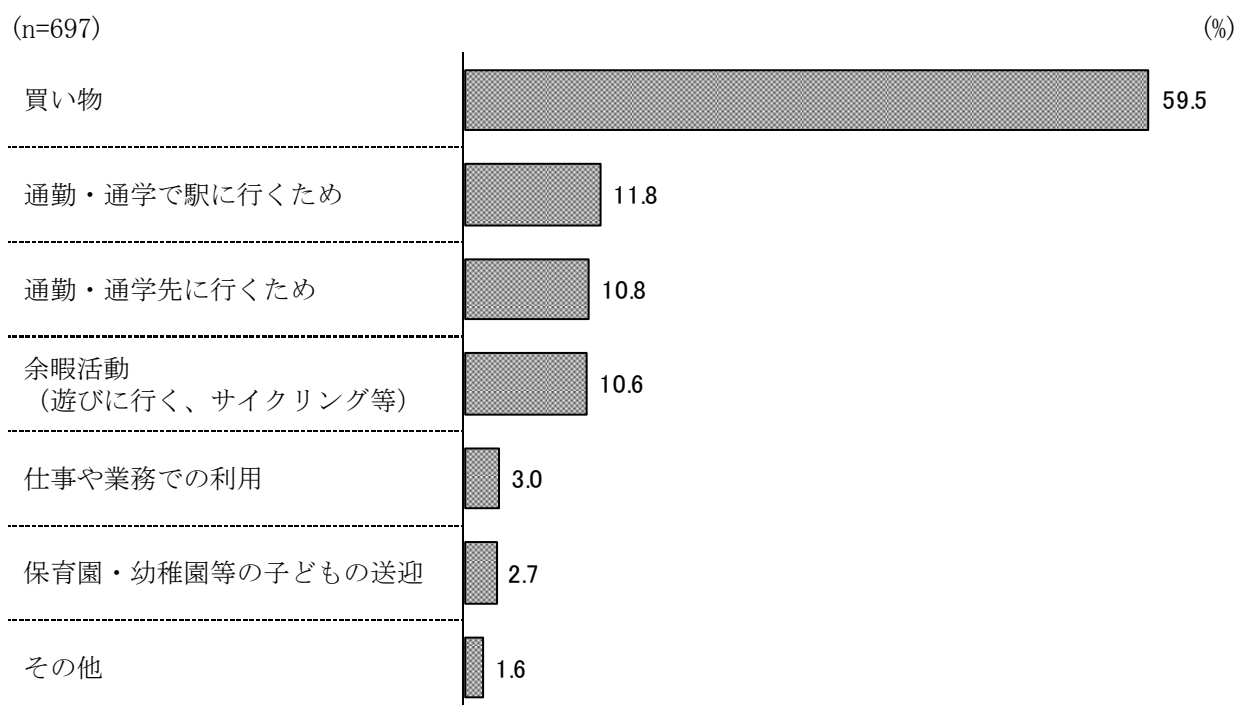


## (2) 自転車の主な利用目的

Q2. あなたが自転車を最も利用する目的は何ですか。

自転車を利用している人に主な利用目的についてたずねたところ、「買い物」が59.5%と最も高く、次いで「通勤・通学で駅に行くため」(11.8%)、「通勤・通学先に行くため」(10.8%)、「余暇活動(遊びに行く、サイクリング等)」(10.6%)と続いている。

【図表 3】自転車の主な利用目的

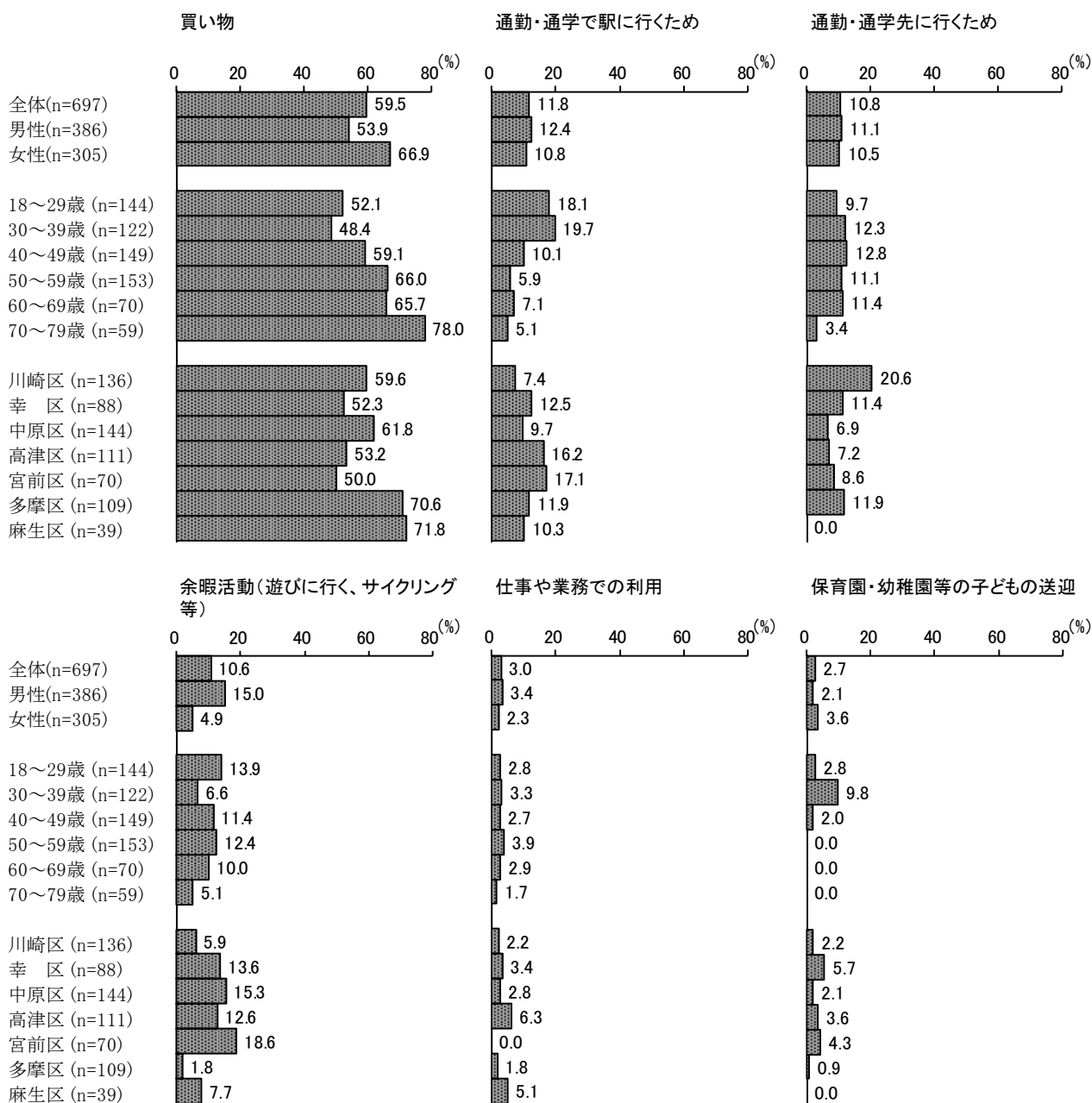


性別に見ると、「買い物」は女性の方が高く、「余暇活動（遊びに行く、サイクリング等）」は男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「買い物」は概ね年齢が上がるほど高く、「通勤・通学で駅に行くため」は概ね年齢が上がるほど低くなっている。

居住区別に見ると、「買い物」は麻生区と多摩区が約7割と最も高く、「通勤・通学先に行くため」は川崎区が約2割と最も高い。

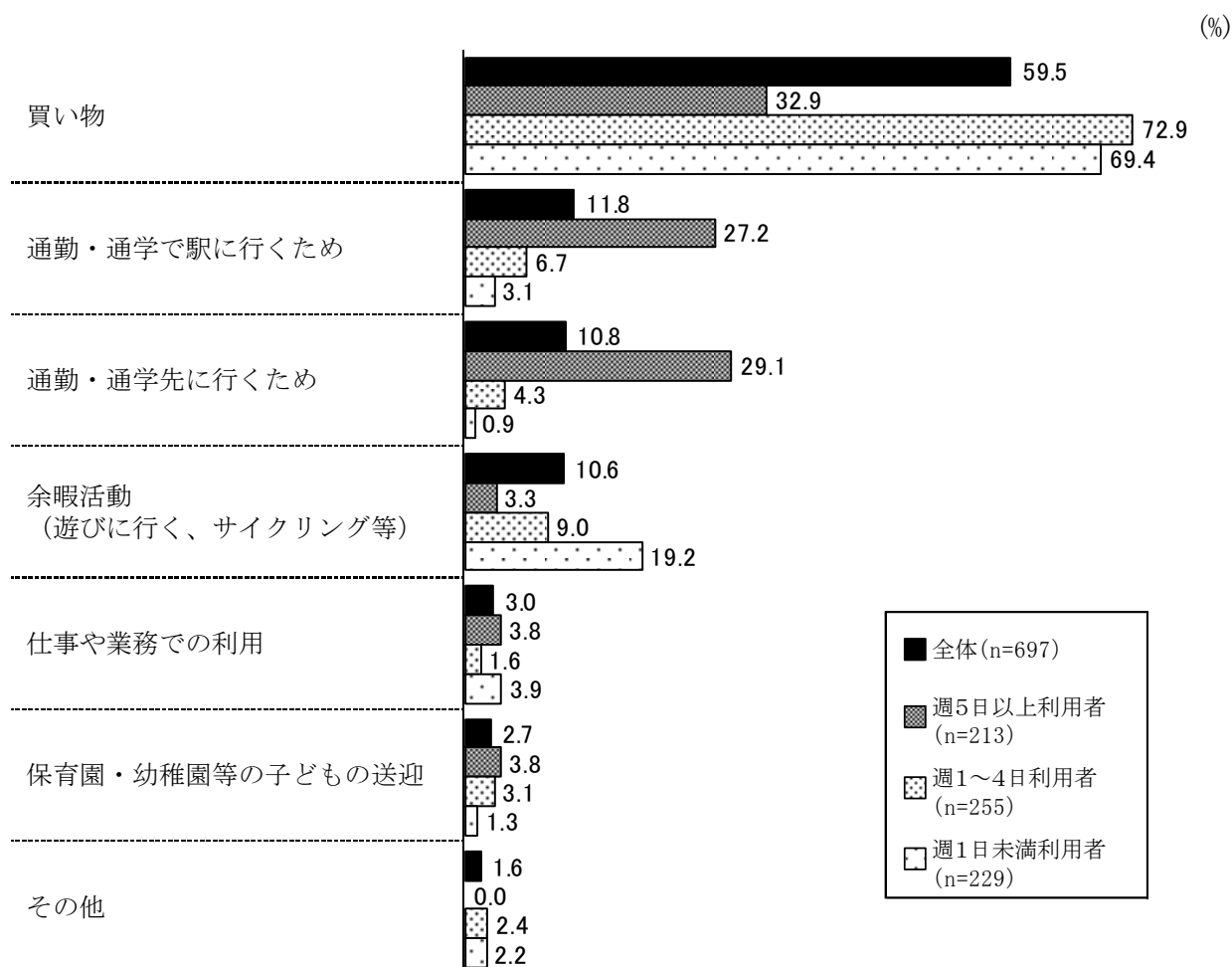
【図表 4】自転車の主な利用目的（性別、年齢別、居住区別）





問1の自転車の利用状況別に見ると、「買い物」は「週に3～4日利用している」と「週に1～2日利用している」を合計した【週1～4日利用者】と「月に数回利用している」と「年に数回利用している」を合計した【週1日未満利用者】が7割前後と高く、「通勤・通学で駅に行くため」と「通勤・通学先に行くため」は「毎日利用している」と「週に5～6日利用している」を合計した【週5回以上利用者】が約3割と高くなっている。また、「余暇活動（遊びに行く、サイクリング等）」は【週1日未満利用者】で高い傾向が見られた。

【図表 5】 自転車の主な利用目的（自転車の利用状況別）



### (3) 自転車事故対象損害賠償保険の加入状況

Q3. あなたは、自転車事故を対象とした損害賠償保険等に加入していますか。

自転車を利用している人に自転車事故対象損害賠償保険の加入状況についてたずねたところ、「加入している」が51.5%、「加入していない」が38.6%、「わからない」が9.9%であった。

【図表 6】 自転車事故対象損害賠償保険の加入状況

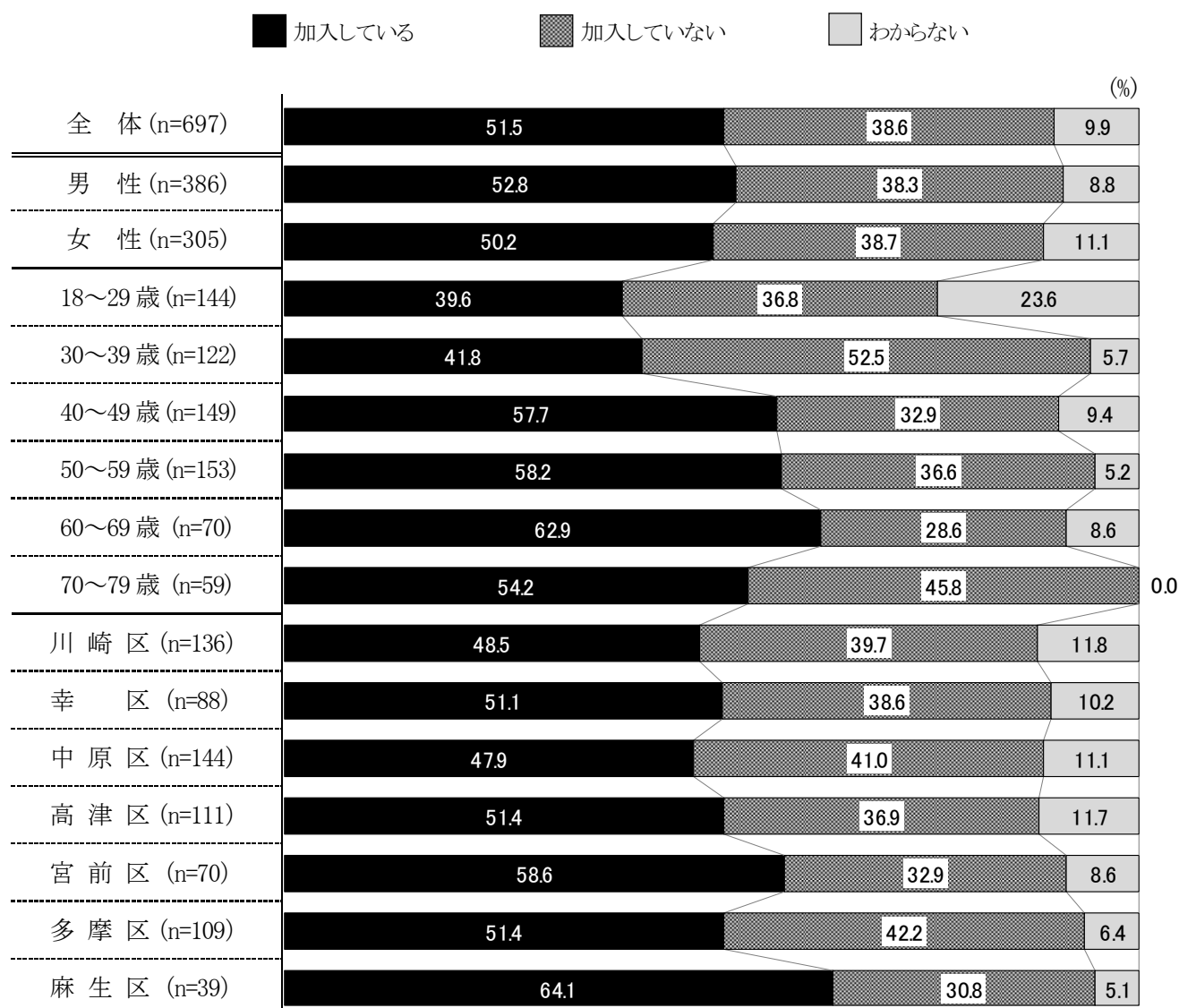


性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「加入している」は40歳代以上では5割を超えているが、30歳代以下では約4割と低い傾向が見られた。

居住区別に見ると、「加入している」は麻生区が64.1%と最も高く、中原区(47.9%)と川崎区(48.5%)では5割を下回った。

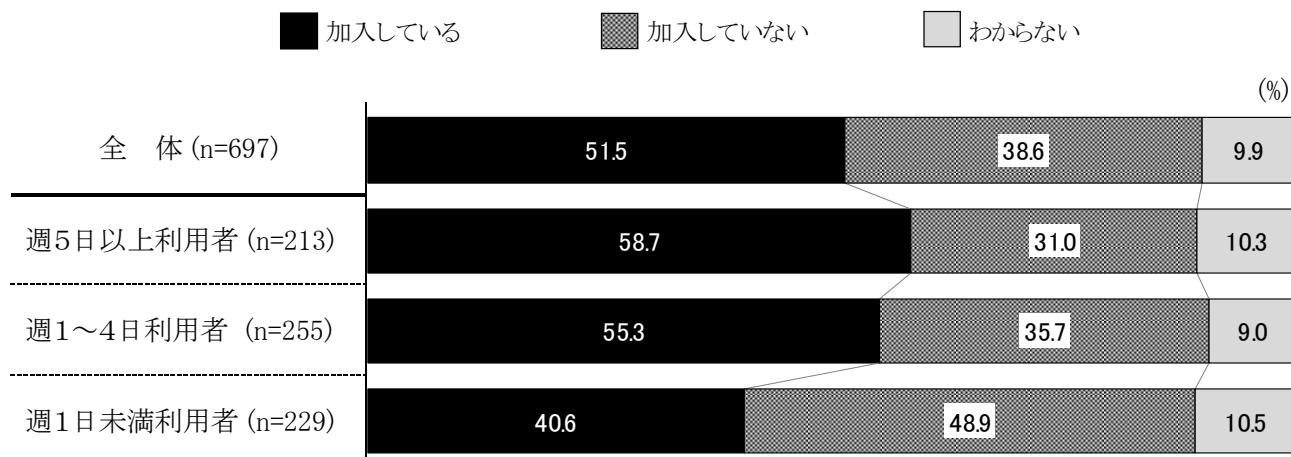
【図表 7】 自転車事故対象損害賠償保険の加入状況（性別、年齢別、居住区別）



(第1回アンケート)

Q1の自転車の利用状況別に見ると、「加入している」は【週5日以上利用者】が58.7%と最も高く、利用頻度が高いほど「加入している」の割合が高くなっている。

【図表 8】 自転車事故対象損害賠償保険の加入状況（自転車の利用状況別）



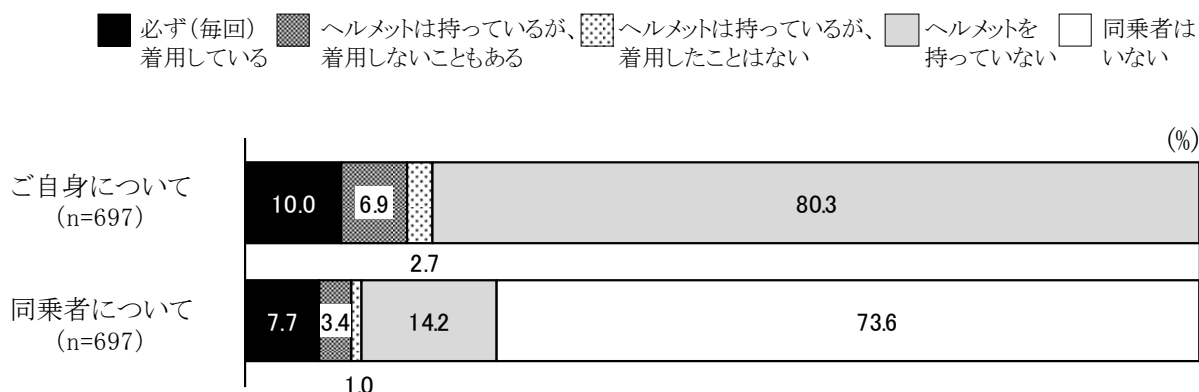
## (4) ヘルメットの着用状況

Q 4. あなたは、自転車乗車時にヘルメットを着用していますか。同乗者（子ども）がいる場合には、同乗者の状況についてもお答えください。

自転車を利用している人にヘルメットの着用状況についてたずねたところ、自身については、「ヘルメットを持っていない」(80.3%)が約8割を占め、次いで「必ず(毎回)着用している」が10.0%、「ヘルメットは持っているが、着用しないこともある」が6.9%、「ヘルメットは持っているが、着用したことはない」が2.7%であった。

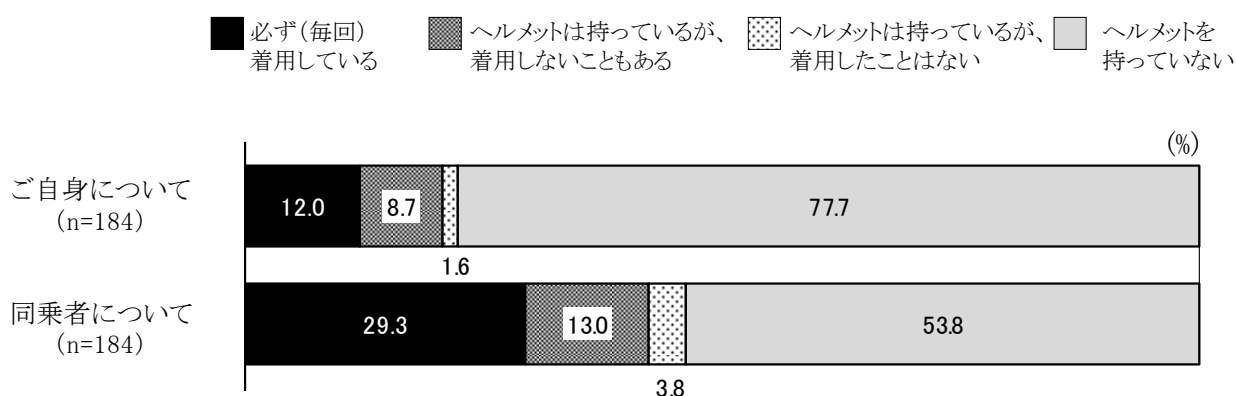
同乗者については、「ヘルメットを持っていない」が14.2%、「必ず(毎回)着用している」が7.7%、「ヘルメットは持っているが、着用しないこともある」が3.4%、「ヘルメットは持っているが、着用したことはない」が1.0%であった。

【図表 9】 ヘルメットの着用状況



「同乗者がいる」回答者のみ（「同乗者はいない」回答者以外）で見ると、「必ず(毎回)着用している」は、自身については12.0%、同乗者については29.3%となっており、自身よりも同乗者に着用させている割合が高くなっている。

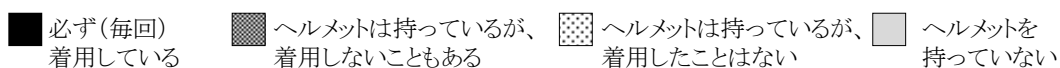
【図表 10】 ヘルメットの着用状況 &lt;&lt;「同乗者がいる」回答者&gt;&gt;



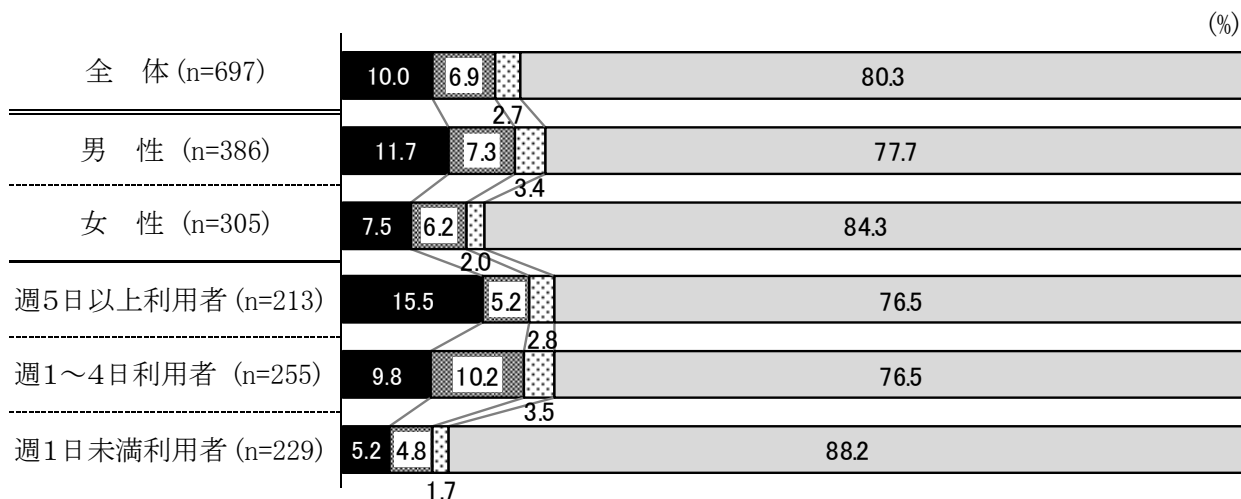
性別に見ると、自身については、「必ず（毎回）着用している」は男性の方が高く、「ヘルメットを持っていない」は女性の方が高くなっている。一方で、同乗者については「必ず（毎回）着用している」は女性の方が高く、「ヘルメットを持っていない」は男性の方が高くなっている。

自転車の利用状況別に見ると、自身、同乗者ともに、利用頻度が高くなるほど「必ず（毎回）着用している」の割合が高い傾向が見られた。

【図表 11】 ヘルメットの着用状況（性別、自転車の利用状況別）

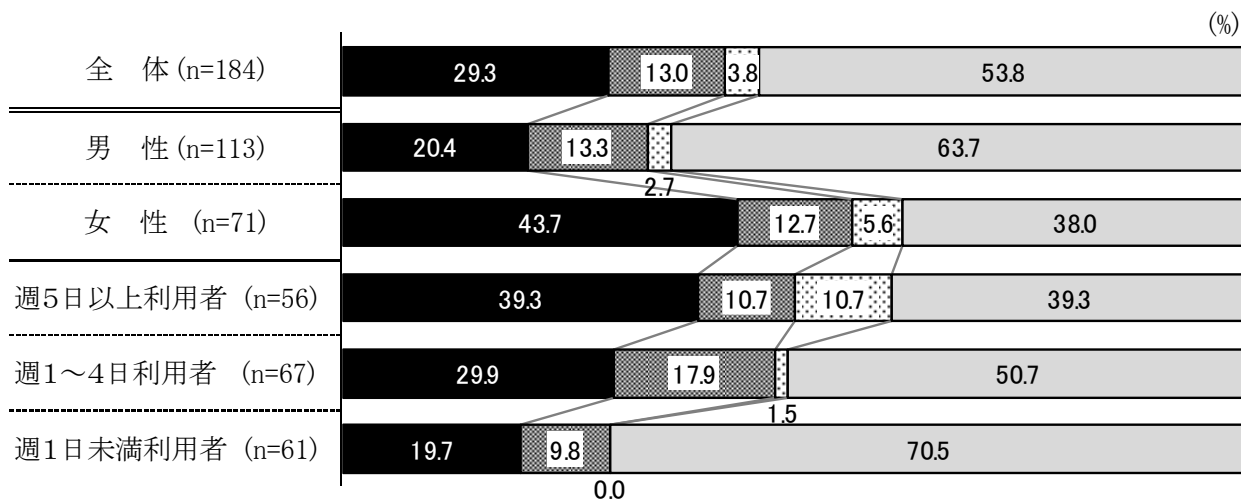


《ご自身について》



《同乗者について》

※「同乗者がいる」回答者のみ(「同乗者はいない」回答者以外)



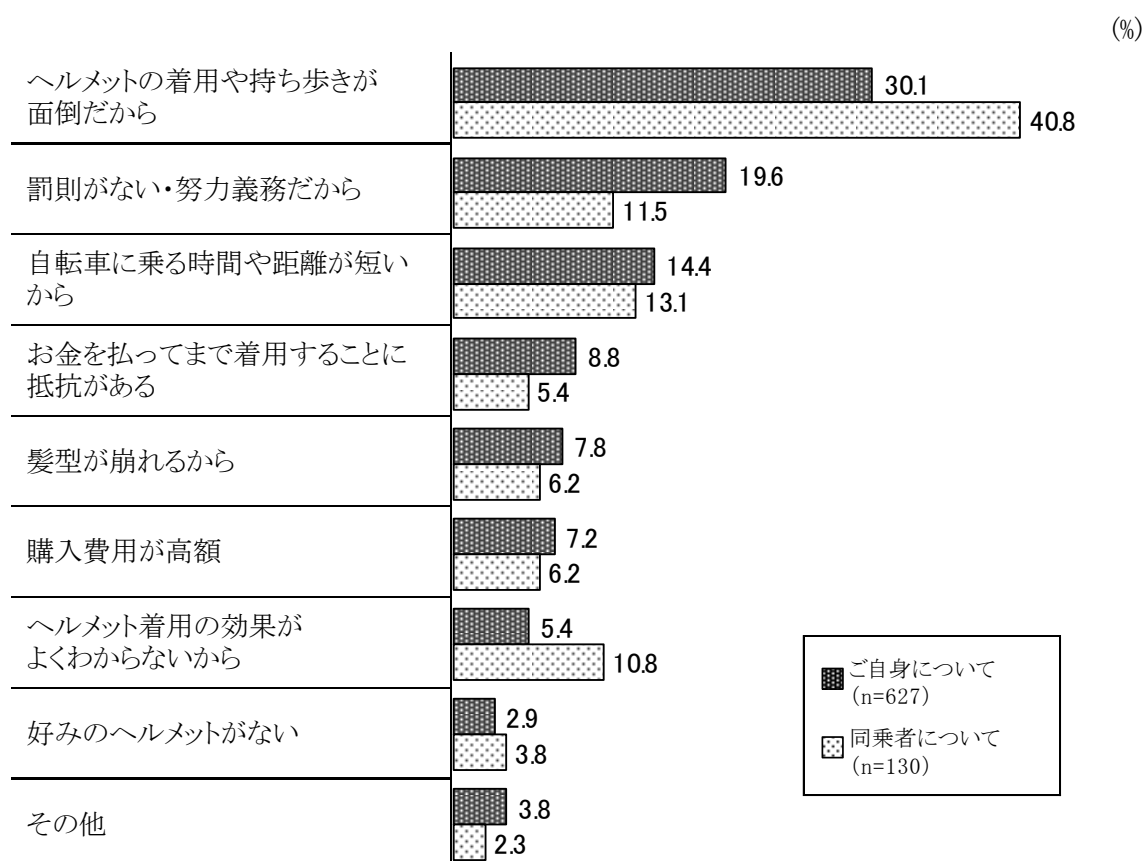
## (5) ヘルメットを着用しない理由

Q5. ヘルメットを着用しない、購入しない理由を教えてください。

「ヘルメットを必ず（毎回）着用する」と回答した人以外に、着用しない・ヘルメットを持っていない理由についてたずねたところ、自身については「ヘルメットの着用や持ち歩きが面倒だから」が30.1%と最も高く、次いで「罰則がない・努力義務だから」(19.6%)、「自転車に乗る時間や距離が短いから」(14.4%)と続いている。

同乗者については、「ヘルメットの着用や持ち歩きが面倒だから」が40.8%と最も高く、次いで「自転車に乗る時間や距離が短いから」(13.1%)、「罰則がない・努力義務だから」(11.5%)と続いている。また、自身については第7位となっている「ヘルメット着用の効果がよくわからないから」が同乗者については4番目に高くなっている。

【図表 12】 ヘルメットを着用しない理由

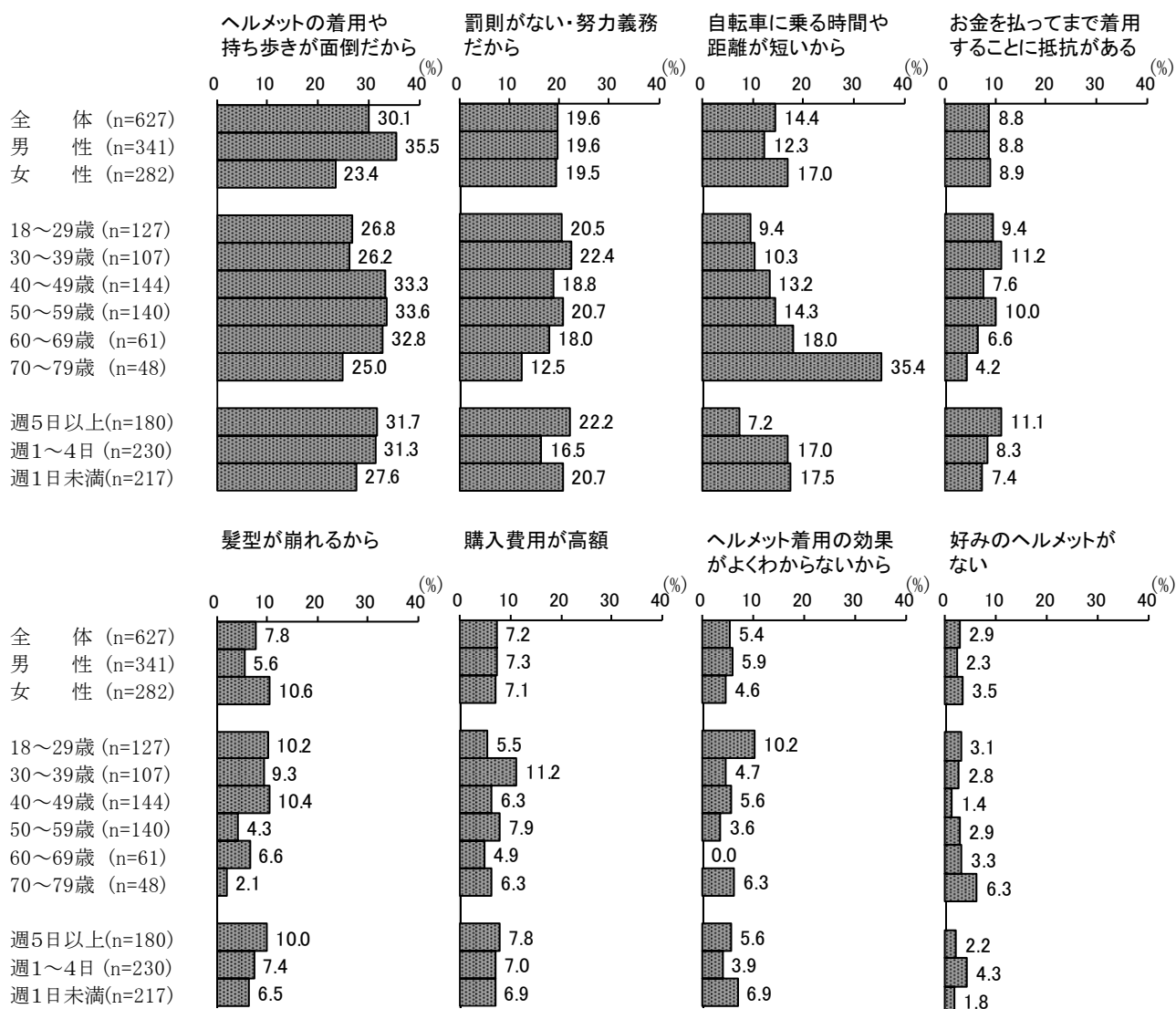


性別に見ると、「ヘルメットの着用や持ち歩きが面倒だから」は女性よりも男性の方が高く、「髪型が崩れるから」は男性よりも女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「ヘルメットの着用や持ち歩きが面倒だから」は40歳代～60歳代が3割を超えて比較的高く、「ヘルメット着用の効果がよくわからないから」は18～29歳が10.2%と最も高い。また、「自転車に乗る時間や距離が短いから」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。

自転車利用状況別に見ると、「ヘルメットの着用や持ち歩きが面倒だから」は週5日以上利用者と週1～4日利用者が3割を超えており、「自転車に乗る時間や距離が短いから」は週5日以上利用者が7.2%と低くなっている。また、「お金を払ってまで着用することに抵抗がある」と「髪型が崩れるから」は利用頻度が高いほど割合が高くなっている。

【図表 13】 ヘルメットを着用しない理由 <<ご自身について>>  
(性別、年齢別、自転車利用状況別)





## (6) 自転車利用やヘルメット着用についての考え

Q 6. 自転車利用やヘルメット着用について、AとBのような意見があります。あなたのお考えはどちらに近いですか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

①【Aに近い】が74.3%と、「自分が自転車乗車している時、他の自転車利用者の交通ルール違反が気になる」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

②【Bに近い】が73.0%と、「自転車事故の話を聞いたとき、自分にも起こりうると感じる」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

③【Aに近い】が64.3%と、「ヘルメット着用が義務化されない限り、ヘルメットはしなくてもいいと思っている」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

④【Aに近い】「ほとんどの人がヘルメットを着用するようになったら、自分も着用すると思う」が52.9%、【Bに近い】「周りの人の動向にかかわらず、ヘルメットの着用は、自分の意思で決定すると思う」が47.1%と、ほぼ半数ずつであった。

⑤【Bに近い】が56.1%と、「自転車利用者が交通ルールを守り、注意して走行しても自転車での交通事故は起こる」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 14】 自転車利用やヘルメット着用についての考え



(n=697)

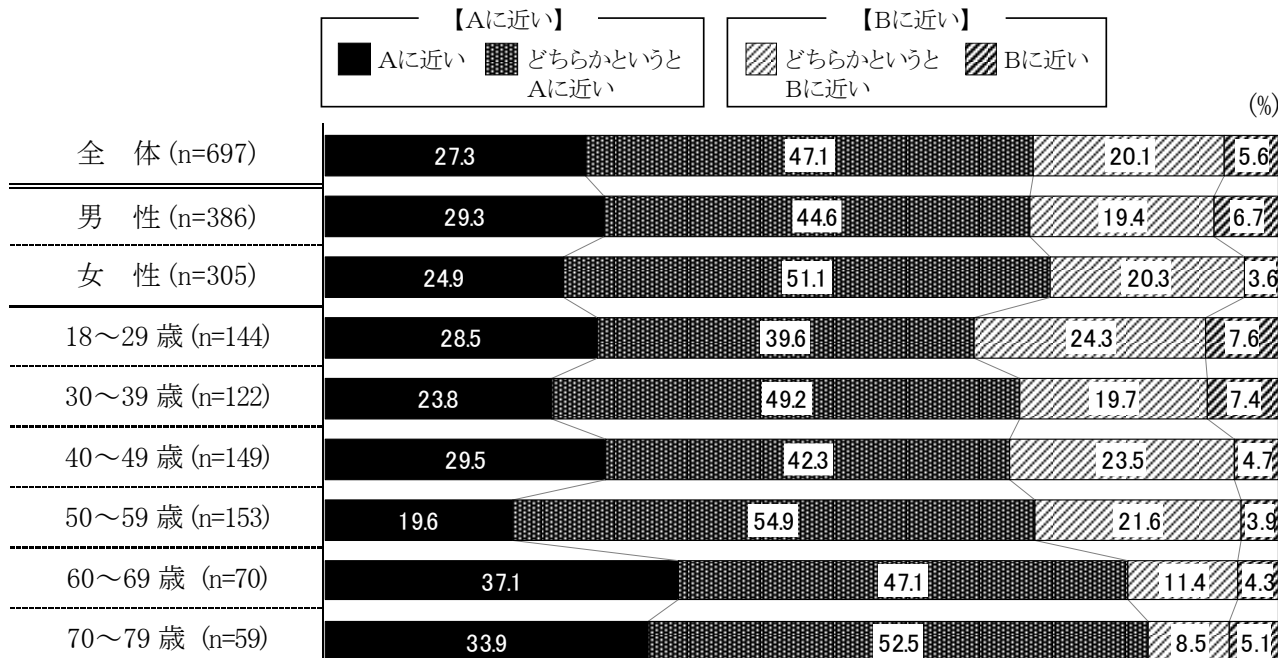
《Aの考え方》	(%)	《Bの考え方》
① 自分が自転車乗車している時、他の自転車利用者の交通ルール違反が気になる	27.3 (Aに近い), 47.1 (どちらかというAに近い), 20.1 (どちらかというBに近い), 5.6 (Bに近い)	自分が自転車乗車している時、他の自転車利用者の交通ルール違反は気にならない
② 自転車事故の話を聞いたとき、それは他人事のように感じる	21.2 (Aに近い), 50.5 (どちらかというAに近い), 22.5 (どちらかというBに近い), 5.7 (Bに近い)	自転車事故の話を聞いたとき、自分にも起こりうると感じる
③ ヘルメット着用が義務化されない限り、ヘルメットはしなくてもいいと思っている	16.5 (Aに近い), 47.8 (どちらかというAに近い), 28.0 (どちらかというBに近い), 7.7 (Bに近い)	ヘルメット着用が努力義務化となったので、ヘルメットを着用しようと思っている
④ ほとんどの人がヘルメットを着用するようになったら、自分も着用すると思う	14.2 (Aに近い), 38.7 (どちらかというAに近い), 30.7 (どちらかというBに近い), 16.4 (Bに近い)	周りの人の動向にかかわらず、ヘルメットの着用は、自分の意思で決定すると思う
⑤ 自転車による交通事故が起こる原因は、自転車利用者が交通ルールを守らないから	14.8 (Aに近い), 29.1 (どちらかというAに近い), 40.9 (どちらかというBに近い), 15.2 (Bに近い)	自転車利用者が交通ルールを守り、注意して走行しても自転車での交通事故は起こる

- ① A: 自分が自転車乗車している時、他の自転車利用者の交通ルール違反が気になる  
 B: 自分が自転車乗車している時、他の自転車利用者の交通ルール違反は気にならない

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【Aに近い】は概ね年齢が上がるほど高くなっている。

【図表 15】 自転車利用やヘルメット着用についての考え① (性別、年齢別)

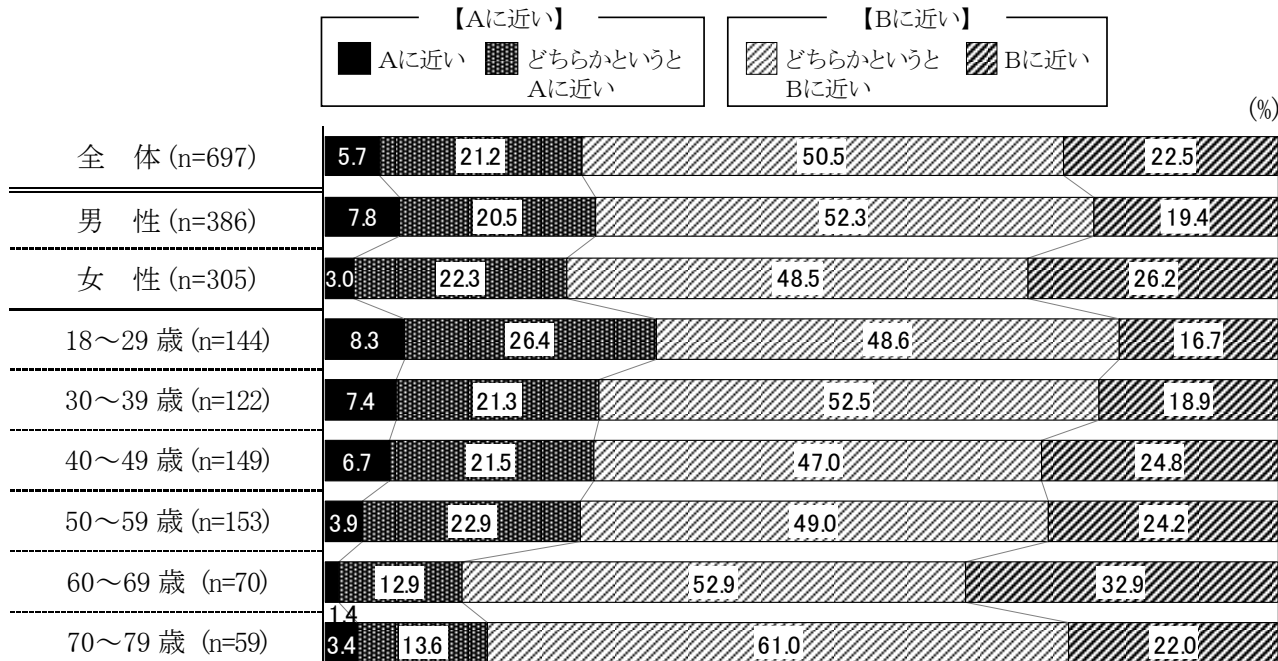


- ② A: 自転車事故の話聞いたとき、それは他人事のように感じる  
 B: 自転車事故の話聞いたとき、自分にも起こりうると感じる

性別に見ると、男性で「Aに近い」が高くなっているが、【Aに近い】で見ると大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【Bに近い】は概ね年齢が上がるほど高くなっている。

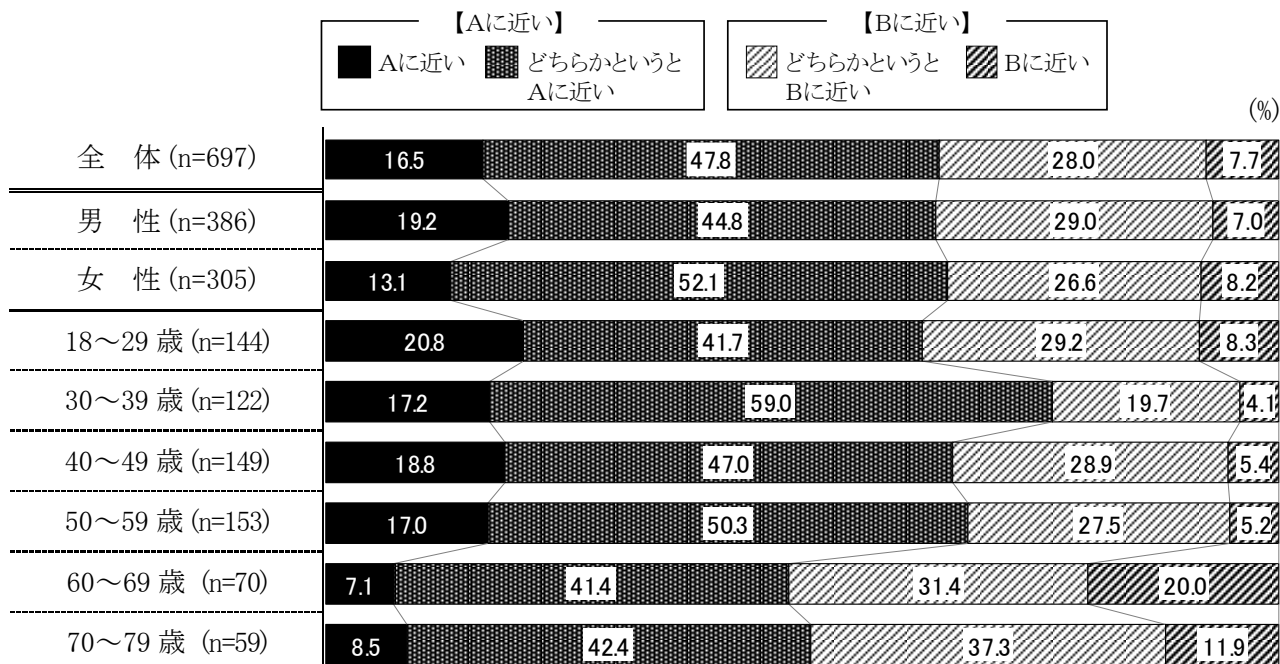
【図表 16】 自転車利用やヘルメット着用についての考え② (性別、年齢別)



③ A:ヘルメット着用が義務化されない限り、ヘルメットはしなくてもいいと思っている  
B:ヘルメット着用が努力義務化となったので、ヘルメットを着用しようと思っている

性別に見ると、男性で「Aに近い」が高くなっているが、【Aに近い】で見ると大きな差は見られない。年齢別に見ると、【Aに近い】は30～39歳が76.2%と最も高くなっている。また、【Bに近い】は60歳代以上が約5割と高くなっている。

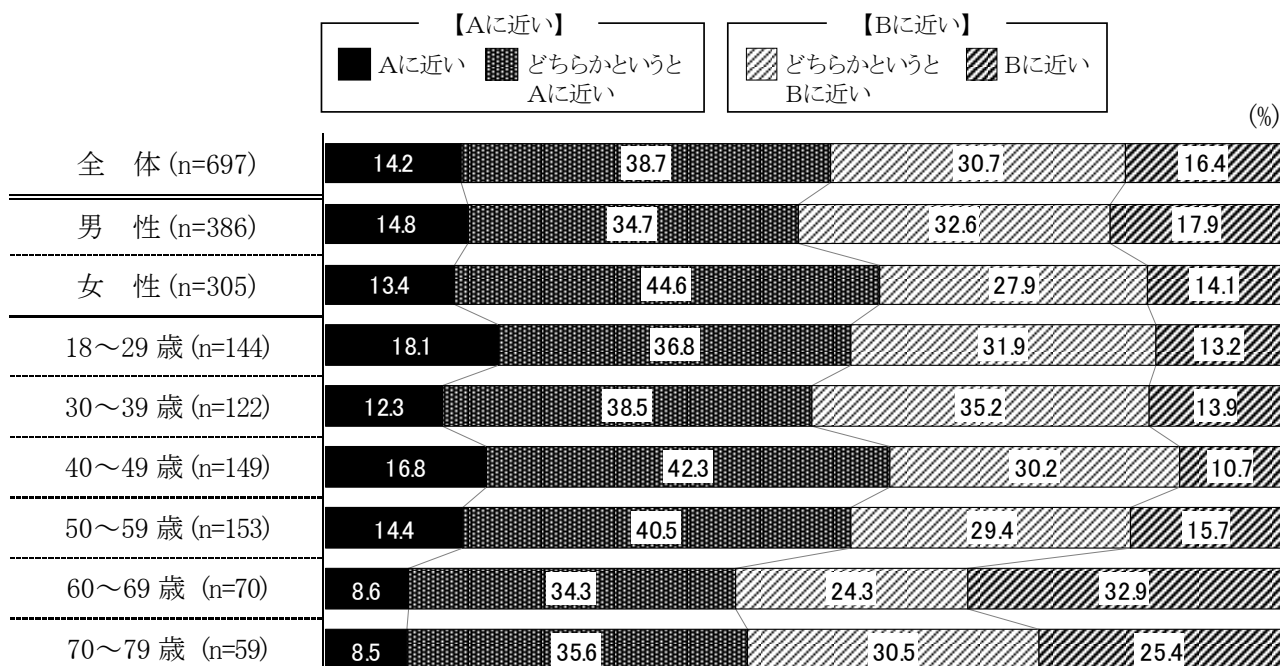
【図表 17】 自転車利用やヘルメット着用についての考え③ (性別、年齢別)



④ A:ほとんどの人がヘルメットを着用するようになったら、自分も着用すると思う  
B:周りの人の動向にかかわらず、ヘルメットの着用は、自分の意思で決定すると思う

性別に見ると、【Aに近い】は男性 (49.5%) よりも女性 (58.0%) の方が高くなっている。年齢別に見ると、50歳代以下では【Aに近い】の方が高いが、60歳代以上では【Bに近い】の方が高い。

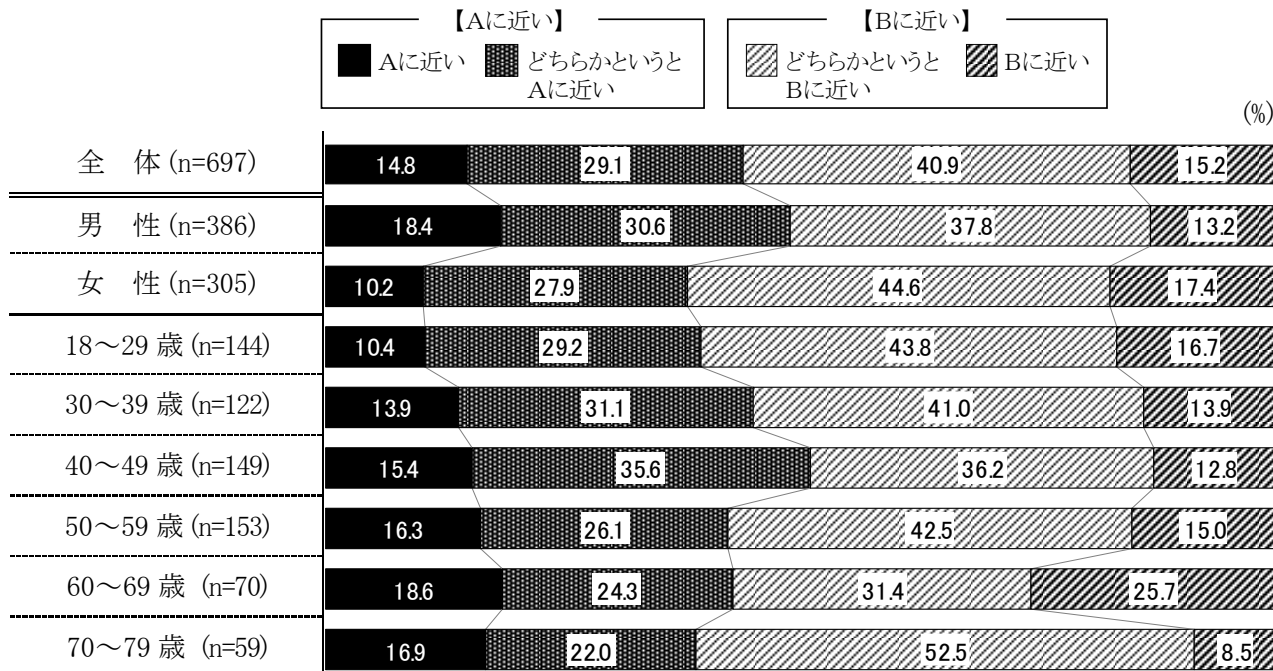
【図表 18】 自転車利用やヘルメット着用についての考え④ (性別、年齢別)



⑤ A: 自転車による交通事故が起こる原因は、自転車利用者が交通ルールを守らないから  
 B: 自転車利用者が交通ルールを守り、注意して走行しても自転車での交通事故は起こる

性別に見ると、【Bに近い】は男性（51.0%）よりも女性（62.0%）の方が高くなっている。  
 年齢別に見ると、40～49歳では【Bに近い】が最も低く、【Aに近い】と【Bに近い】がほぼ半  
 数ずつとなっている。

【図表 19】 自転車利用やヘルメット着用についての考え⑤（性別、年齢別）

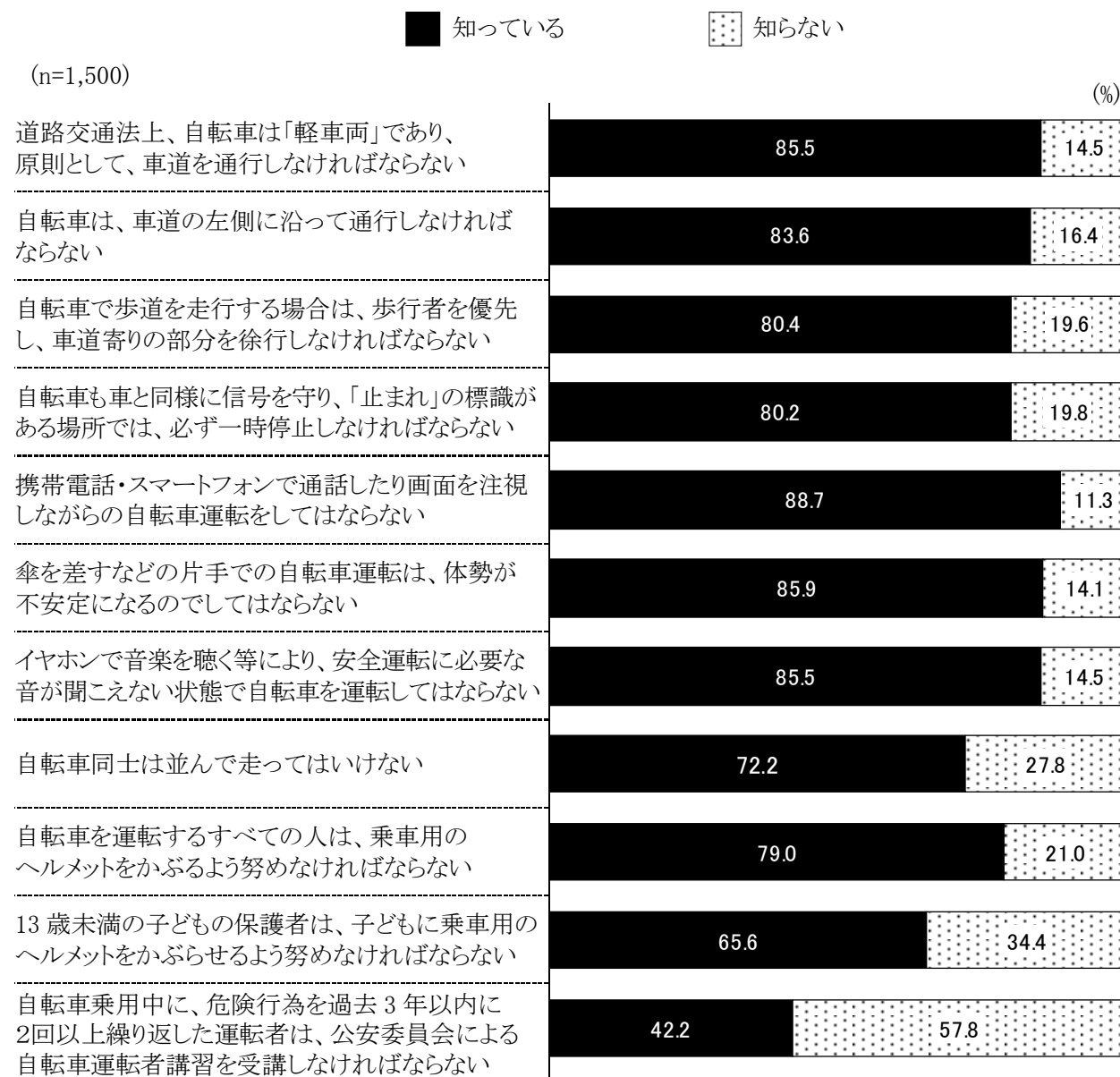


## (7) 自転車利用に関する交通ルールの認知状況

Q7. あなたは、次の自転車利用に関する交通ルールを知っていますか。

自転車利用に関する交通ルールについては、「知っている」の割合は「携帯電話・スマートフォンで通話したり画面を注視しながらの自転車運転をしてはならない」が88.7%と最も高く、「13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」(65.6%)、「自転車乗用中に、危険行為を過去3年以内に2回以上繰り返した運転者(14歳以上)は、公安委員会による自転車運転者講習を受講しなければならない」(42.2%)を除いた項目で、7割以上の認知率(「知っている」の割合)となっている。

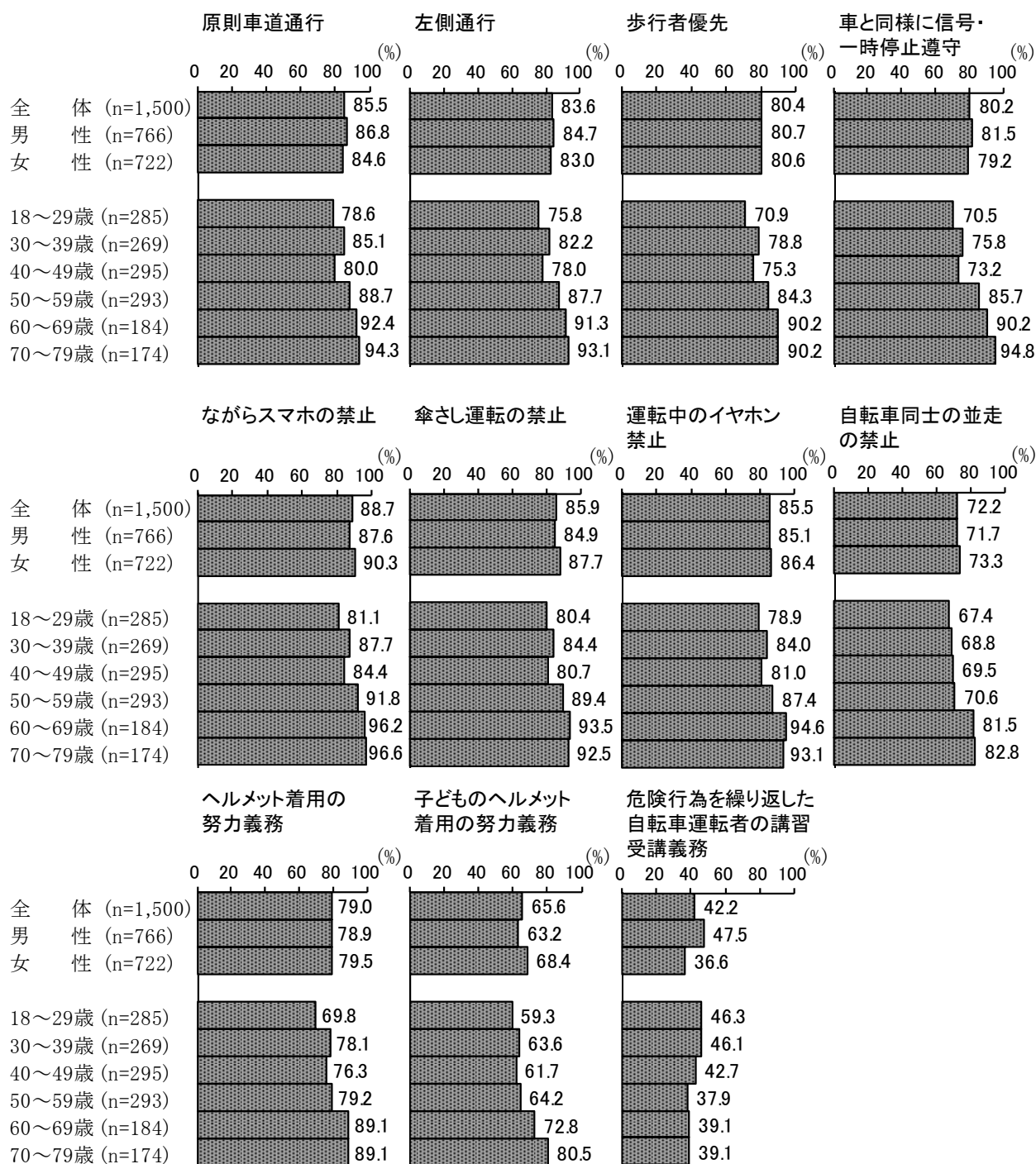
【図表 20】 自転車利用に関する交通ルールの認知状況



「知っている」と回答した割合を性別に見ると、「13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」では女性の方が高く、「自転車乗用中に、危険行為を過去3年以内に2回以上繰り返した運転者は、公安委員会による自転車運転者講習を受講しなければならない」では男性の方が高くなっているが、その他の項目では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「自転車乗用中に、危険行為を過去3年以内に2回以上繰り返した運転者は、公安委員会による自転車運転者講習を受講しなければならない」を除いた項目で、「知っている」の割合は概ね年齢が上がるほど高くなっている。

【図表 21】 自転車利用に関する交通ルールの認知状況（「知っている」回答者）  
（性別、年齢別）

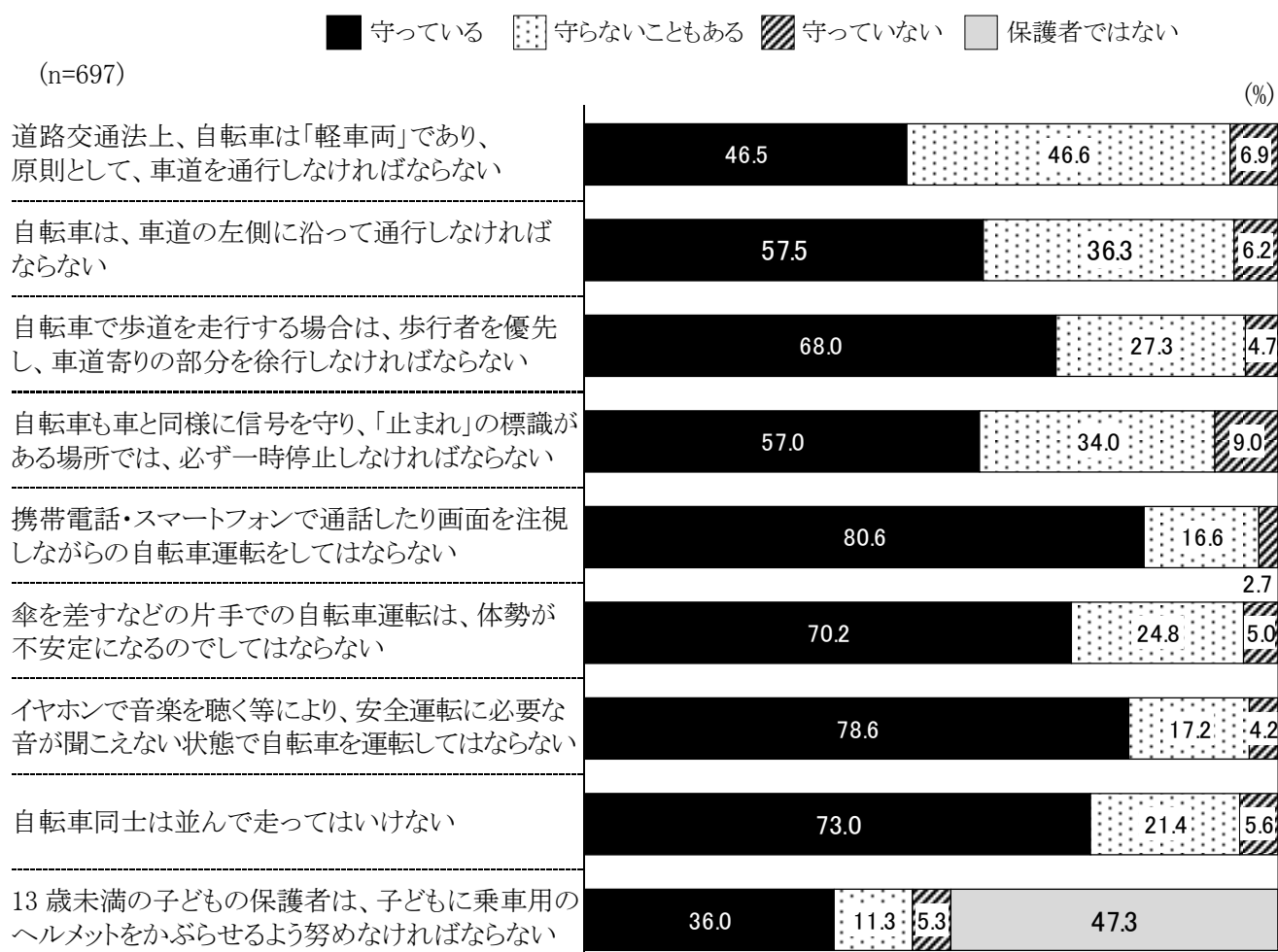


## (8) 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況

Q 8. あなたは、次の自転車利用に関する交通ルールを守っていますか。

自転車を利用している人に自転車利用に関する交通ルールを守っているかたずねたところ、「守っている」の割合は「携帯電話・スマートフォンで通話したり画面を注視しながらの自転車運転をしてはならない」が80.6%と最も高く、「イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で自転車を運転してはならない」(78.6%)も8割近くとなっている。一方で、「道路交通法上、自転車は「軽車両」であり、原則として、車道を通行しなければならない(歩道を通行できるのは例外)」については5割を超える人が「守らないこともある」または「守っていない」と回答している。

【図表 22】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況



※「保護者ではない」の選択肢は「13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」のみ設定

① 道路交通法上、自転車は「軽車両」であり、原則として、車道を通行しなければならない(歩道を通行できるのは例外)

性別では傾向に大きな差は見られない。

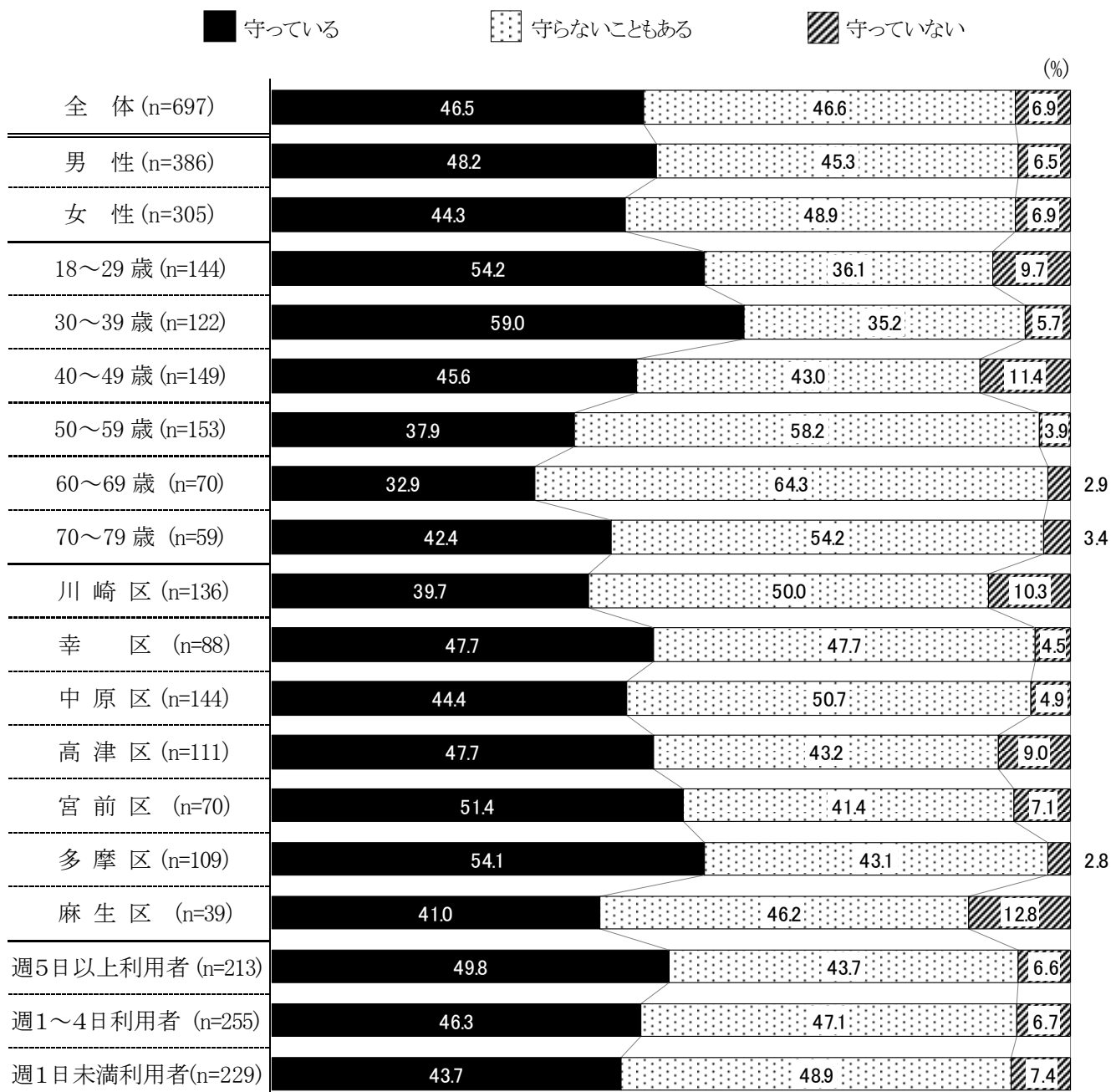
年齢別に見ると、「守っている」の割合は30～39歳が59.0%と最も高く、18～29歳でも5割台となっている。一方で、50～59歳と60～69歳では3割台と低い。

居住区別に見ると、「守っている」の割合は川崎区が4割を下回って最も低い。

自転車の利用状況別に見ると、利用頻度が高くなるほど「守っている」の割合が高くなっている。

【図表 23】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況 (性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別)

〔 道路交通法上、自転車は「軽車両」であり、原則として、車道を通行しなければならない (歩道を通行できるのは例外) 〕





## ② 自転車は、車道の左側に沿って通行しなければならない(車と同じように右側通行は禁止)

性別では傾向に大きな差は見られない。

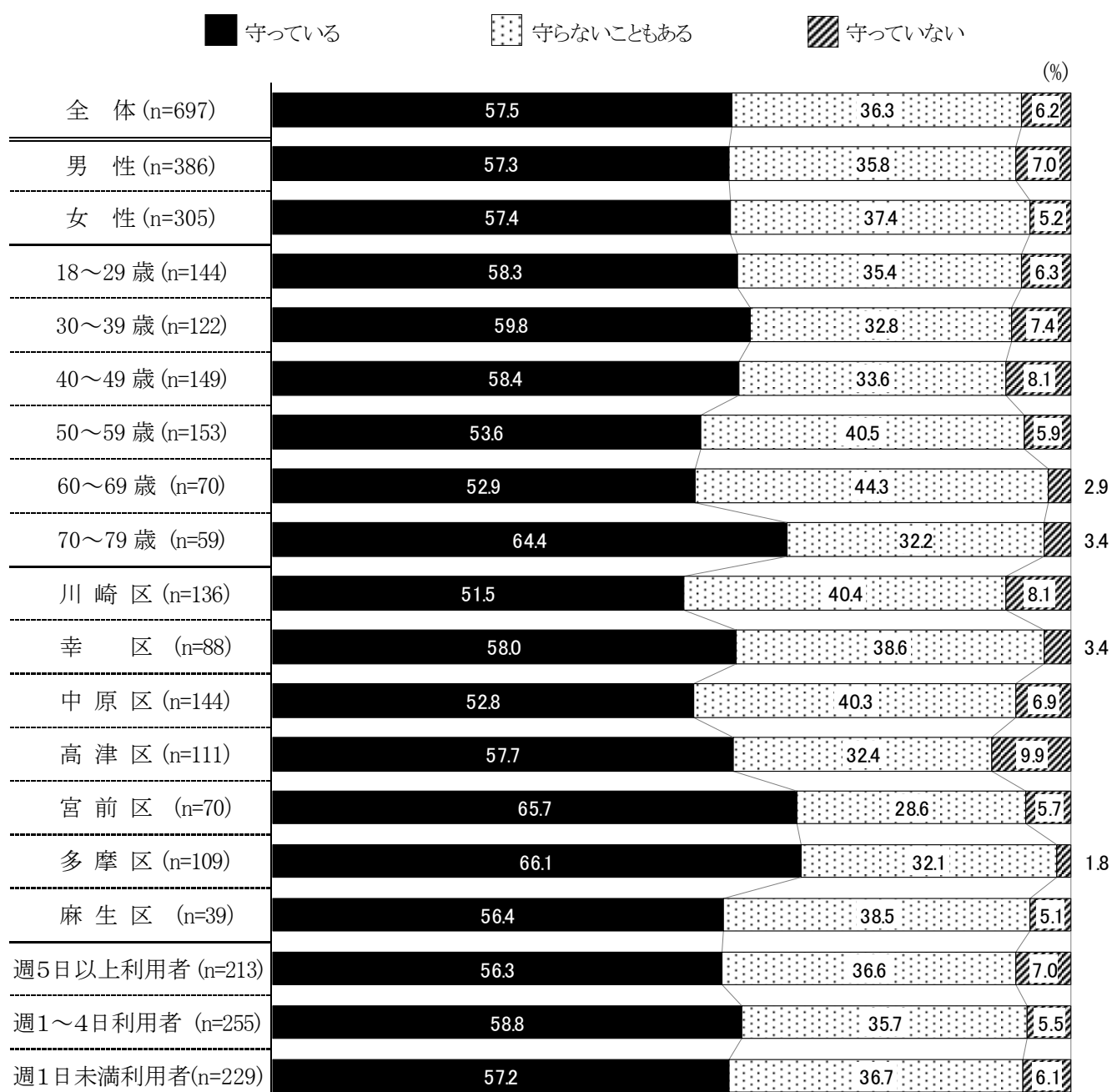
年齢別に見ると、「守っている」の割合は70～79歳が64.4%と最も高く、他の年代では5割台となっている。

居住区別に見ると、「守っている」の割合は宮前区と多摩区が6割を超えて高い。

自転車の利用状況別では傾向に大きな差は見られない。

【図表 24】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況（性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別）

〔 自転車は、車道の左側に沿って通行しなければならない（車と同じように右側通行は禁止） 〕

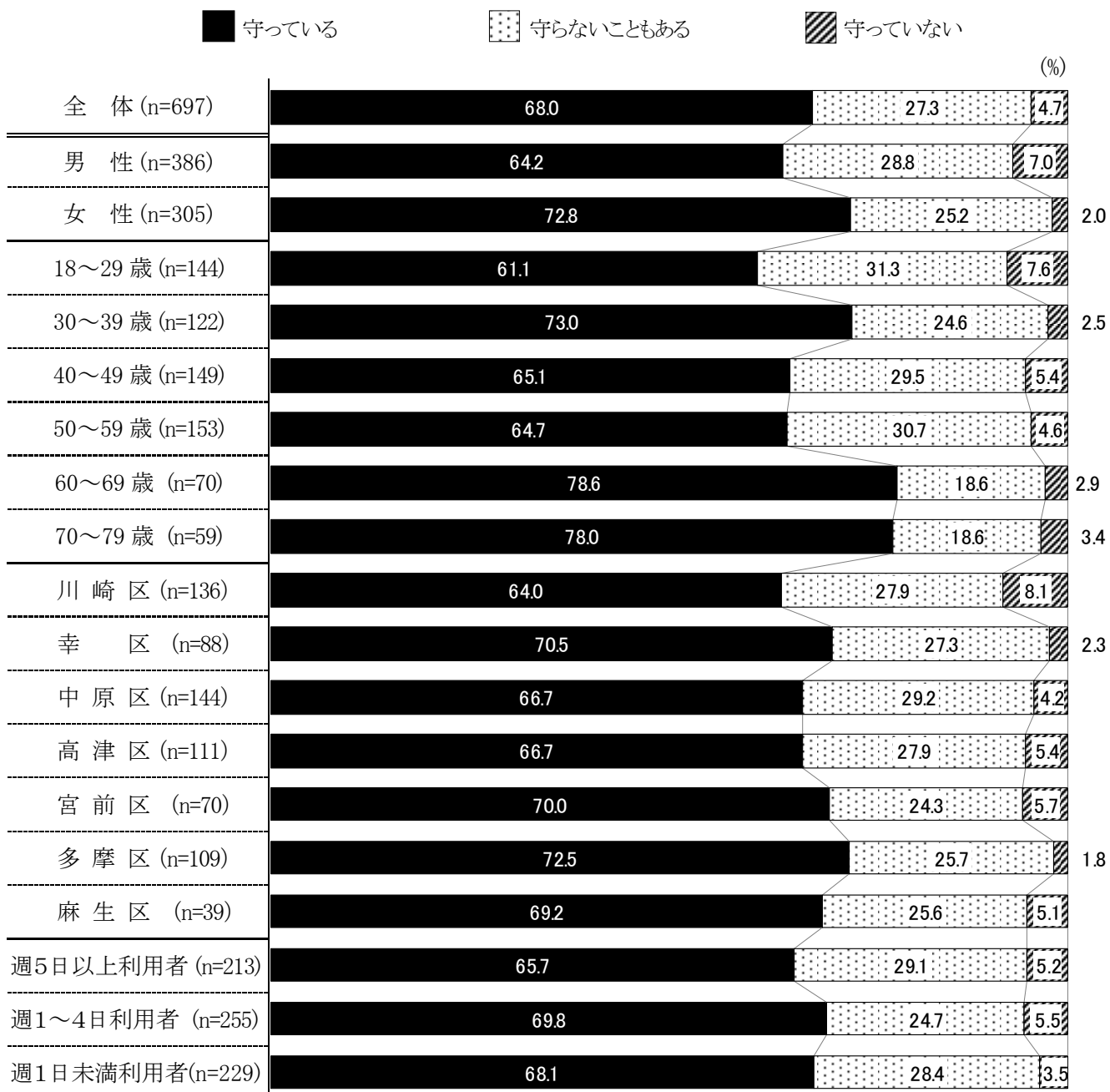


③ 自転車で歩道を走行する場合は、歩行者を優先し、車道寄りの部分を徐行しなければならない(歩行者にベルを鳴らしたり、スピードを上げて追い越したりするのはルール違反)

性別に見ると、「守っている」の割合は男性よりも女性の方が8.6ポイント高い。  
 年齢別に見ると、「守っている」の割合は30～39歳と60歳代以上が7割を超えている。  
 居住区別、自転車の利用状況別では傾向に大きな差は見られない。

【図表 25】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況 (性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別)

〔 自転車で歩道を走行する場合は、歩行者を優先し、車道寄りの部分を徐行しなければならない (歩行者にベルを鳴らしたり、スピードを上げて追い越したりするのはルール違反) 〕



#### ④ 自転車も車と同様に信号を守り、「止まれ」の標識がある場所では、必ず一時停止しなければならない

性別では傾向に大きな差は見られない。

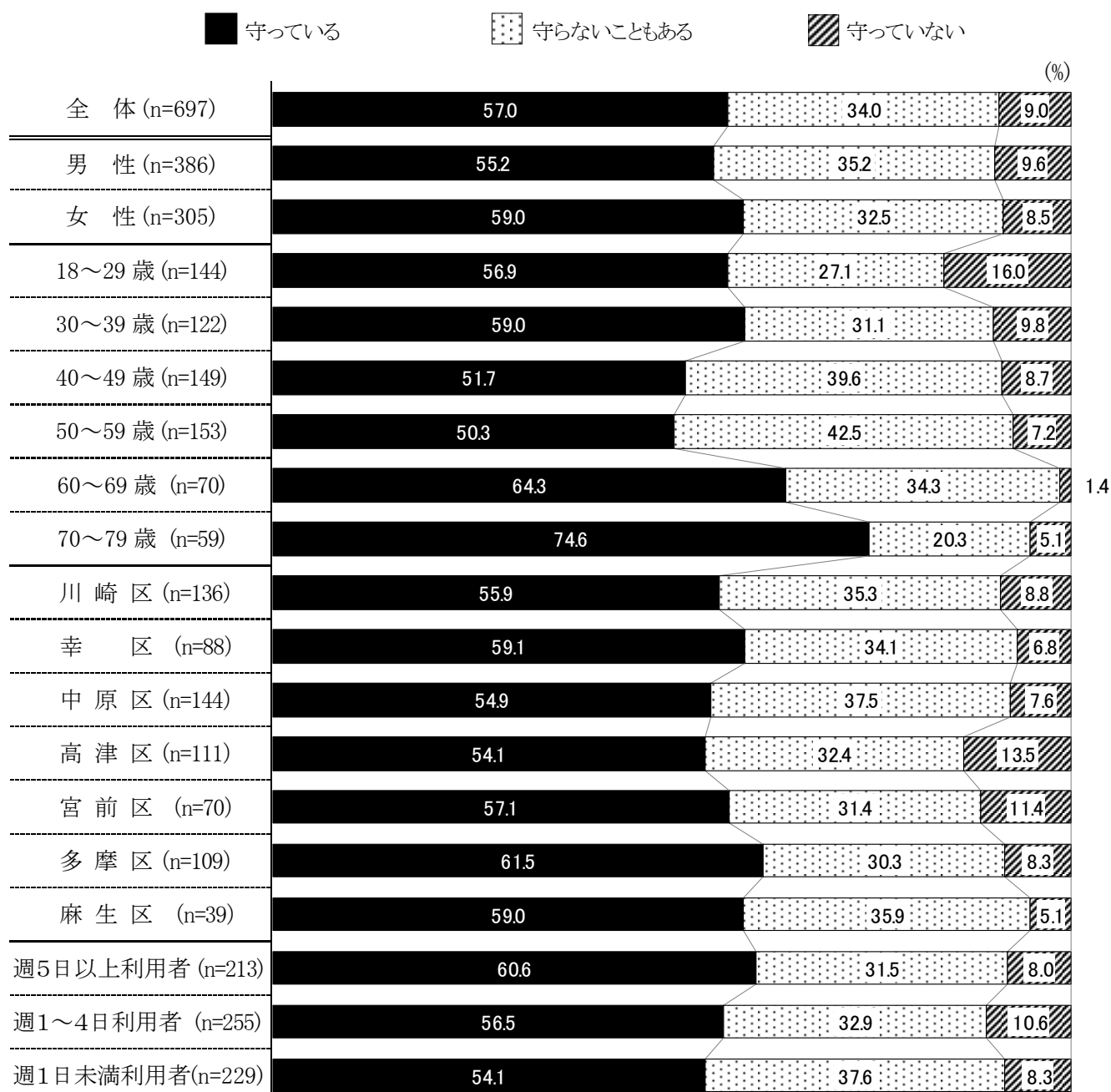
年齢別に見ると、「守っている」の割合は70～79歳が74.6%と最も高く、40～49歳と50～59歳では約5割と低い。

居住区別では傾向に大きな差は見られない。

自転車の利用状況別に見ると、利用頻度が高くなるほど「守っている」の割合が高くなっている。

【図表 26】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況（性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別）

〔 自転車も車と同様に信号を守り、「止まれ」の標識がある場所では、必ず一時停止しなければならない 〕



⑤ 携帯電話・スマートフォンで通話したり画面を注視しながらの自転車運転をしてはならない(ながらスマホの禁止)

性別に見ると、「守っている」の割合は男性よりも女性の方が13.0ポイント高い。

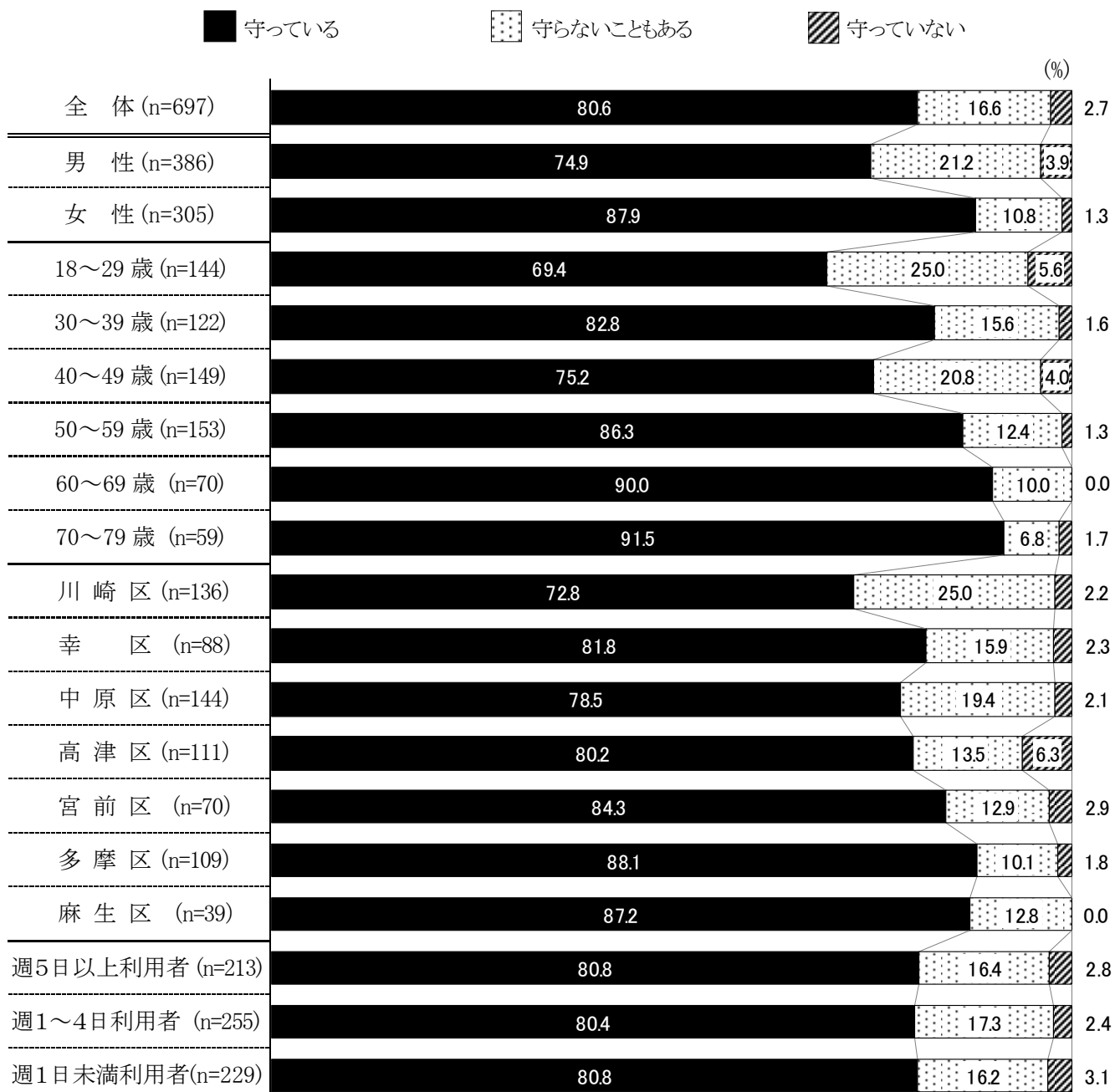
年齢別に見ると、「守っている」の割合は60歳代以上では約9割と高いが、18～29歳では7割を下回っている。

居住区別に見ると、「守っている」の割合は川崎区が72.8%と最も低く、中原区(78.5%)でも8割を下回っている。

自転車の利用状況別では傾向に大きな差は見られない。

【図表 27】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況(性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別)

携帯電話・スマートフォンで通話したり画面を注視しながらの自転車運転をしてはならない(ながらスマホの禁止)



## ⑥ 傘を差すなどの片手での自転車運転は、体勢が不安定になるのではない

性別に見ると、「守っている」の割合は男性よりも女性の方が14.3ポイント高い。

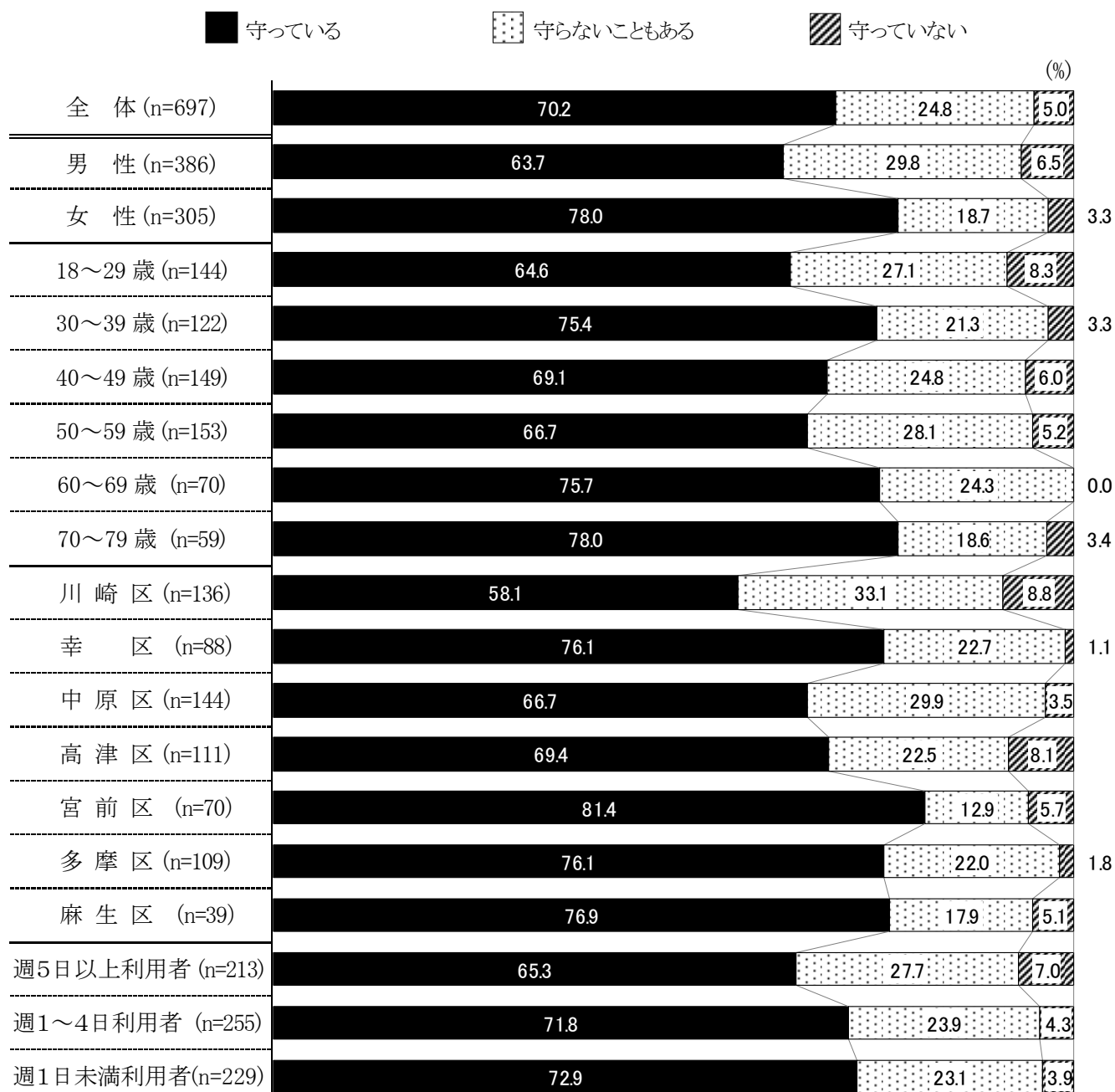
年齢別に見ると、「守っている」の割合は18～29歳が64.6%と最も低く、40～49歳（69.1%）と50～59歳（66.7%）も6割台に留まっている。

居住区別に見ると、「守っている」の割合は宮前区（81.4%）が8割を超えて最も高く、川崎区が58.1%と最も低い。

自転車の利用状況別に見ると、「守っている」の割合は週5日以上利用者が65.3%と、週4日以下の利用者比べて低くなっている。

【図表 28】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況（性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別）

〔 傘を差すなどの片手での自転車運転は、体勢が不安定になるのではない 〕



⑦ イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で自転車を運転してはならない

性別に見ると、「守っている」の割合は男性よりも女性の方が11.9ポイント高い。

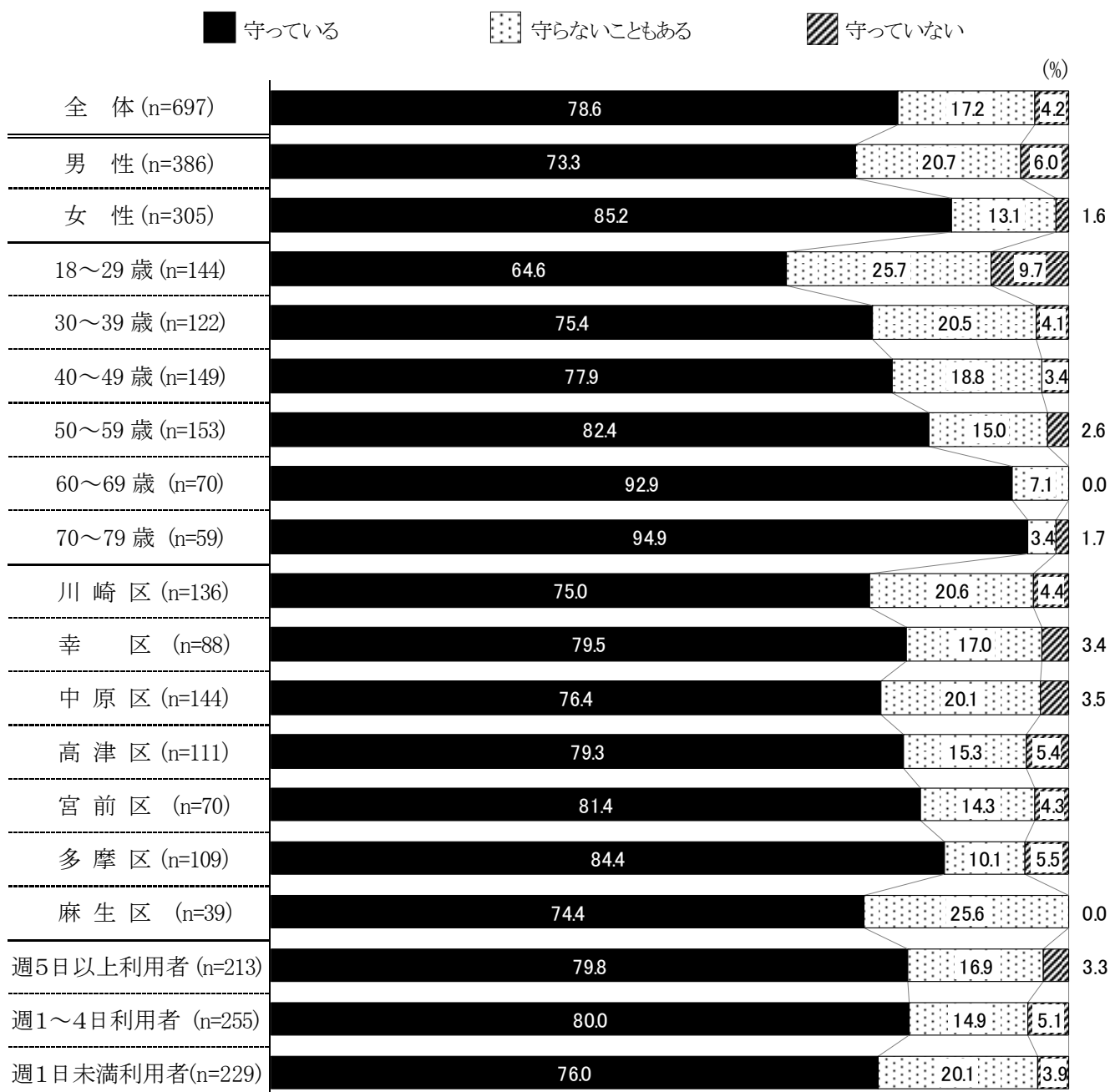
年齢別に見ると、「守っている」の割合は年齢が上がるほど高くなっており、60歳代以上では9割を超えている。

居住区別に見ると、「守っている」の割合は多摩区が84.4%と最も高く、宮前区(81.4%)でも8割を超えている。

自転車の利用状況別に見ると、「守っている」の割合は週1日未満利用者が76.0%と、週1日以上の利用者と比べてやや低くなっている。

【図表 29】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況（性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別）

（イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で自転車を運転してはならない）



### ⑧ 自転車同士は並んで走ってはいけない

性別に見ると、「守っている」の割合は男性よりも女性の方が8.5ポイント高い。

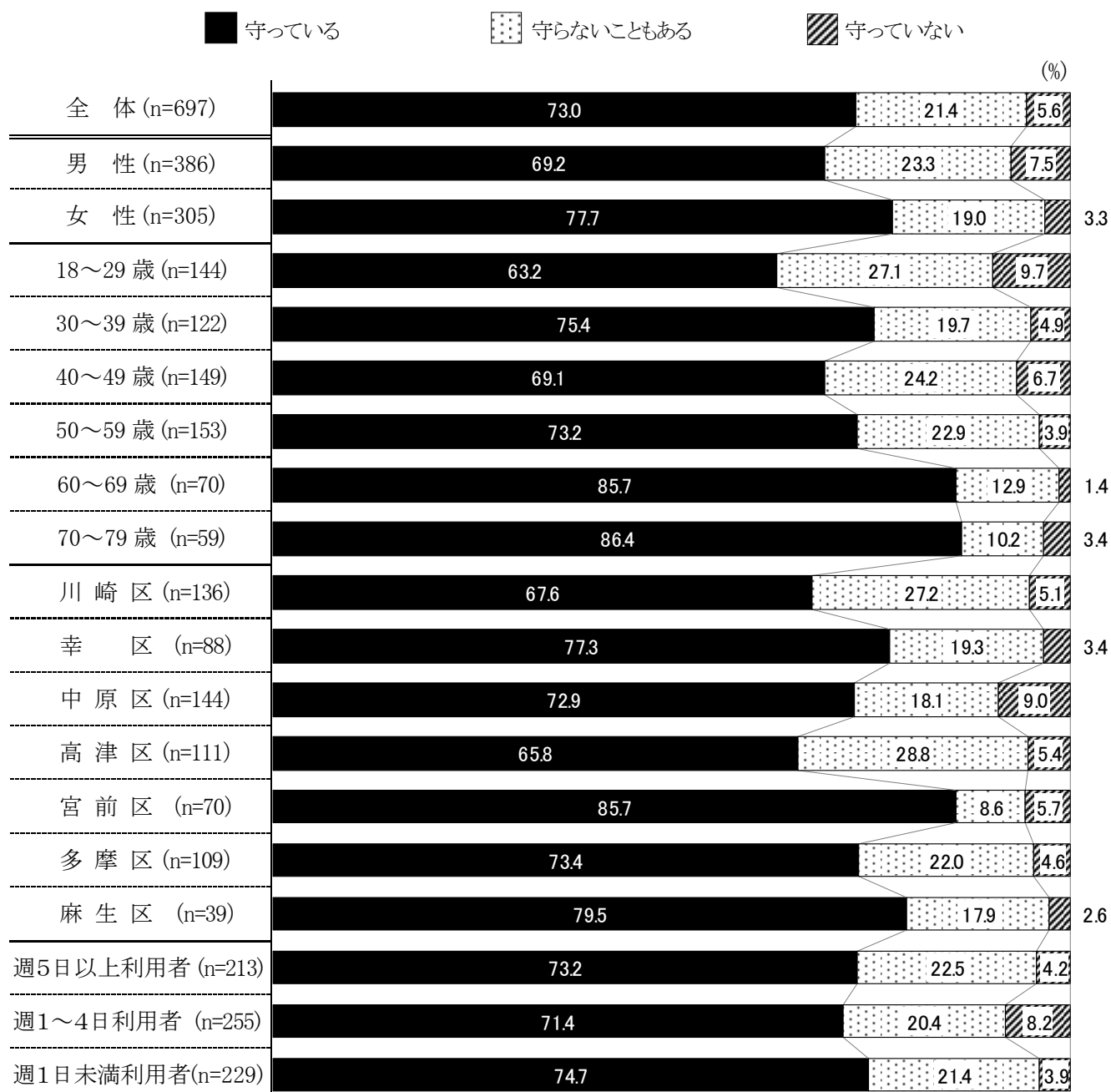
年齢別に見ると、30～39歳を除き、年齢が上がるほど「守っている」の割合が高く、60歳代以上では8割台半ばとなっている。

居住区別に見ると、「守っている」の割合は宮前区が85.7%と最も高く、高津区(65.8%)と川崎区(67.6%)では6割台に留まっている。

自転車の利用状況別では傾向に大きな差は見られない。

【図表 30】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況（性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別）

[ 自転車同士は並んで走ってはいけない ]



⑨ 13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない

「保護者ではない」と回答した人を除き、性別に見ると、「守っている」の割合は男性よりも女性の方が14.2ポイント高い。

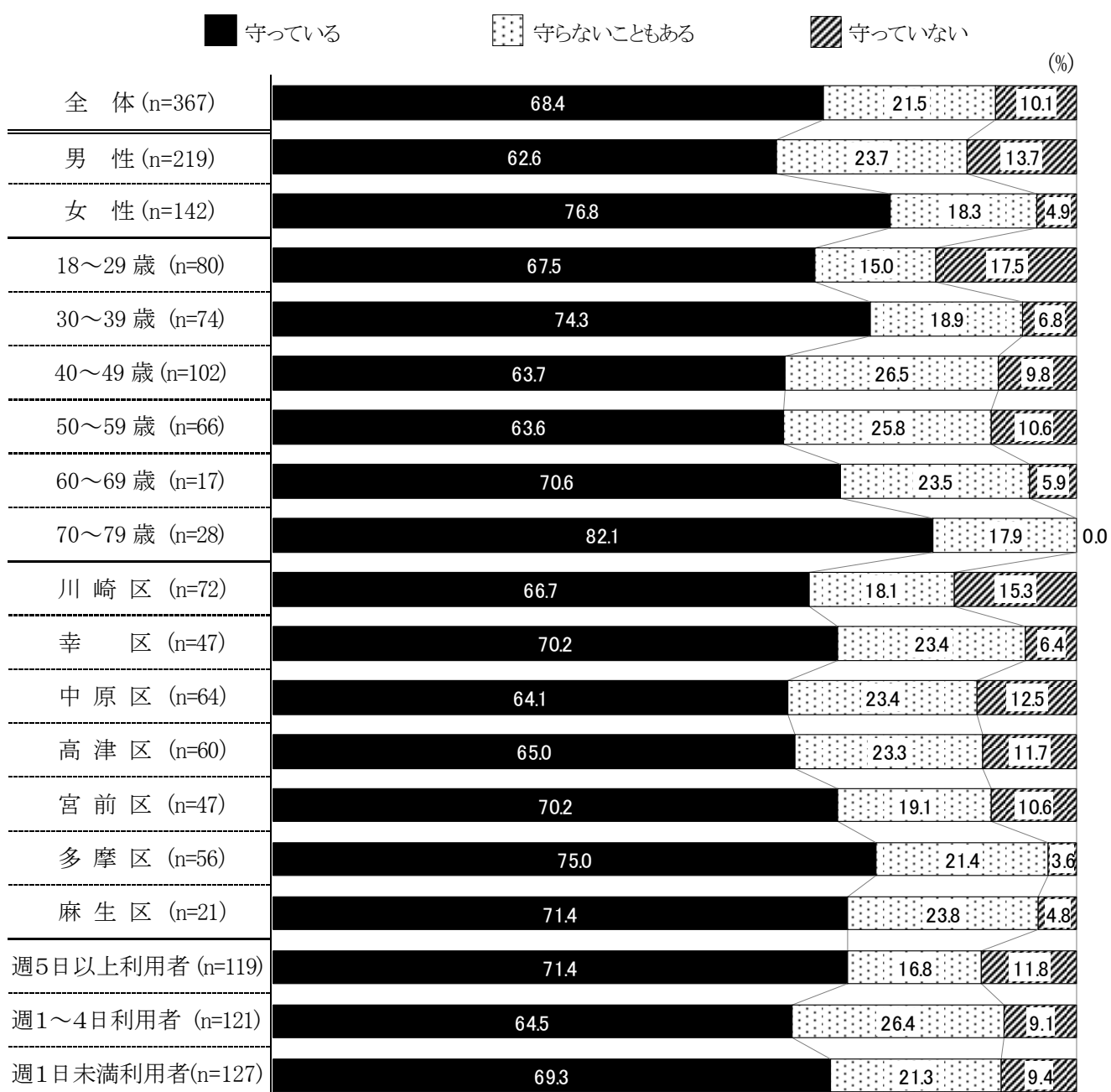
年齢別に見ると、30～39歳で「守っている」の割合が7割を超え、高くなっている。

居住区別に見ると、いずれの区も「守っている」の割合は6割台半ば～7割台半ばとなっている。

自転車の利用状況別に見ると、「守っている」の割合は、週5日以上利用者と週1日未満利用者では約7割、週1～4日利用者では6割台半ばとなっている。

【図表 31】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況（性別、年齢別、居住区別、自転車利用状況別）

〔13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない〕



※このグラフの値については「保護者ではない」回答者を除いて算出している。

※年齢別の60歳代以上、居住区別の「麻生区」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。



## 1.2 文化芸術について

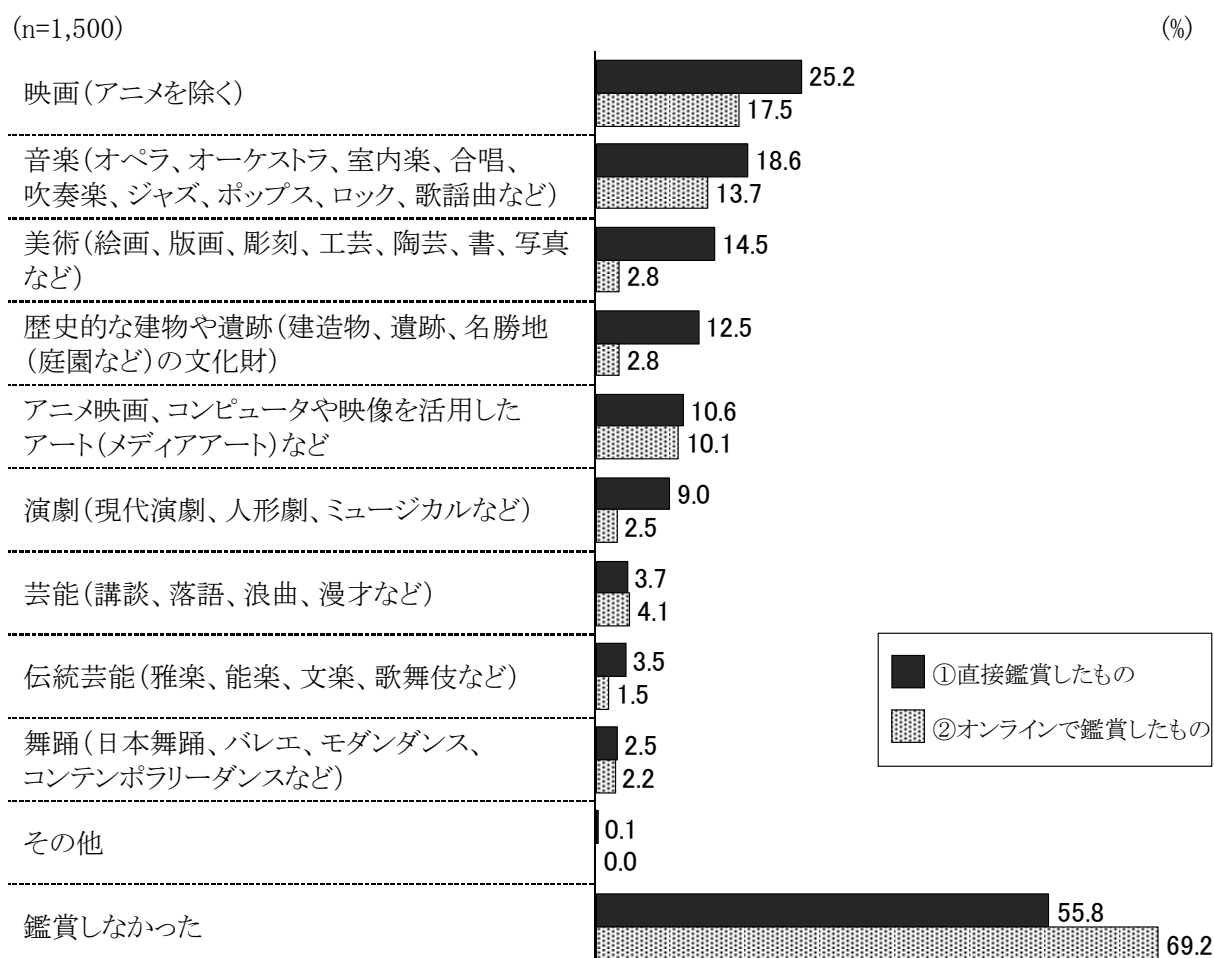
### (1) 過去1年間の、鑑賞した文化芸術の状況

Q9. あなたが、過去1年間に、鑑賞した文化芸術などがありますか。①②の項目ごとにあてはまるものをすべて選んでください。

- ①ホール・劇場、映画館、美術館などで直接鑑賞したもの
- ②オンライン（インターネット）で鑑賞したもの

【直接鑑賞したもの】、【オンラインで鑑賞したもの】ともに「鑑賞しなかった」が最も高くなっている。鑑賞したものとしては、【直接鑑賞したもの】では「映画（アニメを除く）」が25.2%と最も高く、次いで「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」（18.6%）、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」（14.5%）と続いている。【オンラインで鑑賞したもの】でも「映画（アニメを除く）」（17.5%）と「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」（13.7%）が上位2項目となっているが、第3位は「アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」（10.1%）となっている。

【図表 32】 過去1年間の、鑑賞した文化芸術の状況（複数回答）



【直接鑑賞したもの】について令和3年度第1回調査（インターネット調査）の結果と比較すると、「鑑賞しなかった」が前回の令和3年度調査から18.0ポイント減少している。また、そのほかの項目ではすべて増加し、特に「映画（アニメを除く）」では13.8ポイントの増加となった。新型コロナウイルス感染拡大前の平成30年度調査第1回調査（インターネット調査）の水準には届いていないものの、回復傾向となっている。

【図表 33】 過去1年間の、鑑賞した文化芸術の状況【直接鑑賞したもの】（複数回答）  
（過去調査との比較）

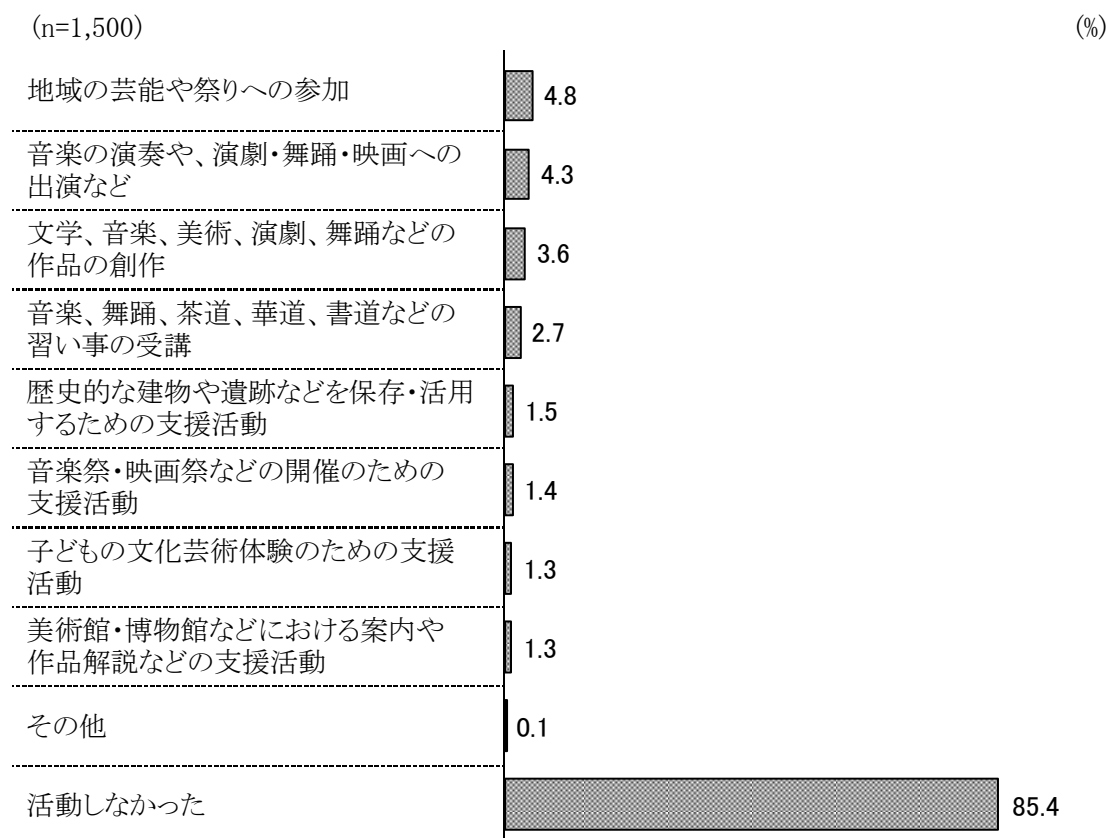
	令和5年度 (n=1,500)	令和3年度 (n=1,500)	平成30年度 (n=1,500)	令和3年度 からの増減
映画(アニメを除く)	25.2%	11.4%	35.1%	13.8
音楽(オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など)	18.6%	10.7%	21.7%	7.9
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など)	14.5%	5.9%	21.3%	8.6
歴史的な建物や遺跡(建造物、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財)	12.5%	4.8%	19.4%	7.7
アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート(メディアアート)など	10.6%	4.7%	11.4%	5.9
演劇(現代演劇、人形劇、ミュージカルなど)	9.0%	4.3%	10.4%	4.7
芸能(講談、落語、浪曲、漫才など)	3.7%	1.3%	3.5%	2.4
伝統芸能(雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など)	3.5%	1.0%	3.8%	2.5
舞踊(日本舞踊、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど)	2.5%	1.4%	3.0%	1.1
その他	0.1%	0.0%	0.5%	0.1
鑑賞しなかった	55.8%	73.8%	36.2%	▲18.0
公開講座や市民大学等の学びの場	-	1.4%	-	-
わからない	-	-	4.7%	-

## (2) 過去1年間の、文化芸術に関わる活動の状況

Q10. あなたが、過去1年間に行った創作や出演、習い事などやボランティアとして、文化芸術に関わる活動はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

「活動しなかった」が85.4%と最も高くなっている。活動したものとしては、「地域の芸能や祭りへの参加」(4.8%)、「音楽の演奏や、演劇・舞踊・映画への出演など」(4.3%)、「文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作」(3.6%) などとなっている。

【図表 34】 過去1年間の、文化芸術に関わる活動の状況（複数回答）



過去1年間の文化芸術に関わる活動状況について令和3年度第1回調査（インターネット調査）結果と比較すると、「地域の芸能や祭りへの参加」が3.1ポイント増加しているが、それ以外の項目では特に大きな変化は見られない。

【図表 35】 過去1年間の、文化芸術に関わる活動の状況（複数回答）  
（過去調査との比較）

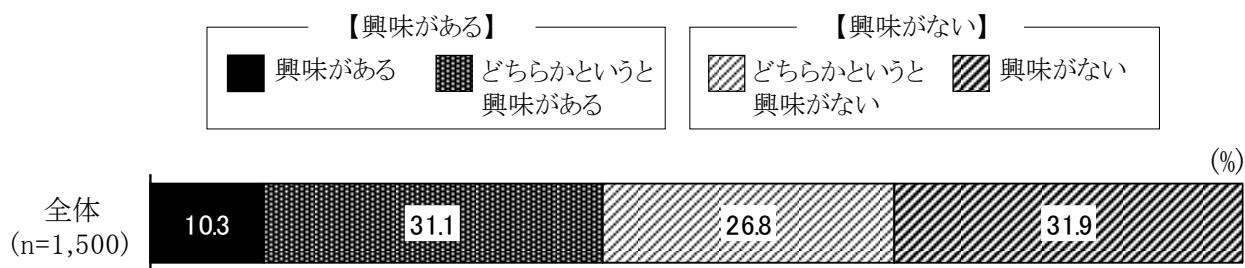
	令和5年度 (n=1,500)	令和3年度 (n=1,500)	平成30年度 (n=1,500)	令和3年度 からの増減
地域の芸能や祭りへの参加	4.8%	1.7%	4.3%	3.1
音楽の演奏や、演劇・舞踊・映画への出演など	4.3%	3.9%	5.1%	0.4
文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作	3.6%	4.4%	4.2%	▲ 0.8
音楽、舞踊、茶道、華道、書道などの習い事の受講	2.7%	3.8%	4.1%	▲ 1.1
歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	1.5%	1.5%	0.9%	0.0
音楽祭・映画祭などの開催のための支援活動	1.4%	1.1%	1.0%	0.3
子どもの文化芸術体験のための支援活動	1.3%	1.9%	1.8%	▲ 0.6
美術館・博物館などにおける案内や作品解説などの支援活動	1.3%	1.5%	1.3%	▲ 0.2
その他	0.1%	0.1%	0.5%	0.0
活動しなかった	85.4%	86.7%	78.1%	▲ 1.3
わからない	-	-	6.5%	-

### (3) 文化芸術への興味

Q11. あなたは「文化芸術活動等」に対してどの程度興味がありますか。

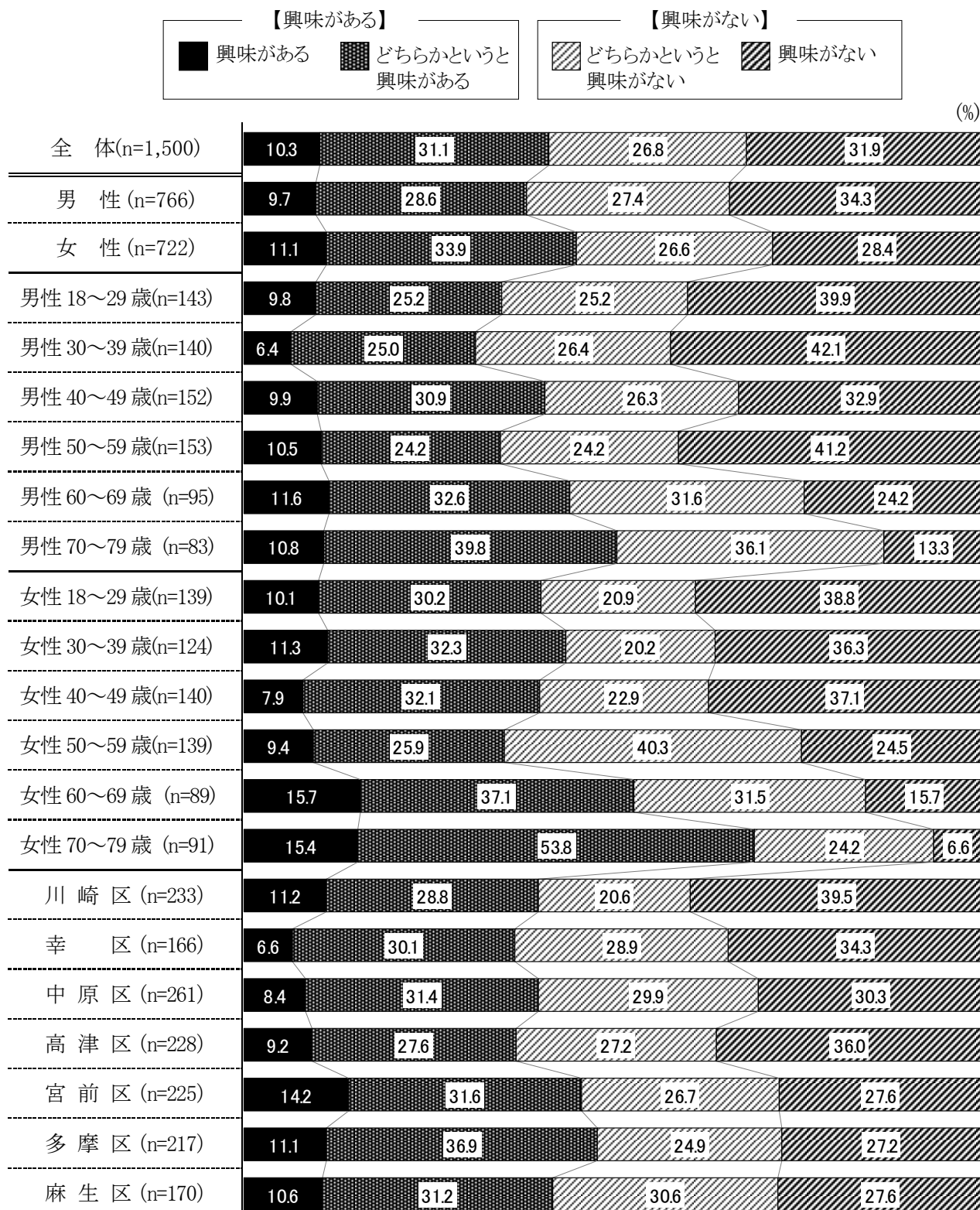
「興味がある」と「どちらかというに興味がある」を合計した【興味がある】は41.3%、「どちらかというに興味がない」と「興味がない」を合計した【興味がない】は58.7%であった。

【図表 36】文化芸術への興味



性別に見ると、【興味がある】は男性（38.3%）よりも女性（45.0%）の方が6.7ポイント高い。性／年齢別に見ると、【興味がある】は男女ともに70～79歳が最も高く、特に女性70～79歳（69.2%）は約7割となっている。一方で、男性18～29歳（35.0%）、男性30～39歳（31.4%）、男性50～59歳（34.6%）、女性50～59歳（35.3%）では3割台と、他の性／年齢と比べて低い。居住区別で見ると、【興味がある】は多摩区（47.9%）が最も高くなっている。

【図表 37】文化芸術への興味（性／年齢別、居住区別）



Q9の「過去1年間の鑑賞した文化芸術の状況」とQ11の「文化芸術への興味」の回答状況から、対象者を以下の3つのグループに分類した。

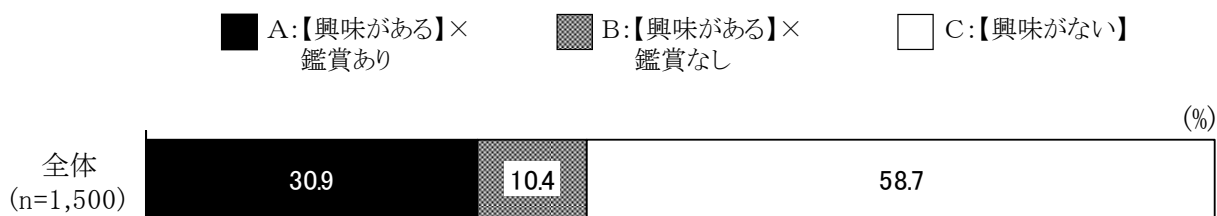
鑑賞・受講の状況について

- A 「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間の鑑賞（直接・オンラインいずれか）あり」
- B 「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間の鑑賞（直接・オンラインいずれも）なし」
- C 「文化芸術に【興味がない】」

		Q9 過去1年間の鑑賞した文化芸術の状況	
		直接・オンラインいずれか 鑑賞あり	直接・オンラインいずれも 鑑賞なし
Q11 文化芸術への興味	興味がある	A	B
	どちらかという と興味がある		
	どちらかという と興味がない	C	
	興味がない		

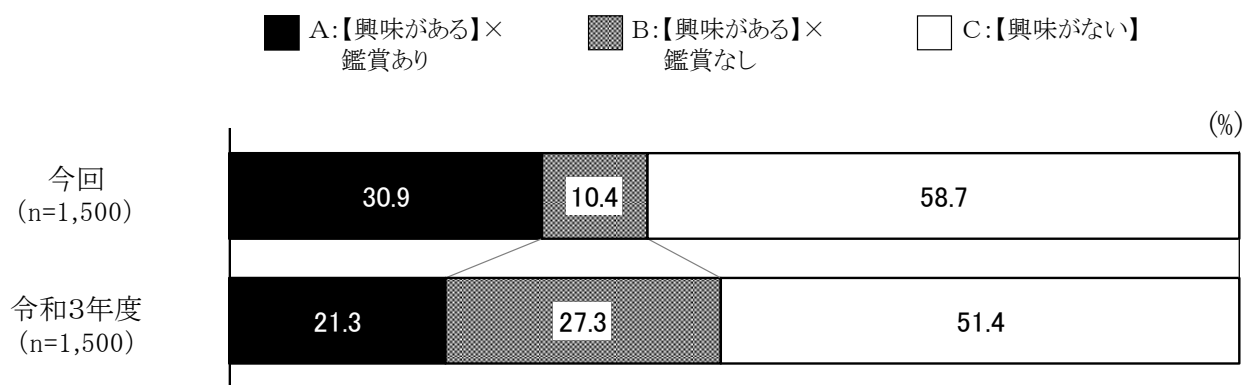
全体 (n=1,500) のうち、Cの「文化芸術に【興味がない】」グループが 58.7%と最も高く、次いでAの「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間の鑑賞（直接・オンラインいずれか）あり」グループが 30.9%、Bの「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間の鑑賞（直接・オンラインいずれも）なし」グループが 10.4%であった。

【図表 38】文化芸術への興味と過去1年間の鑑賞した文化芸術の状況



令和3年度第1回調査（インターネット調査）の結果と比較すると、文化芸術に【興味がある】（AとBの合計）の割合は下がっているものの、Aの「文化芸術に【興味がある】かつ「過去1年間の鑑賞（直接・オンラインいずれか）あり」グループが9.6ポイント増加し、Bの「文化芸術に【興味がある】かつ「過去1年間の鑑賞（直接・オンラインいずれか）なし」グループは16.9ポイント減少している。

【図表 39】文化芸術への興味と過去1年間の鑑賞した文化芸術の状況（過去調査との比較）



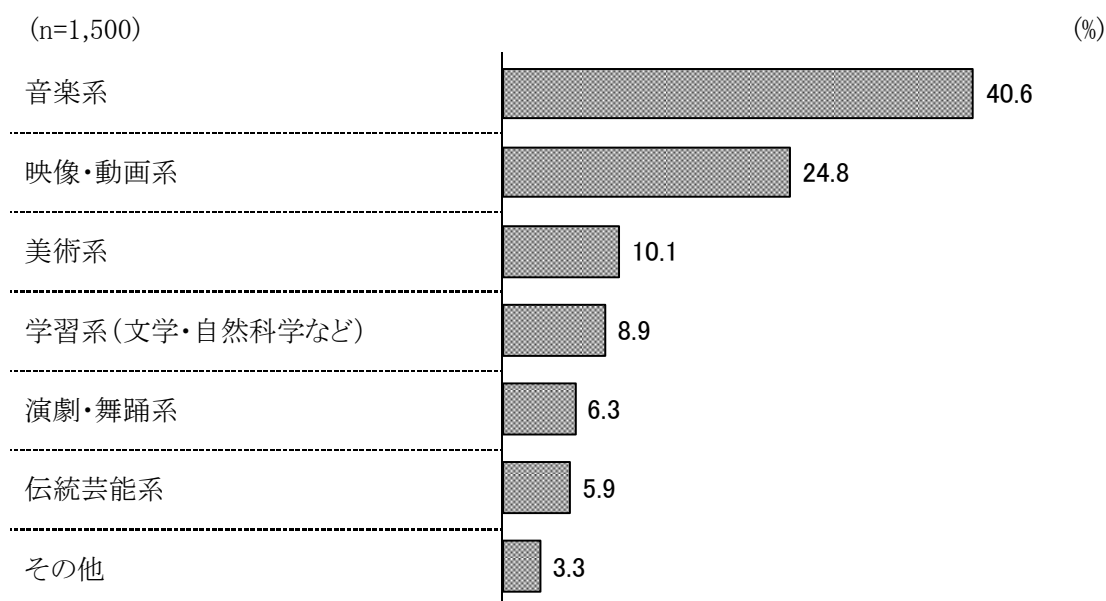


#### (4) 興味を持っている芸術文化活動のジャンル

Q12. あなたが、次の芸術文化活動のジャンルの中で最も興味があるものを1つ選んでください。

最も興味があるジャンルについては、「音楽系」が40.6%と最も高く、次いで「映像・動画系」(24.8%)、「美術系」(10.1%)、「学習系(文学・自然科学など)」(8.9%)と続いている。

【図表 40】最も興味のある芸術文化活動のジャンル



**(5) 文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント**

Q13. 文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイントとして、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① 【Bに近い】が56.0%と、「空いた時間にすぐに鑑賞や活動をしたい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。
- ② 【Bに近い】が60.7%と、「質の高さよりも費用負担が少なく鑑賞や活動をしたい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。
- ③ 【Aに近い】が58.9%と、「市内などの身近な場所で鑑賞や活動をしたい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。
- ④ 【Aに近い】「友人や家族など多くの人達と楽しみたい」が48.9%、【Bに近い】「一人で楽しみたい」が51.1%と、ほぼ半数ずつであった。
- ⑤ 【Aに近い】「自宅以外で雰囲気を含め鑑賞や活動をしたい」が52.9%、【Bに近い】「自宅で鑑賞や活動をしたい」が47.1%と、ほぼ半数ずつであった。
- ⑥ 【Bに近い】が60.9%と、「興味のある文化芸術の情報のみで十分である」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

**【図表 41】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント**



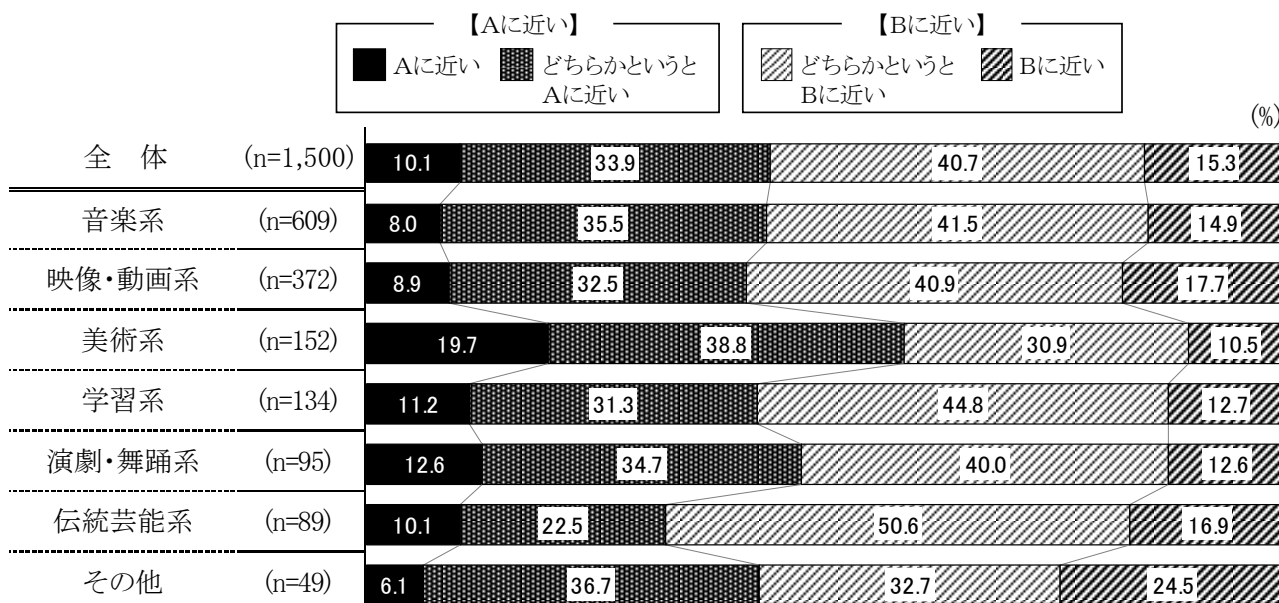
(n=1,500)

《Aの考え方》	(%)				《Bの考え方》
① 時間を作って集中的に鑑賞や活動をしたい	10.1	33.9	40.7	15.3	空いた時間にすぐに鑑賞や活動をしたい
② 費用負担が多くても質の高い鑑賞や活動をしたい	6.4	32.9	44.3	16.3	質の高さよりも費用負担が少なく鑑賞や活動をしたい
③ 市内などの身近な場所で鑑賞や活動をしたい	13.5	45.3	31.7	9.5	市外であっても鑑賞や活動をしたい
④ 友人や家族など多くの人達と楽しみたい	10.6	38.3	35.5	15.5	一人で楽しみたい
⑤ 自宅以外で雰囲気を含め鑑賞や活動をしたい	9.4	43.5	34.3	12.7	自宅で鑑賞や活動をしたい
⑥ 様々な文化芸術の情報が必要である	5.8	33.3	43.9	16.9	興味のある文化芸術の情報のみで十分である

① A:時間を作って集中的に鑑賞や活動をしたい  
B:空いた時間にすぐに鑑賞や活動をしたい

Q12の「最も興味のある芸術文化活動のジャンル別」別に見ると、「美術系」では【Aに近い】が58.6%と6割近くを占めているが、その他のジャンルでは【Bに近い】の方が高く、「伝統芸能系」では【Bに近い】が67.4%と最も高い。

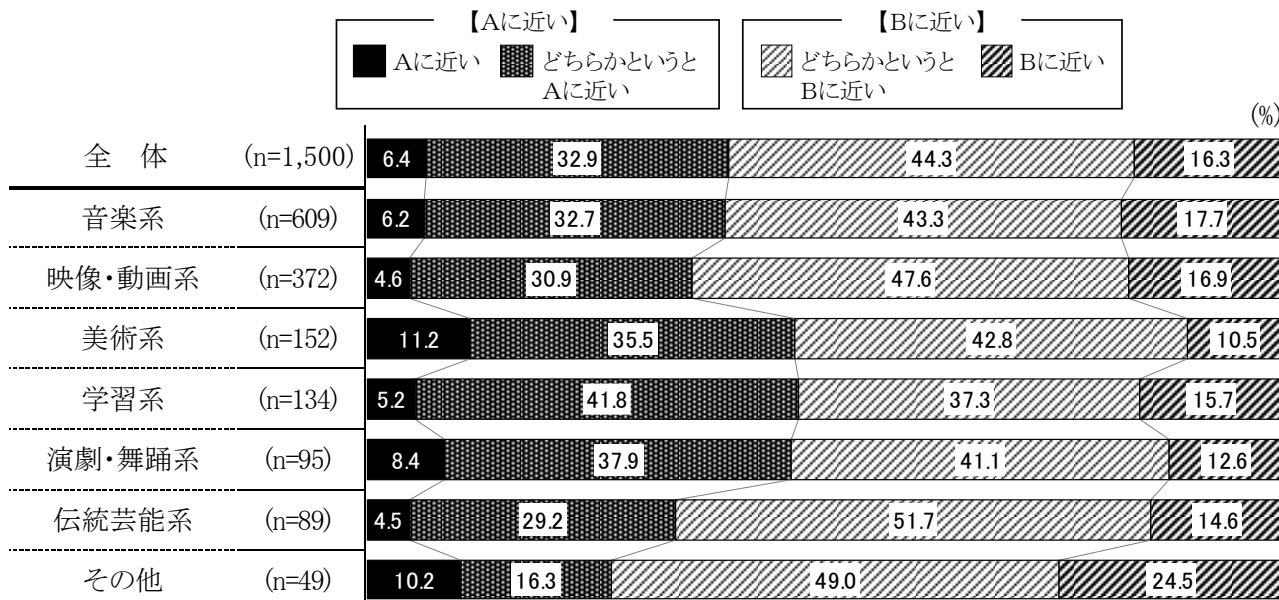
【図表 42】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント①（最も興味のある芸術文化活動のジャンル別）



② A:費用負担が多くても質の高い鑑賞や活動をしたい  
B:質の高さよりも費用負担が少なく鑑賞や活動をしたい

Q12の「最も興味のある芸術文化活動のジャンル別」別に見ると、全てのジャンルで【Bに近い】の方が高くなっているが、「音楽系」、「映像・動画系」、「伝統芸能系」では【Bに近い】が6割以上となっている。

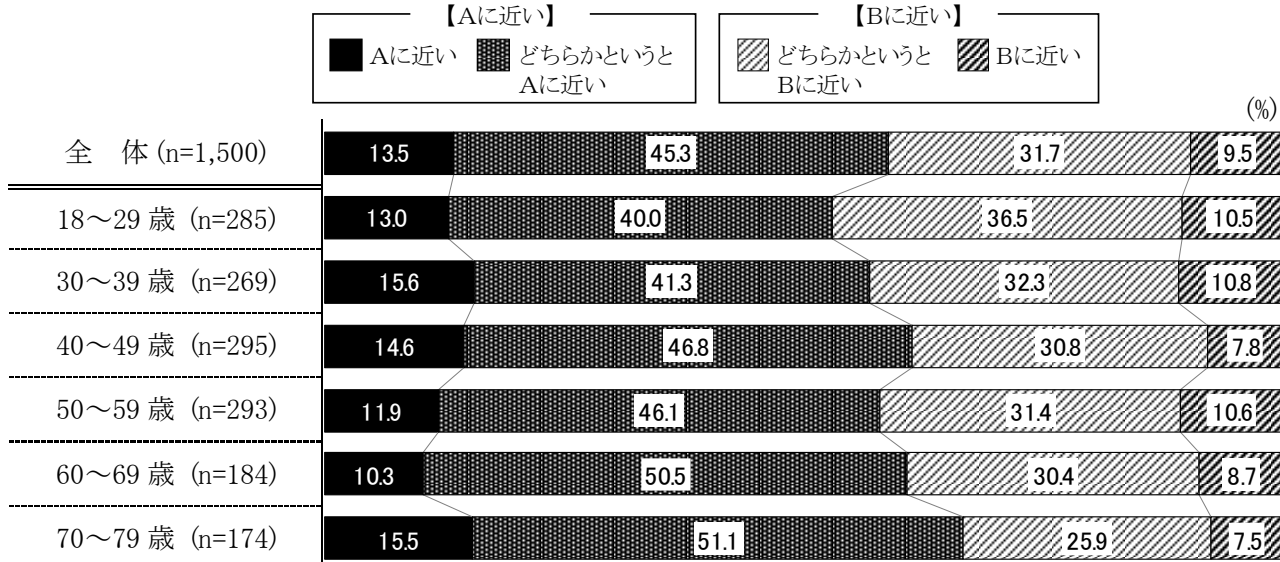
【図表 43】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント②（最も興味のある芸術文化活動のジャンル別）



③ A:市内などの身近な場所で鑑賞や活動をしたい  
 B:市外であっても鑑賞や活動をしたい

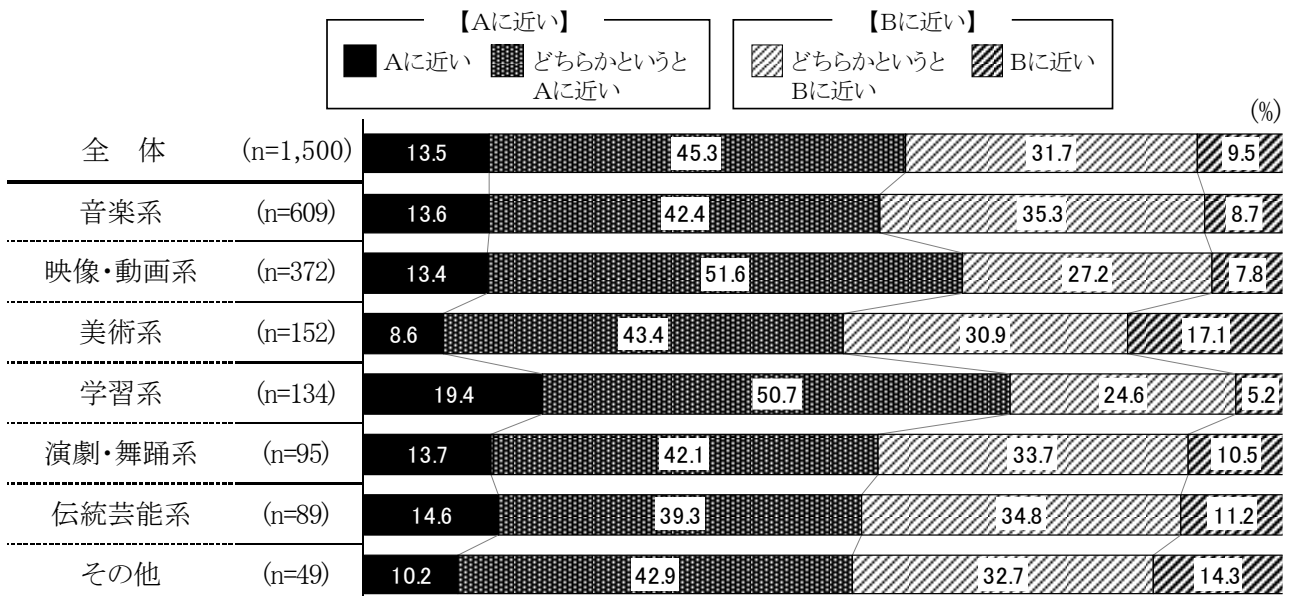
年齢別に見ると、【Aに近い】は18～29歳(53.0%)が最も低く、概ね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 44】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント③ (年齢別)



Q12の「最も興味のある芸術文化活動のジャンル別」別に見ると、「学習系」で【Aに近い】が70.1%と最も高く、次いで「映像・動画系」(65.1%)が6割台となっている。また、「美術系」では「Bに近い」が17.1%と他のジャンルと比べて最も高い。

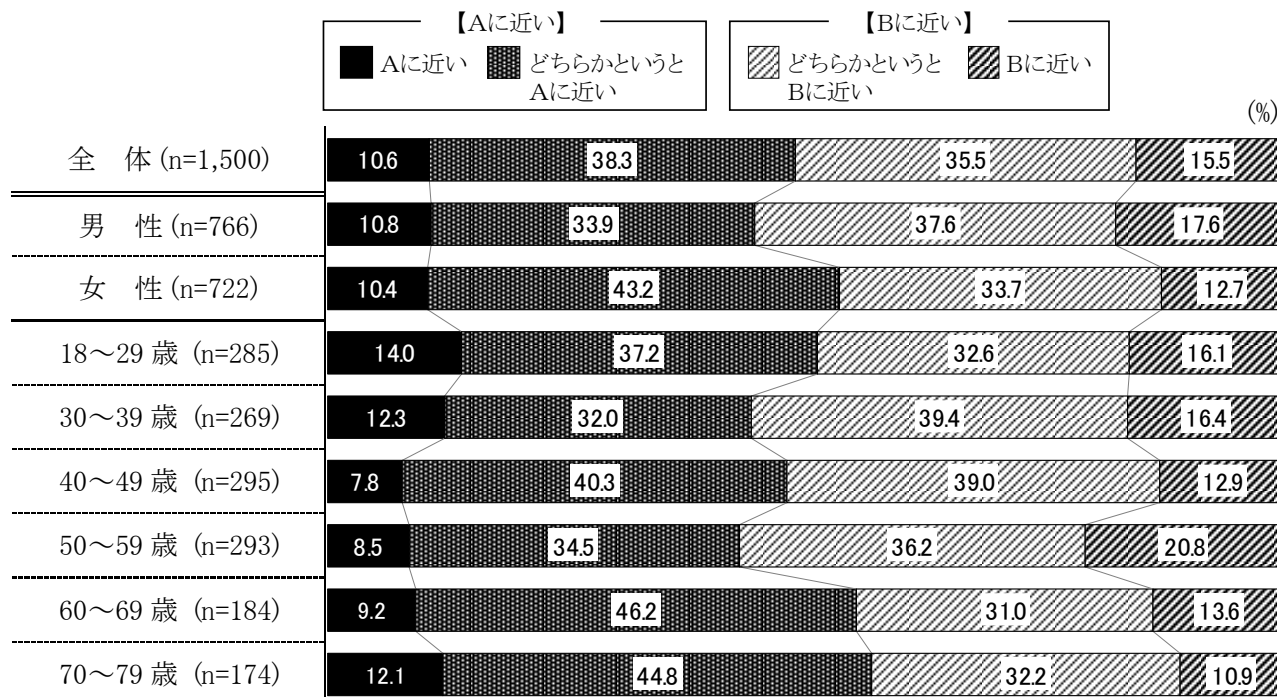
【図表 45】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント③ (最も興味のある芸術文化活動のジャンル別)



④ A:友人や家族など多くの人達と楽しみたい  
B:一人で楽しみたい

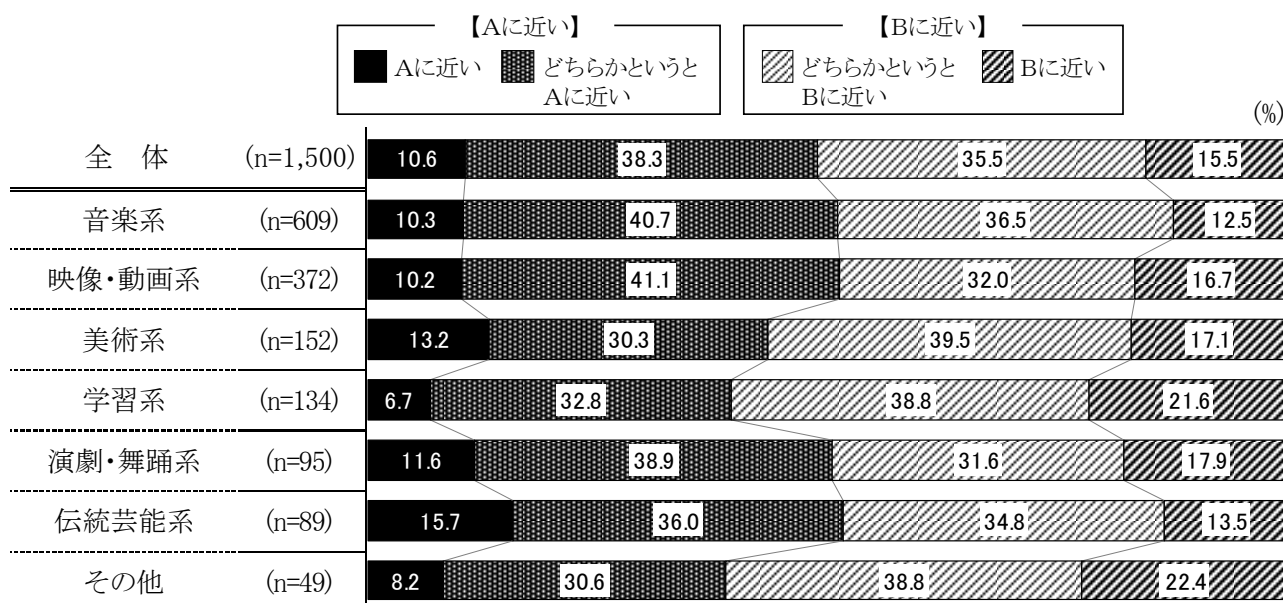
性別に見ると、【Aに近い】は男性（44.8%）よりも女性（53.6%）の方が高くなっている。  
年齢別に見ると、18～29歳と60歳代以上では【Aに近い】の方が高く、30歳代～50歳代では【Bに近い】の方が高くなっている。

【図表 46】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント④（性別、年齢別）



Q12の「最も興味のある芸術文化活動のジャンル別」別に見ると、「美術系」と「学習系」で【Bに近い】の方が高くなっている。

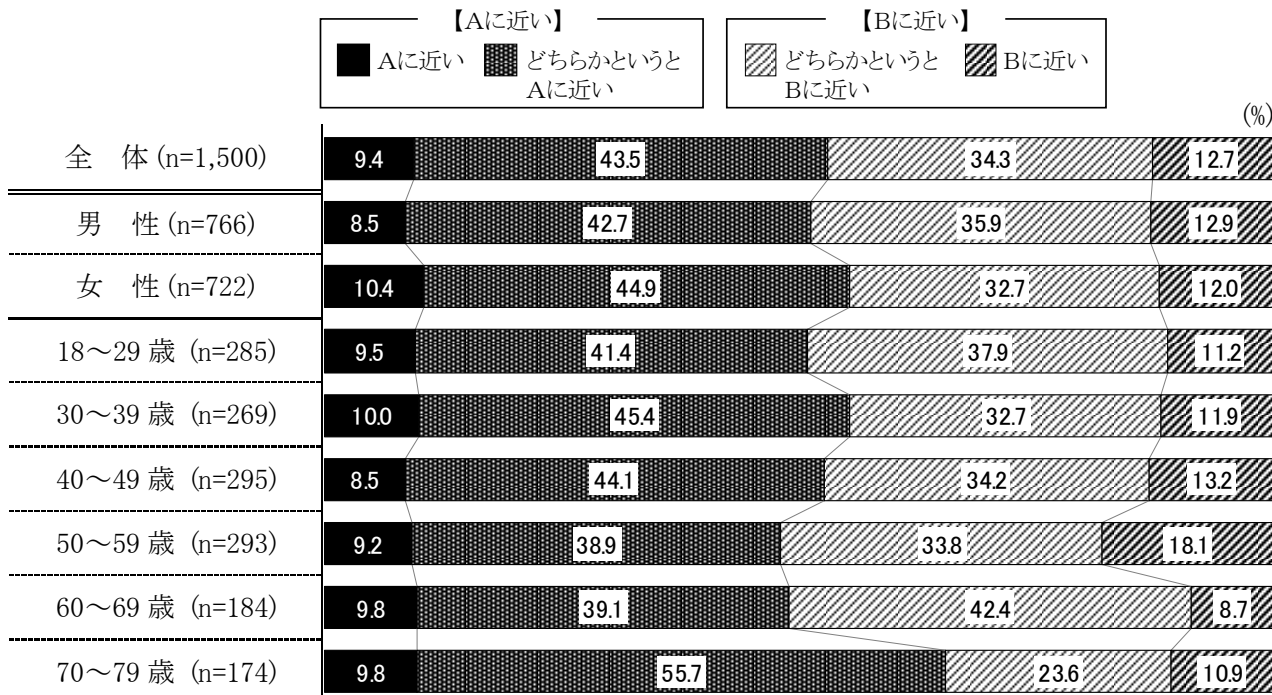
【図表 47】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント④（最も興味のある芸術文化活動のジャンル別）



⑤ A: 自宅以外で雰囲気を含め鑑賞や活動をしたい  
 B: 自宅で鑑賞や活動をしたい

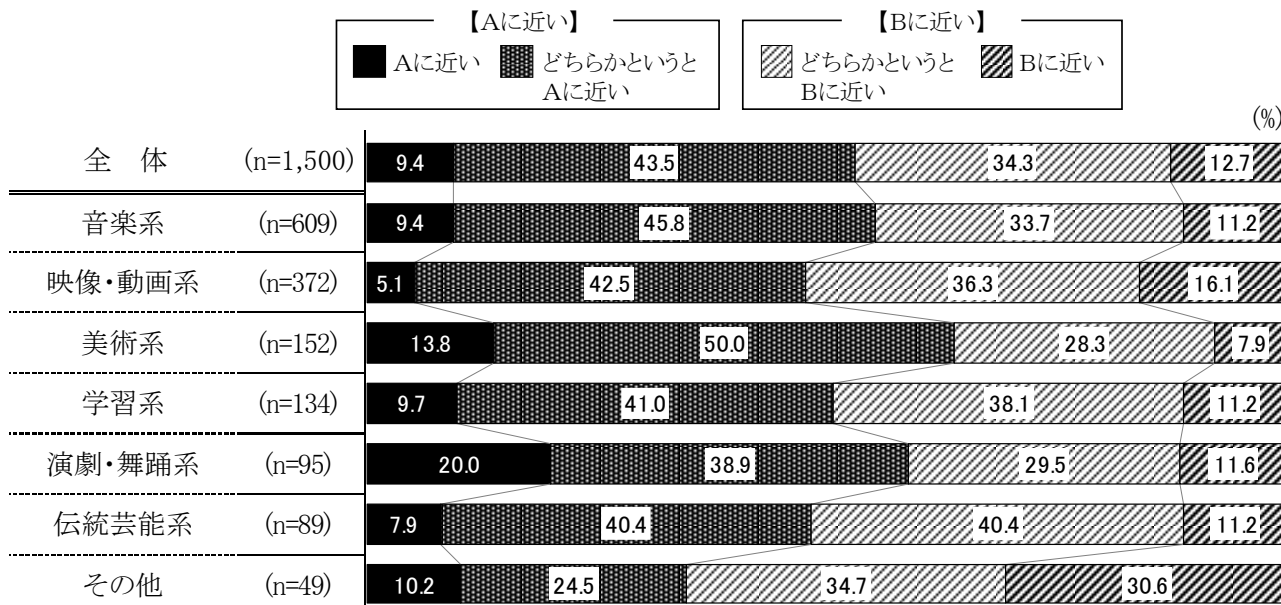
性別に見ると、【Aに近い】は男性（51.2%）よりも女性（55.3%）の方が高くなっている。  
 年齢別に見ると、【Aに近い】は70～79歳（65.5%）が特に高くなっている。

【図表 48】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント⑤（性別、年齢別）



Q12の「最も興味のある芸術文化活動のジャンル別」別に見ると、「美術系」、「演劇・舞踊系」、「音楽系」では【Aに近い】の方が高く、その他のジャンルでは【Aに近い】と【Bに近い】がほぼ半数ずつとなっている。

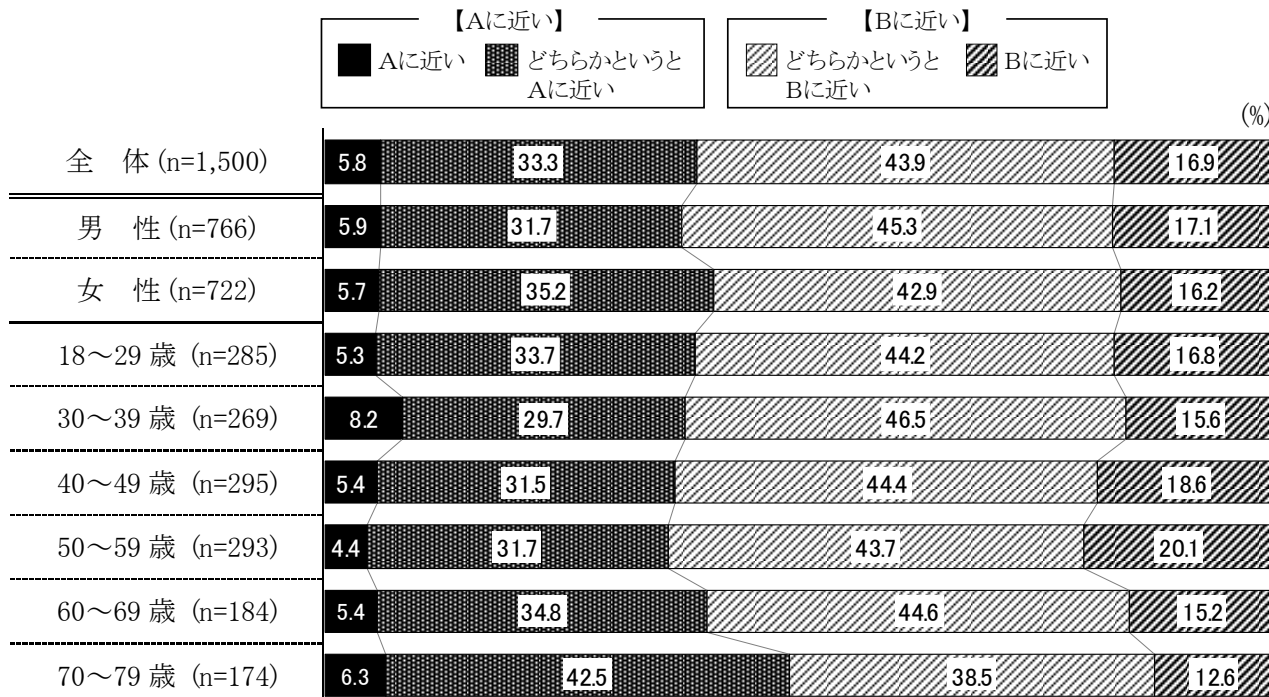
【図表 49】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント⑤（最も興味のある芸術文化活動のジャンル別）



⑥ A:様々な文化芸術の情報が必要である  
B:興味のある文化芸術の情報のみで十分である

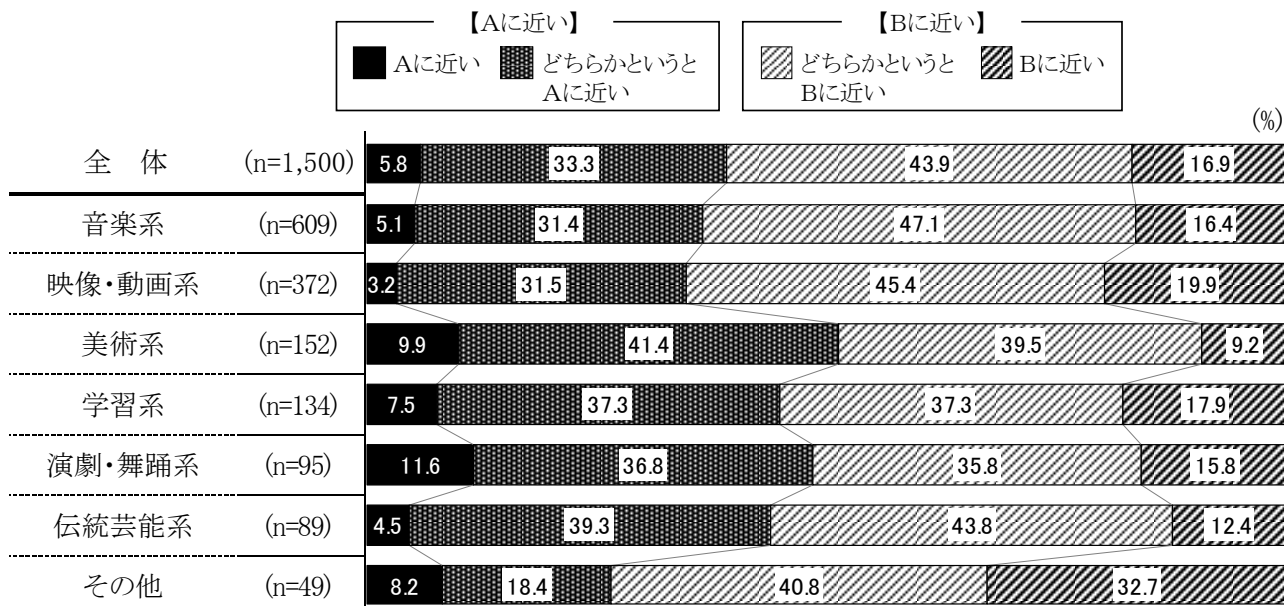
性別に見ると、【Bに近い】は女性（59.1%）よりも男性（62.4%）の方が高くなっている。  
年齢別に見ると、【Aに近い】は70～79歳（48.9%）が最も高くなっている。

【図表 50】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント⑥（性別、年齢別）



Q12の「最も興味のある芸術文化活動のジャンル別」別に見ると、「美術系」と「演劇・舞踊系」は【Aに近い】と【Bに近い】がほぼ半数ずつとなっているが、その他のジャンルでは【Bに近い】の方が高くなっている。

【図表 51】文化芸術の鑑賞・活動時に重視するポイント⑥（最も興味のある芸術文化活動のジャンル別）



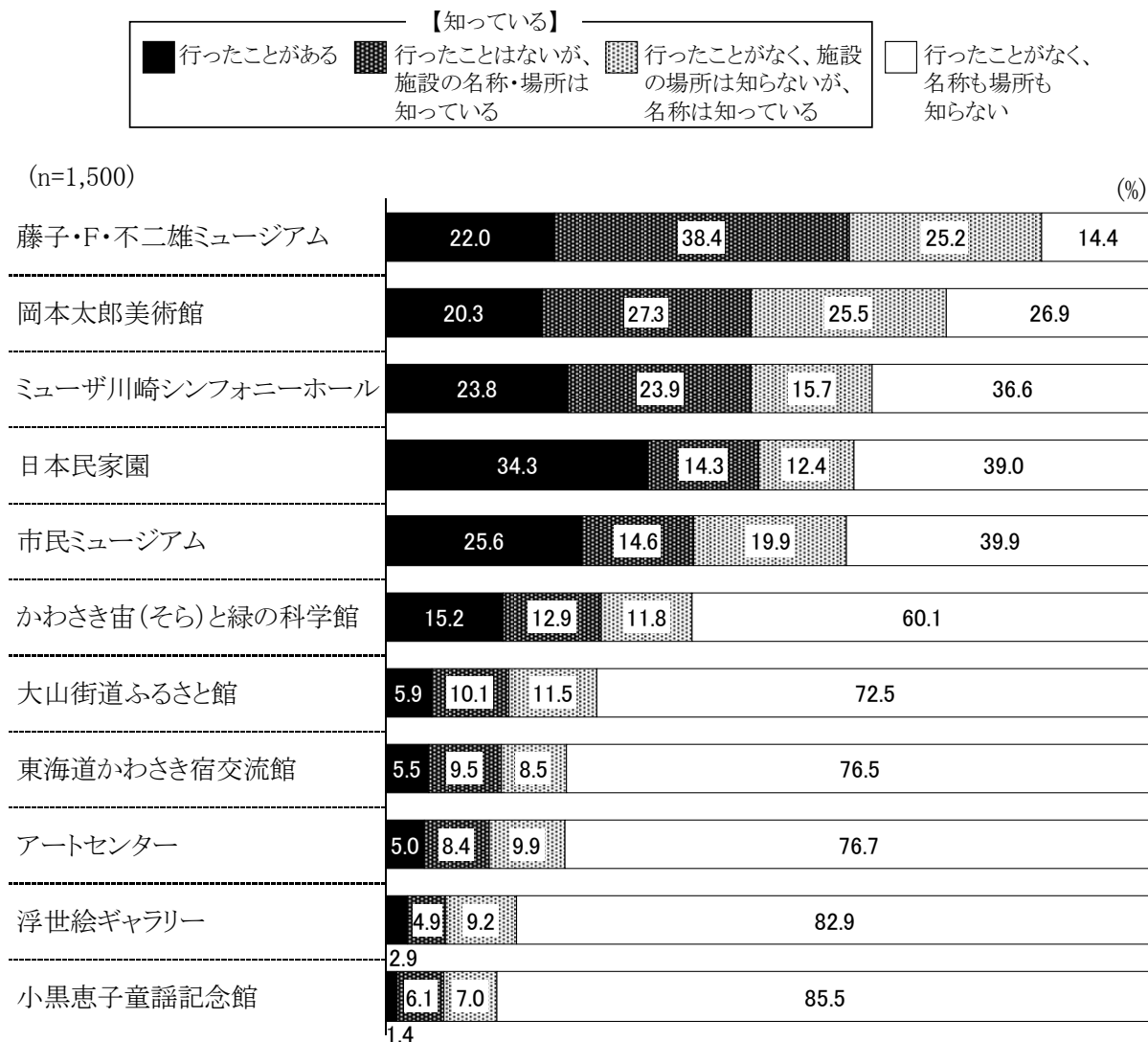
(6) 川崎市文化施設の認知・利用状況

Q14. 川崎市には文化施設が多くありますが、次の施設にあなたは行ったことがありますか。行ったことがない場合には、名称や場所について知っているかお答えください。

「行ったことがある」、「行ったことはないが、施設の名称・場所は知っている」、「行ったことがなく、施設の場所は知らないが、名称は知っている」を合計した【知っている】の割合は、「藤子・F・不二雄ミュージアム」が85.6%と最も高く、次いで「岡本太郎美術館」(73.1%)、「ミュージア川崎シンフォニーホール」(63.4%)、「日本民家園」(61.0%)、「市民ミュージアム」(60.1%)と続いている。

「行ったことがある」文化施設では、「日本民家園」が34.3%と最も高く、次いで「市民ミュージアム」(25.6%)、「ミュージア川崎シンフォニーホール」(23.8%)、「藤子・F・不二雄ミュージアム」(22.0%)と続いている。

【図表 52】川崎市文化施設の認知・利用状況



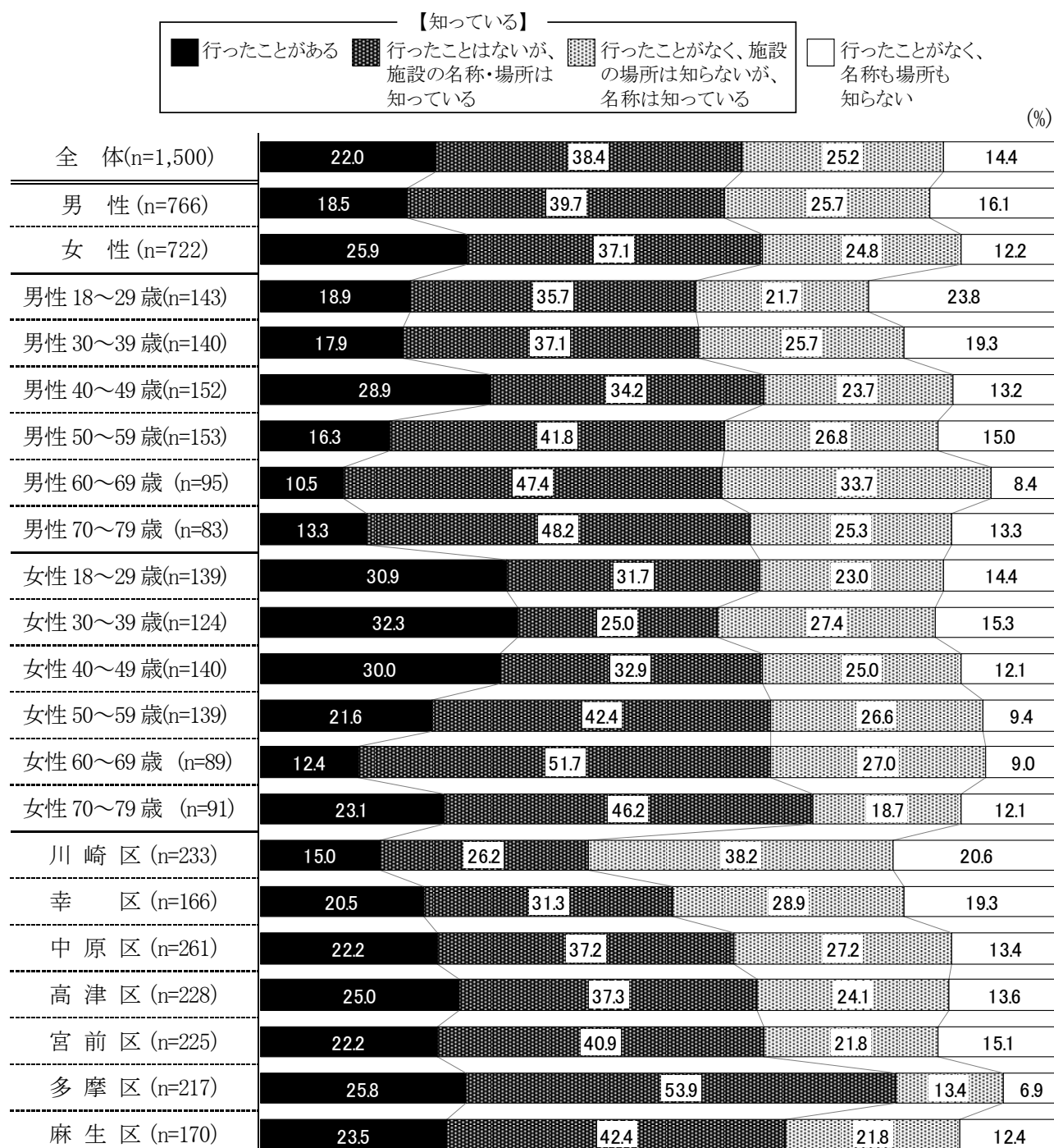


## ① 藤子・F・不二雄ミュージアム (所在地: 多摩区)

性／年齢別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも男性より女性の方が高く、女性の40歳代以下では「行ったことがある」が3割を超えている。【知っている】割合は、男性の18～29歳(76.2%)を除き、全ての性／年齢で8割を超えている。

居住区別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも多摩区が最も高い。

【図表 53】川崎市文化施設の認知・利用状況〔藤子・F・不二雄ミュージアム〕  
(性／年齢別、居住区別)

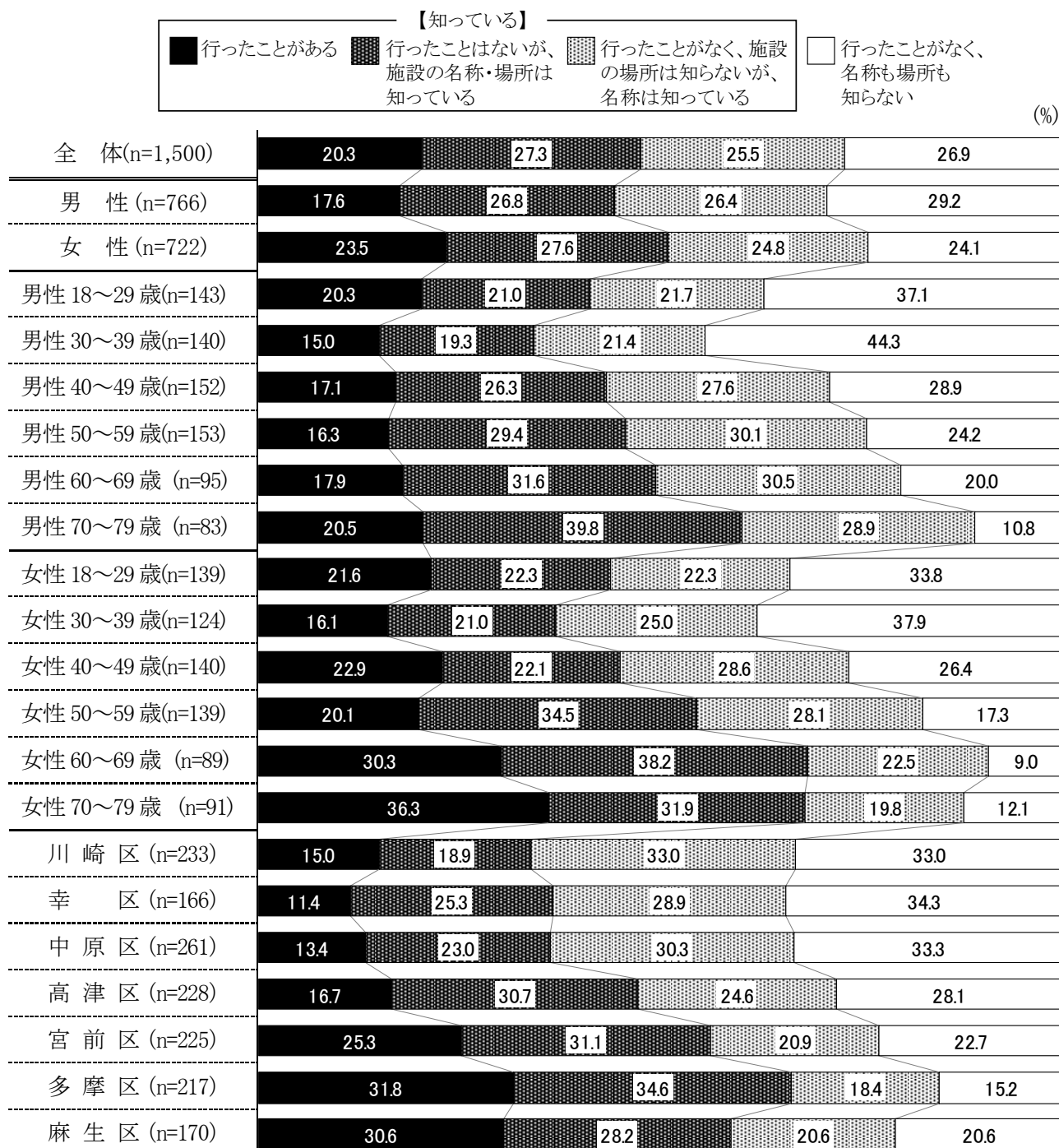


② 岡本太郎美術館 (所在地: 多摩区)

性/年齢別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも男性より女性の方が高く、女性の60歳代以上では「行ったことがある」が3割を超えている。【知っている】割合は、男性は60歳代以上、女性は50歳代以上が8割を超えている。一方で、男女ともに30歳代以下では【知っている】割合が5割台半ば～6割台に留まった。

居住区別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも多摩区が最も高い。

【図表 54】川崎市文化施設の認知・利用状況 [岡本太郎美術館]  
(性/年齢別、居住区別)

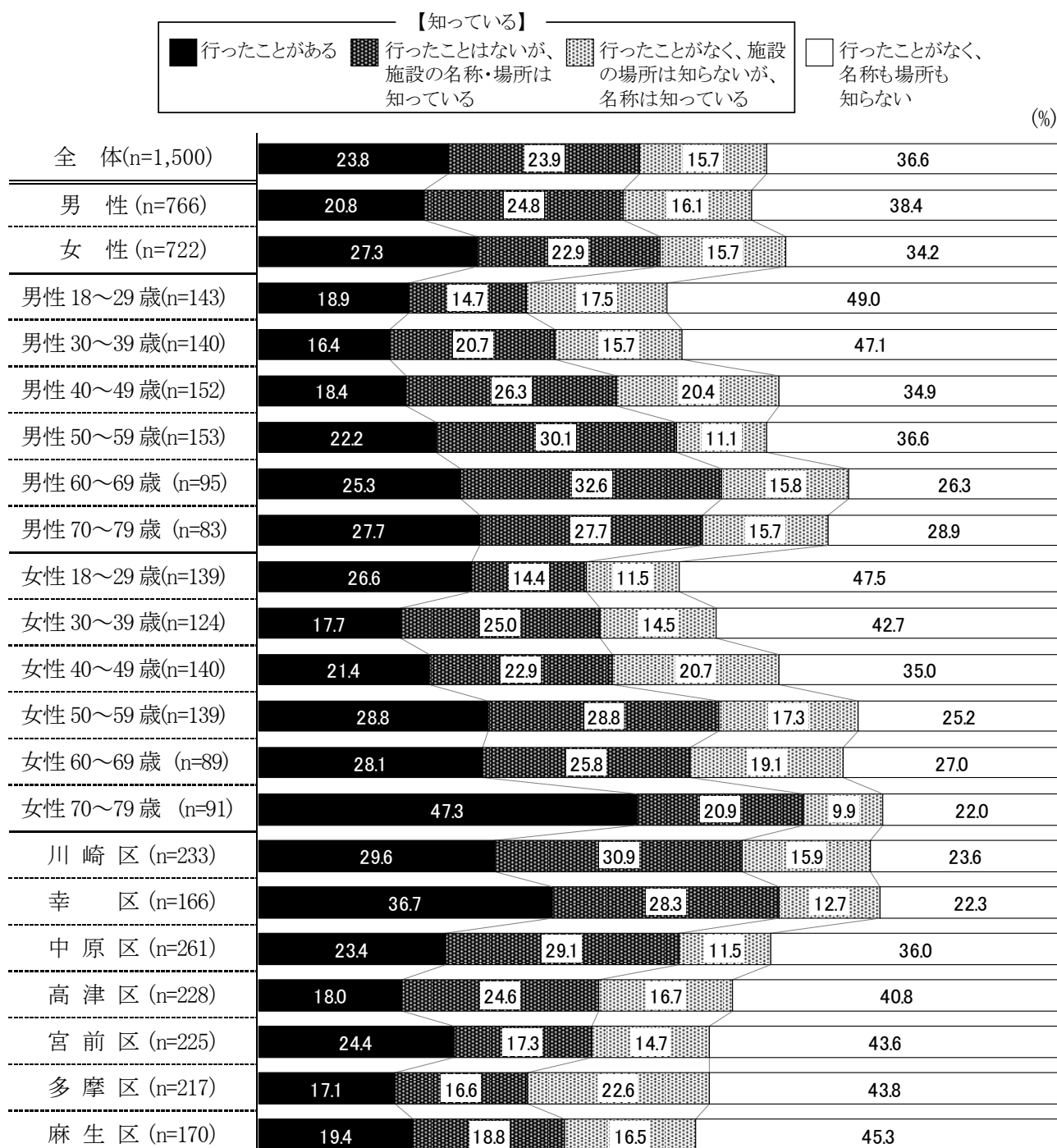


### ③ ミューザ川崎シンフォニーホール（所在地：幸区）

性／年齢別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも男性より女性の方が高く、女性の70～79歳では「行ったことがある」が5割近くとなっている。【知っている】割合は、男性では60歳代以上、女性では50歳代以上で7割を超えている。一方で、男女ともに30歳代以下では【知っている】割合が5割台に留まった。

居住区別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも幸区が最も高い。

【図表 55】川崎市文化施設の認知・利用状況〔ミューザ川崎シンフォニーホール〕  
（性／年齢別、居住区別）

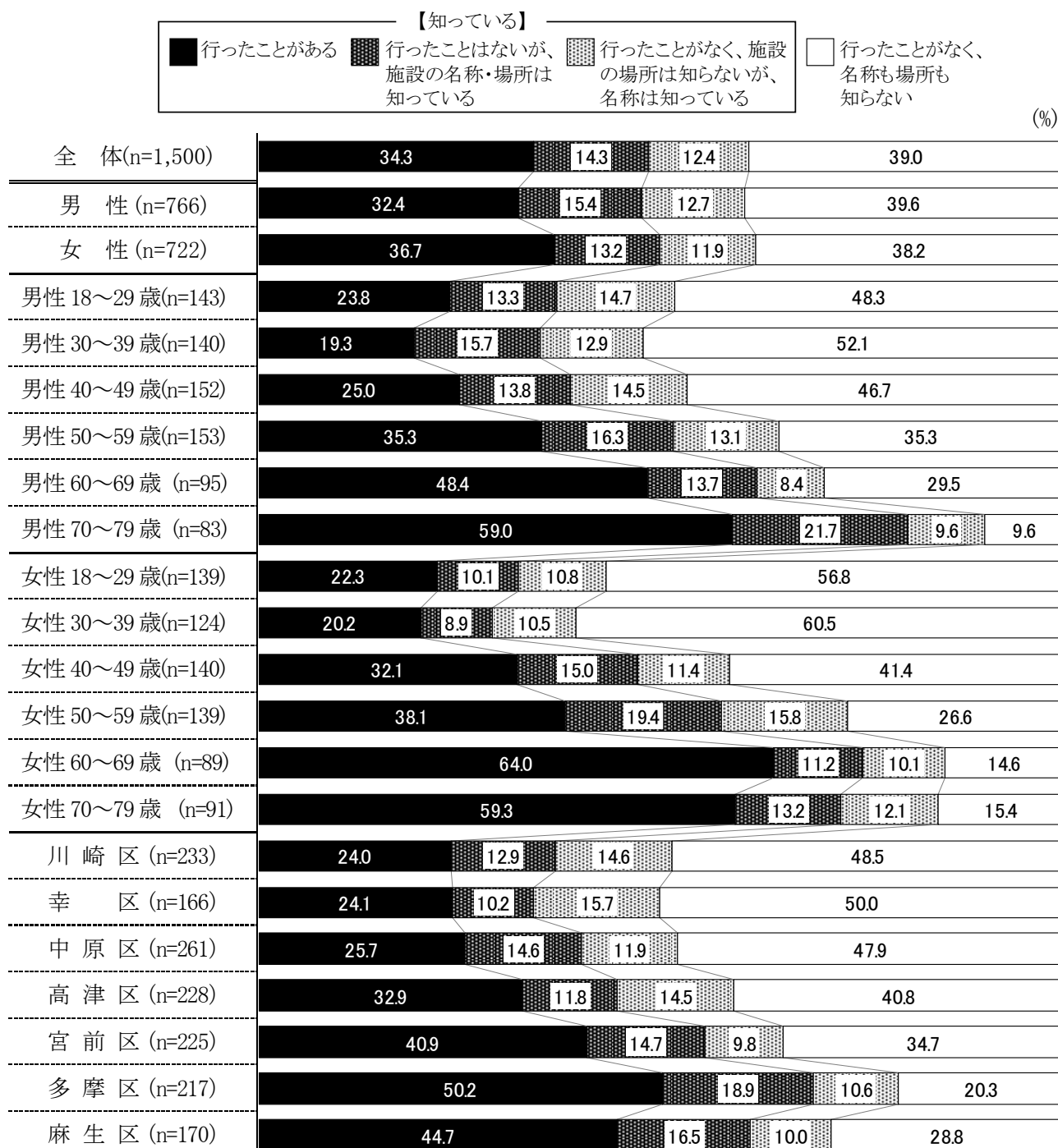


④ 日本民家園 (所在地:多摩区)

性/年齢別に見ると、「行ったことがある」割合は 18～29 歳を除き男性より女性の方が高く、男性 70～79 歳と女性の 60 歳代以上では「行ったことがある」が約 6 割～6 割台半ばとなっている。【知っている】割合は、男性は 60 歳代以上、女性は 50 歳代以上が 7 割を超えている。一方で、男性 30～39 歳と女性の 30 歳代以下では【知っている】割合が 5 割を下回った。

居住区別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも多摩区が最も高い。

【図表 56】川崎市文化施設の認知・利用状況 [日本民家園]  
(性/年齢別、居住区別)

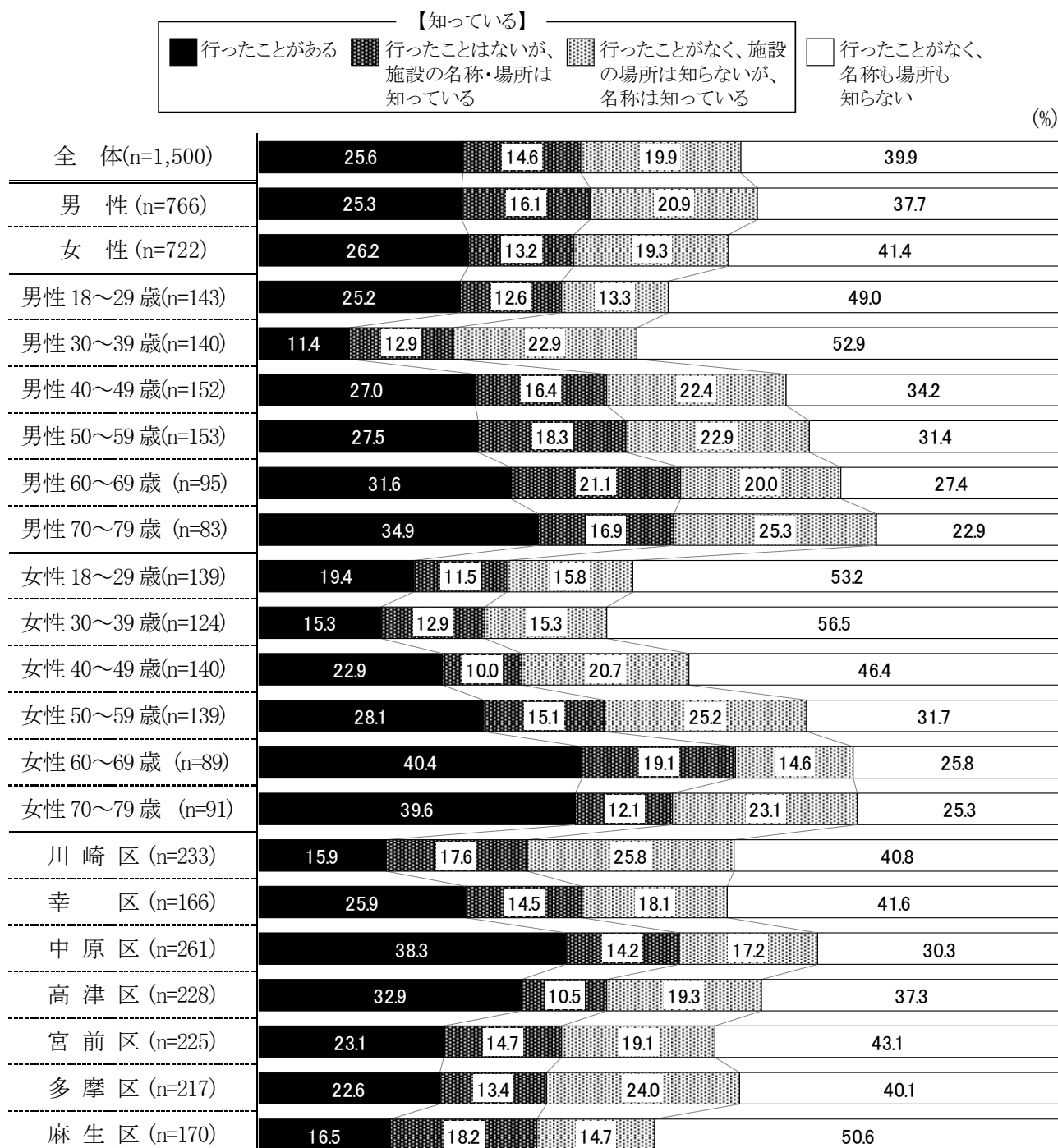


## ⑤ 市民ミュージアム (所在地: 中原区)

性/年齢別に見ると、男女ともに60歳代以上で「行ったことがある」が3割～4割となっている。【知っている】割合は、男女ともに18～29歳を除き概ね年齢が上がるほど高くなっており、男女ともに60歳代以上が7割を超えている。一方で、男性30歳代以下と女性の40歳代以下では【知っている】割合が4割～5割台に留まった。

居住区別に見ると、「行ったことがある」割合、【知っている】割合、いずれも中原区が最も高い。

【図表 57】川崎市文化施設の認知・利用状況 [市民ミュージアム]  
(性/年齢別、居住区別)

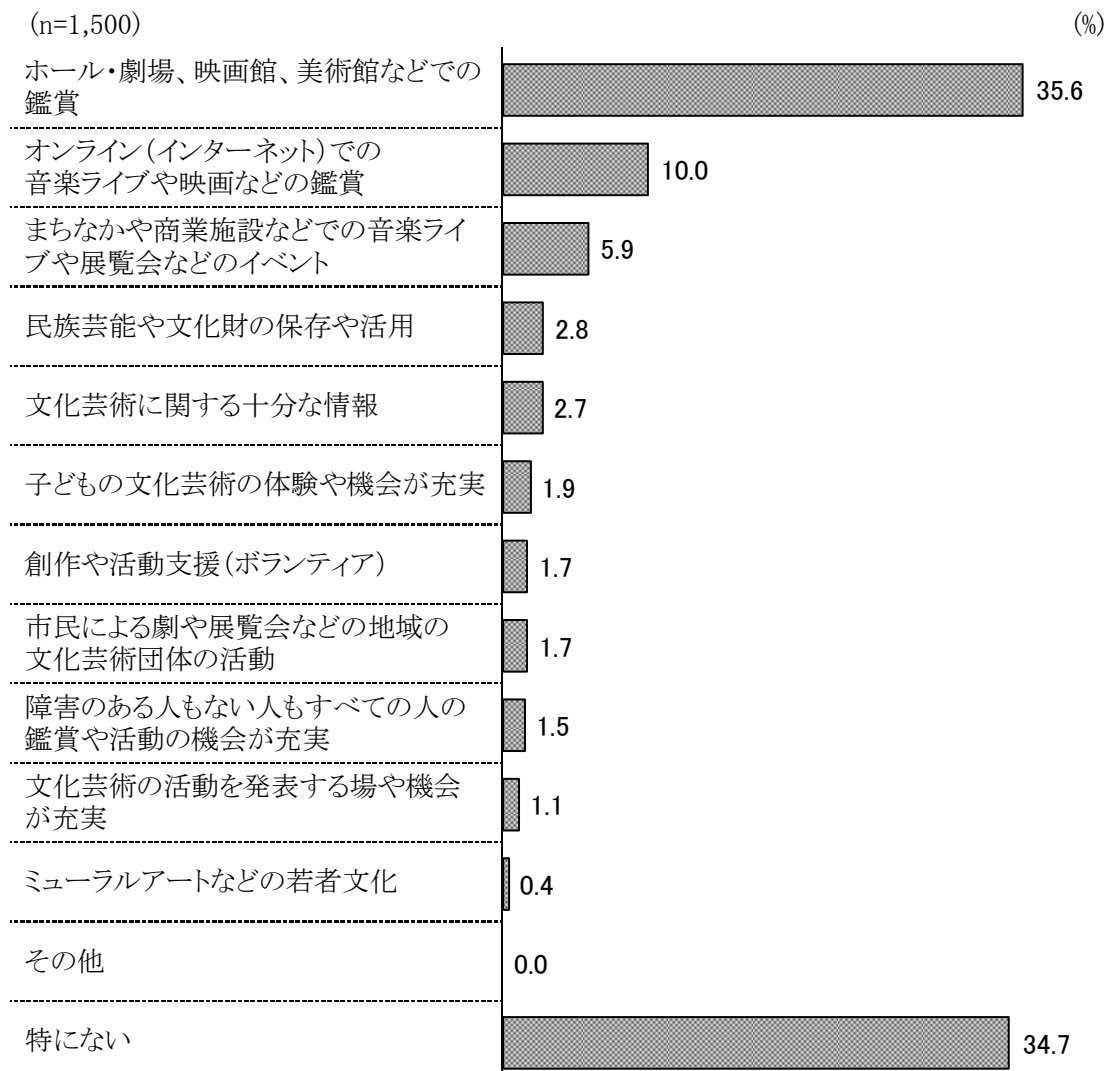


### (7) 身近に感じる文化芸術について

Q15. あなたが身近に感じ、親しめると思う文化芸術はどのようなものですか。次の中から最も近いものを1つ選んでください。

身近に感じる文化芸術については、「ホール・劇場、映画館、美術館などでの鑑賞」が35.6%と最も高く、次いで「特にない」(34.7%)、「オンライン(インターネット)での音楽ライブや映画などの鑑賞」(10.0%)と続いている。

【図表 58】 身近に感じる文化芸術について



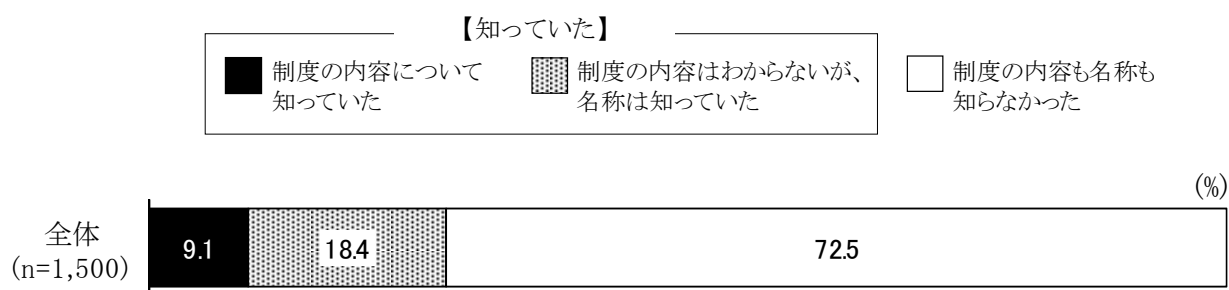
### 1.3 特別市（特別自治市）について

#### (1) 「特別市（特別自治市）」の認知状況

Q16. 川崎市は、県の区域外となり、権限と財源を市に一本化する「特別市（特別自治市）」制度の実現を目指しています。あなたは、「特別市（特別自治市）」について知っていましたか。

「制度の内容について知っていた」（9.1%）と「制度の内容はわからないが、名称は知っていた」（18.4%）を合計した【知っていた】は27.5%であった。

【図表 59】「特別市（特別自治市）」の認知状況



性別に見ると、「制度の内容について知っていた」の割合は女性よりも男性の方が 5.3 ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、「制度の内容について知っていた」の割合は男女ともに 18～29 歳が最も高く、次いで 70～79 歳、60～69 歳と続いている。また、【知っていた】の割合は男女ともに 70～79 歳が最も高くなっている。

居住区別に見ると、【知っていた】の割合は幸区が最も高く、次いで川崎区、宮前区と続いている。

【図表 60】「特別市（特別自治市）」の認知状況（性／年齢別、居住区別）



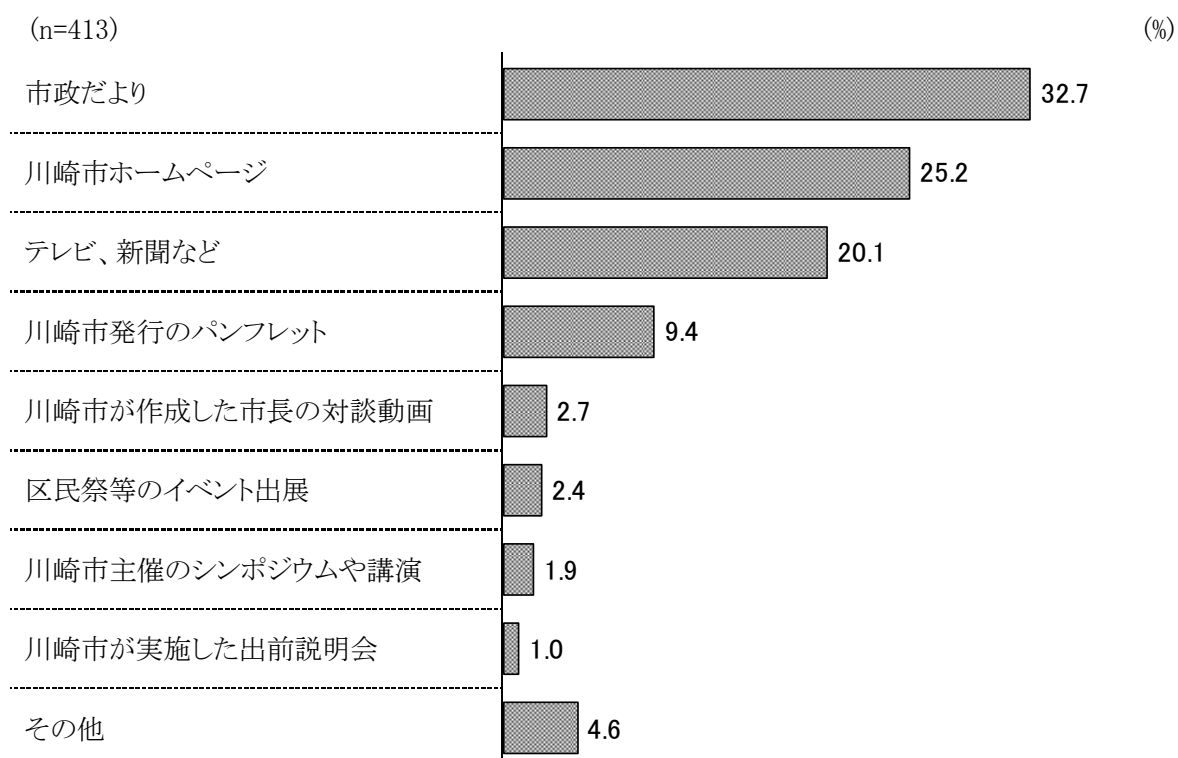


## (2) 「特別市（特別自治市）」の認知経路

Q17. あなたが、最初に「特別市（特別自治市）」を知ったのはどこでしたか。

「特別市（特別自治市）」について【知っていた】と回答した人に、認知経路についてたずねたところ、「市政だより」が32.7%と最も高く、次いで「川崎市ホームページ」(25.2%)、「テレビ、新聞など」(20.1%)と続いている。

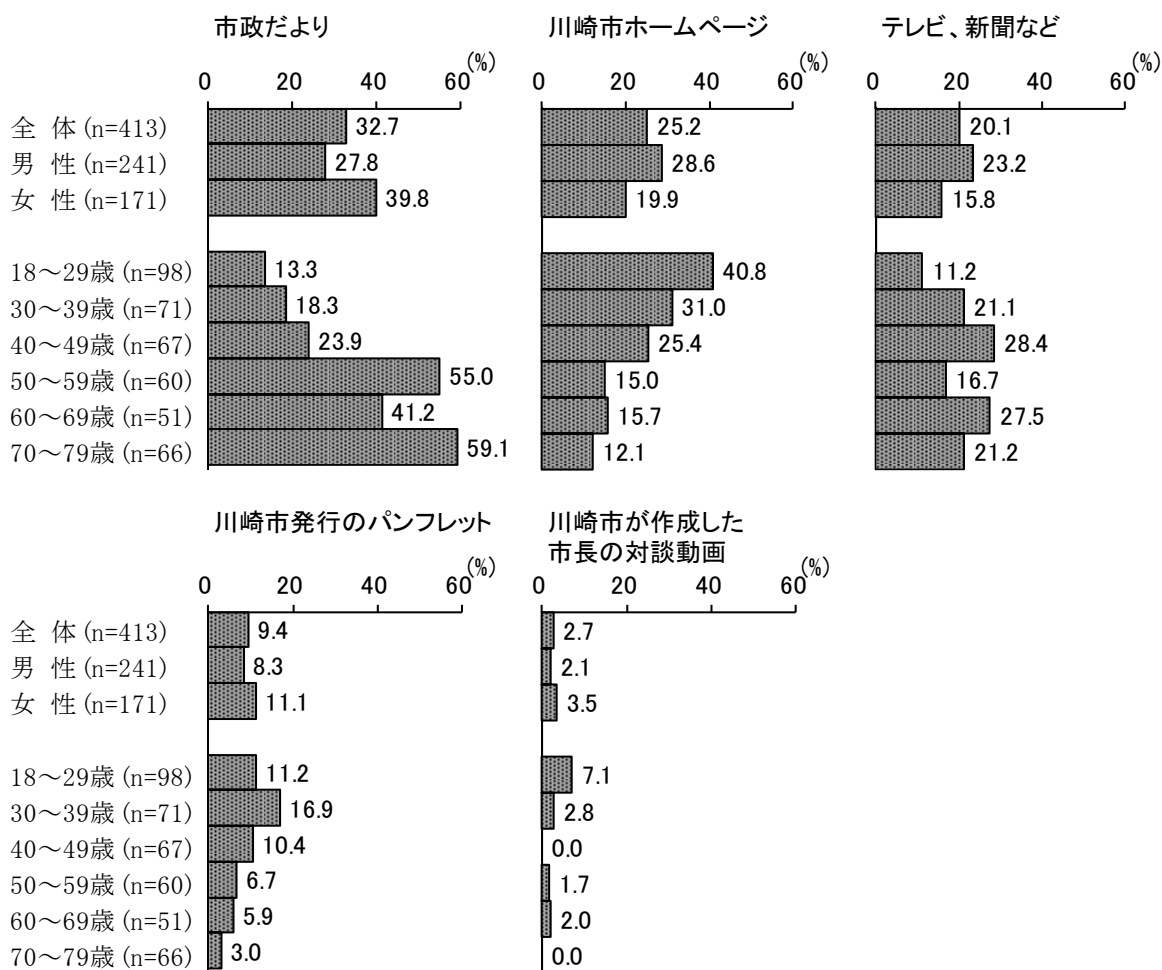
【図表 61】「特別市（特別自治市）」の認知経路



性別に見ると、「市政だより」は男性よりも女性の方が高く、「川崎市ホームページ」と「テレビ新聞など」は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「市政だより」は60～69歳を除き、概ね年齢が上がるほど割合が高くなっており、「川崎市ホームページ」は概ね年齢が上がるほど割合が低くなっている。また、「テレビ、新聞など」は40～49歳と60～69歳が2割台後半と他の年代と比べて高く、「川崎市発行のパンフレット」は30～39歳が最も高くなっている。一方、「川崎市が作成した市長の対談動画」は18～29歳が最も高くなっている。

【図表 62】「特別市（特別自治市）」の認知経路 <<上位5項目>>  
(性別、年齢別)

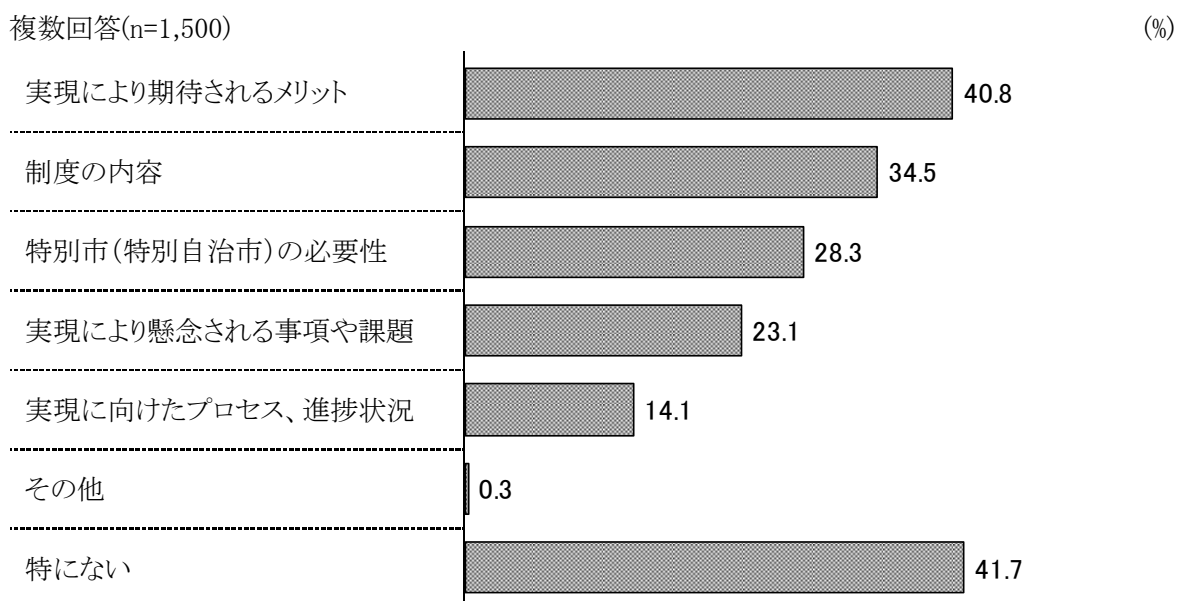


### (3) 「特別市（特別自治市）」について知りたいこと

Q18. 「特別市（特別自治市）」について、知りたいことを教えてください。

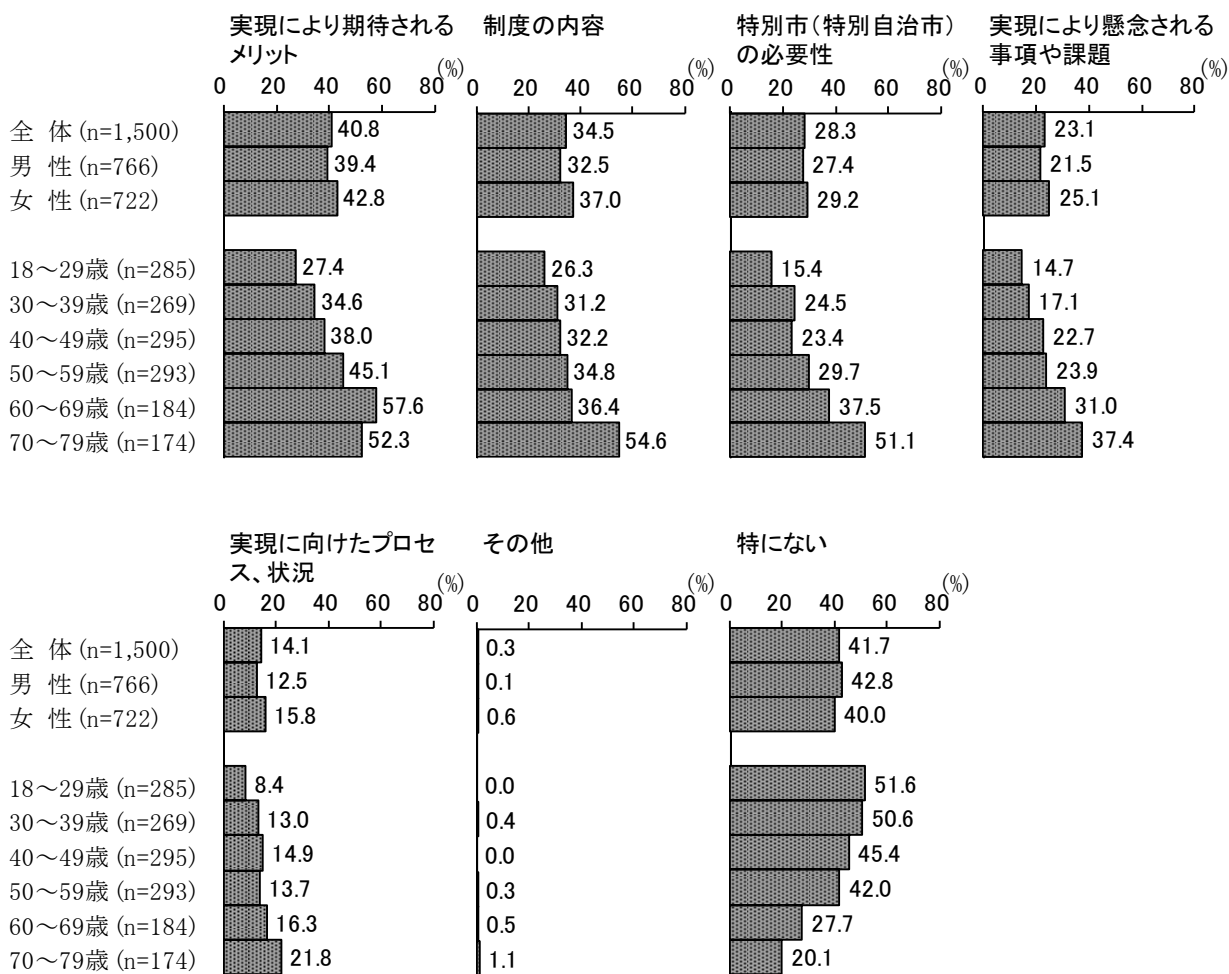
「実現により期待されるメリット」(40.8%)、「制度の内容」(34.5%)、「特別市（特別自治市）の必要性」(28.3%)と続いている。一方、「特にない」が41.7%と最も高くなっている。

【図表 63】「特別市（特別自治市）」について知りたいこと（複数回答）



性別では、「特にない」を除く各項目で、女性の割合が高くなっている。  
 年齢別に見ると、「特にない」を除く各項目で、概ね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 64】「特別市（特別自治市）」について知りたいこと（複数回答）  
 （性別、年齢別）

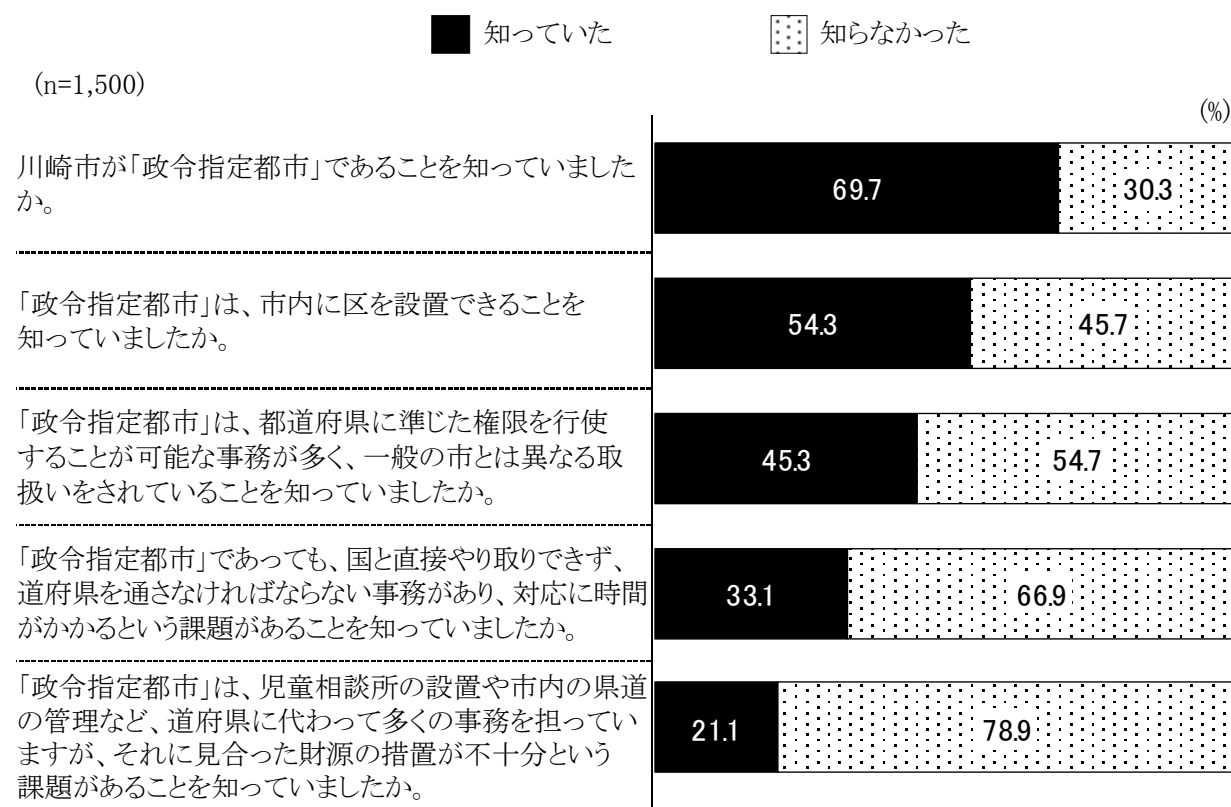


## (4)「政令指定都市」について

Q19. 「政令指定都市」に関する質問にお答えください。

「知っていた」の割合は「川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。」が69.7%と最も高く、次いで、「「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。」(54.3%)、「「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)」(45.3%)と続いている。

【図表 65】「政令指定都市」について



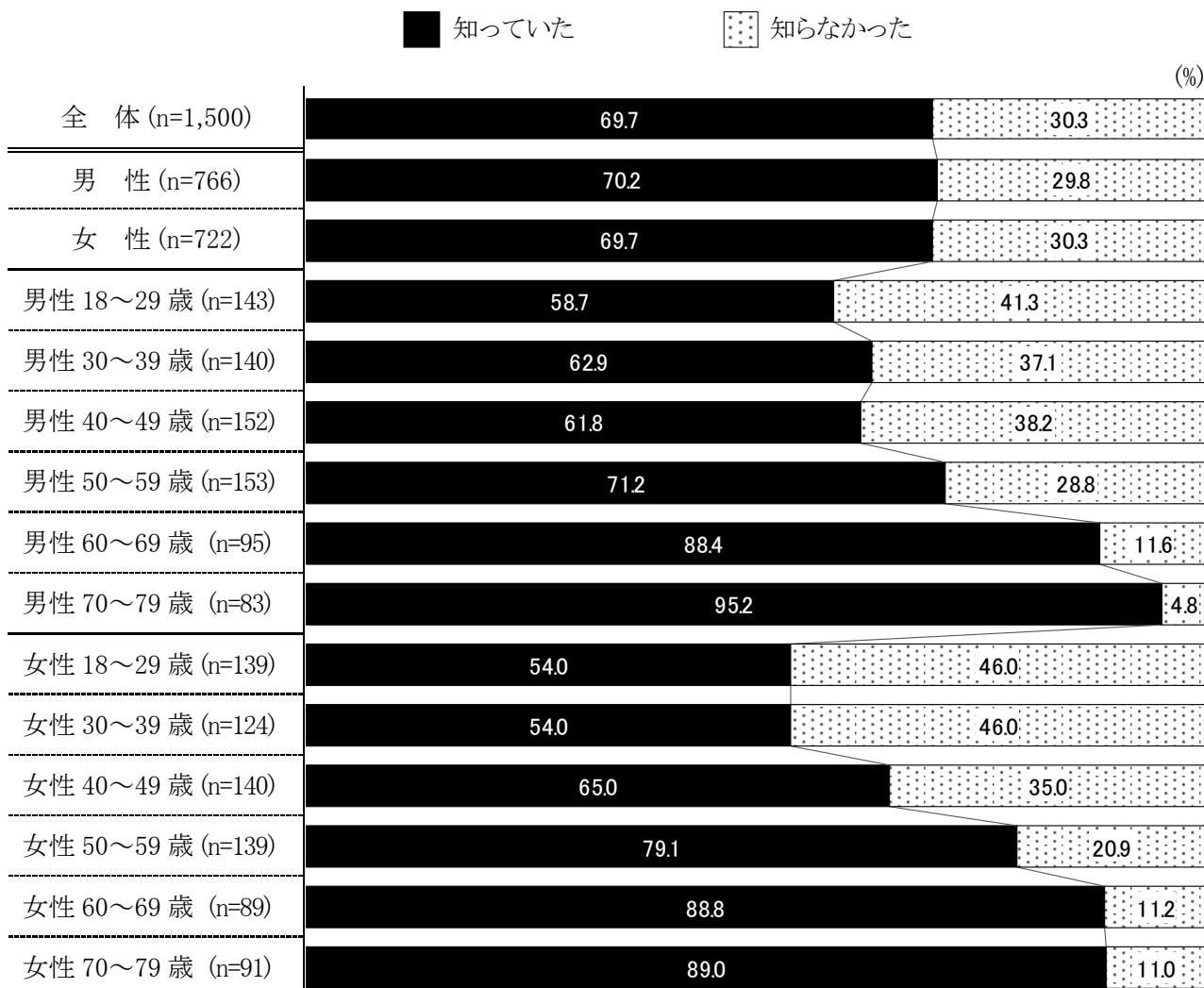
① 現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、男女ともに概ね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 66】「政令指定都市」について（性／年齢別）

（ 現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。 ）



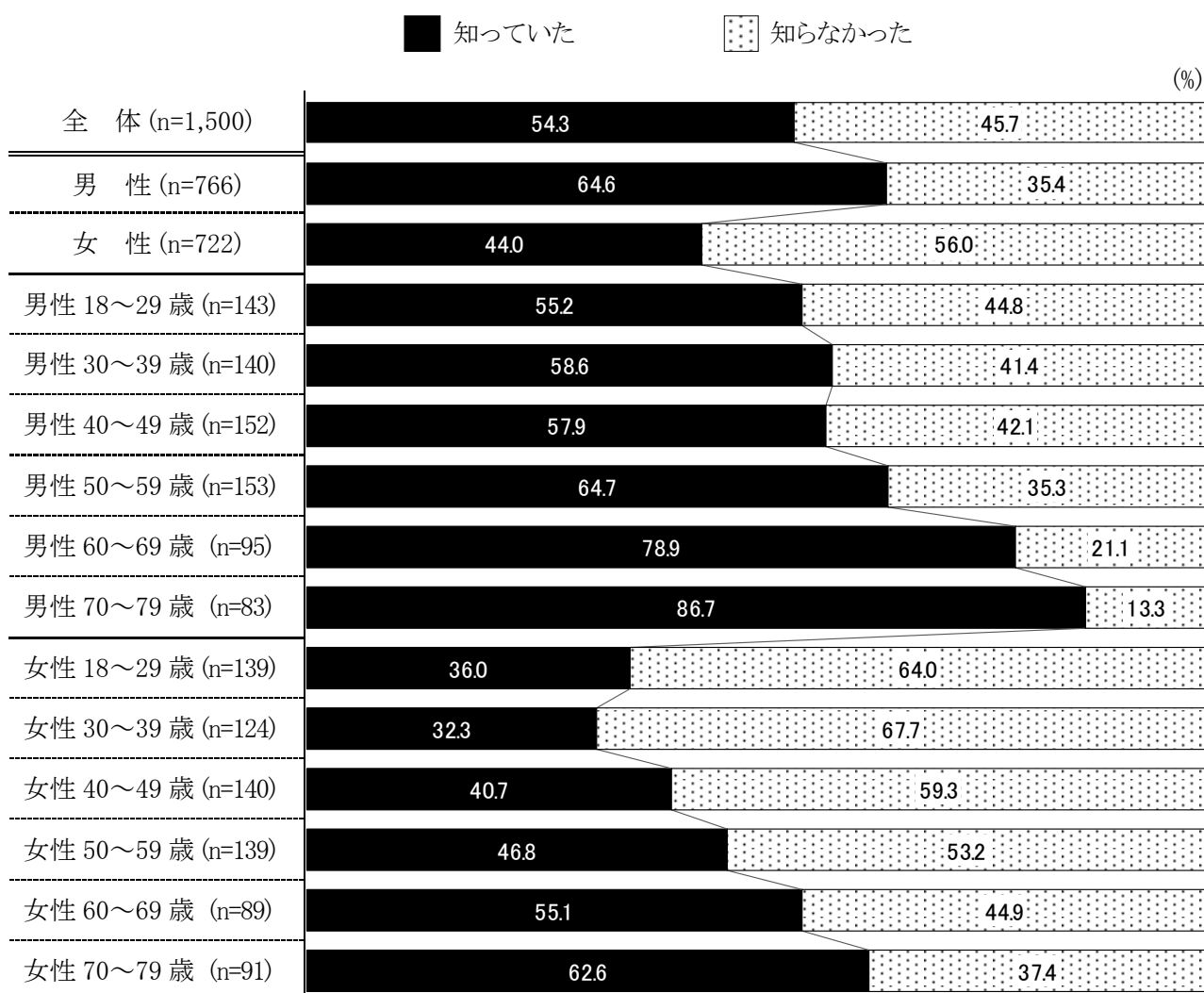
## ②「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性よりも男性の方が20.6ポイント高い。

年齢別に見ると、一部を除き、男女ともに概ね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 67】「政令指定都市」について（性／年齢別）

〔「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。〕



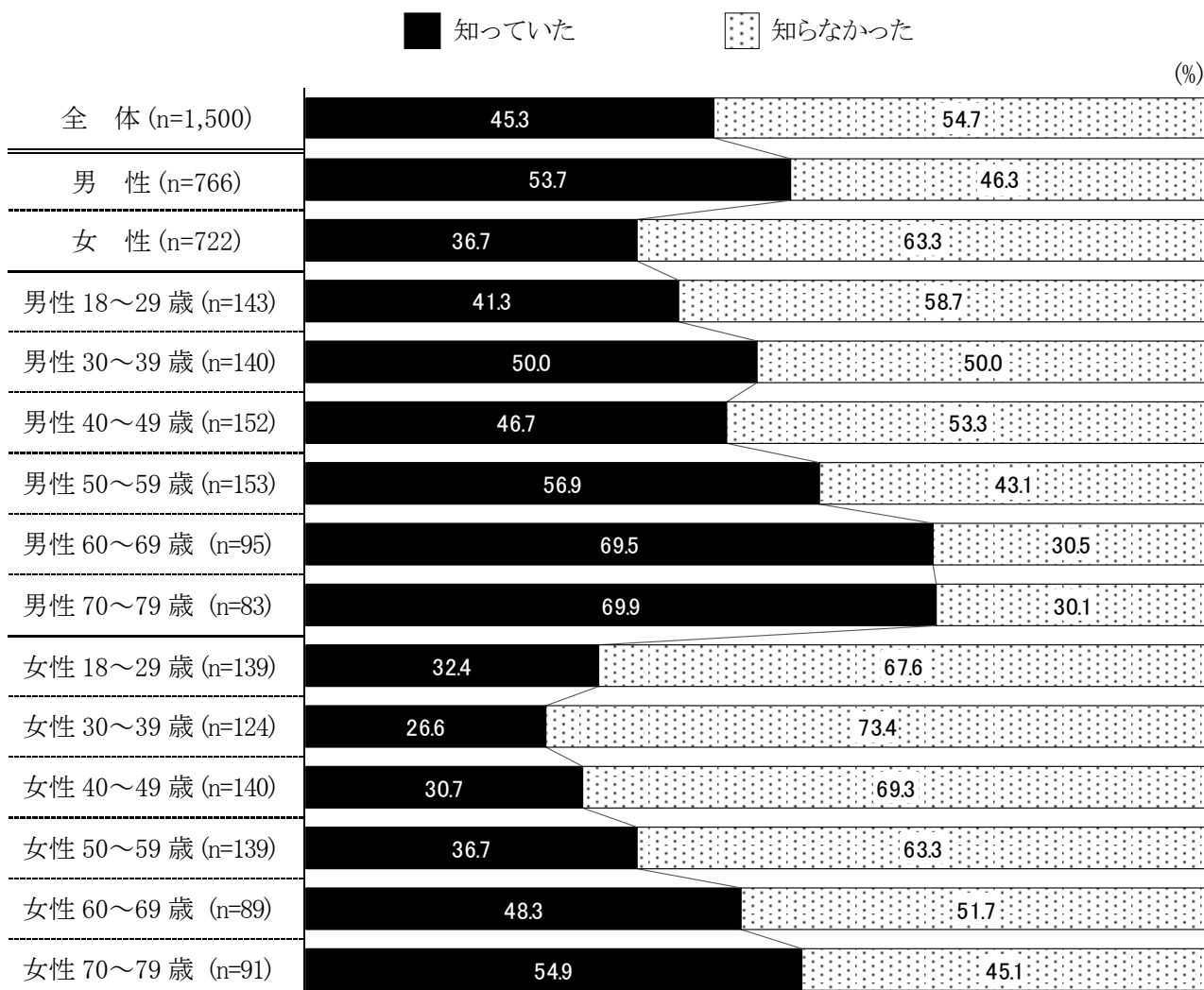
③「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例:児童相談所の設置など)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性よりも男性の方が17.0ポイント高い。

年齢別に見ると、一部を除き、男女ともに概ね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっていく。

【図表 68】「政令指定都市」について（性／年齢別）

「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例:児童相談所の設置など)





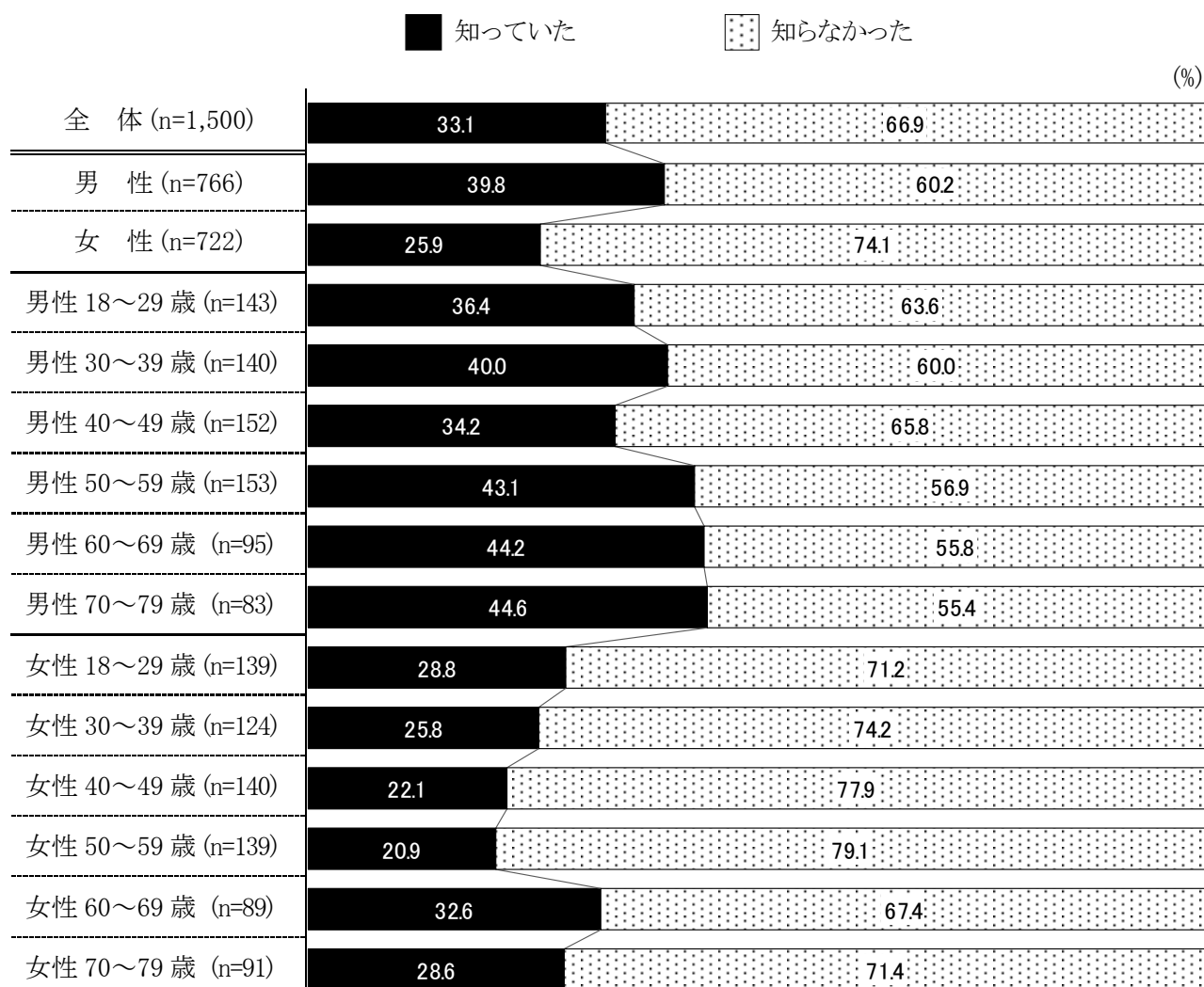
④「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか(例:新型コロナウイルスワクチンの供給など)。

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性よりも男性の方が13.9ポイント高い。

年齢別に見ると、「知っていた」の割合は、男性では70～79歳が44.6%と最も高く、30～39歳、50～59歳、60～69歳でも4割台となっている。女性では60～69歳が32.6%と最も高い

【図表 69】「政令指定都市」について (性/年齢別)

「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか(例:新型コロナウイルスワクチンの供給など)。



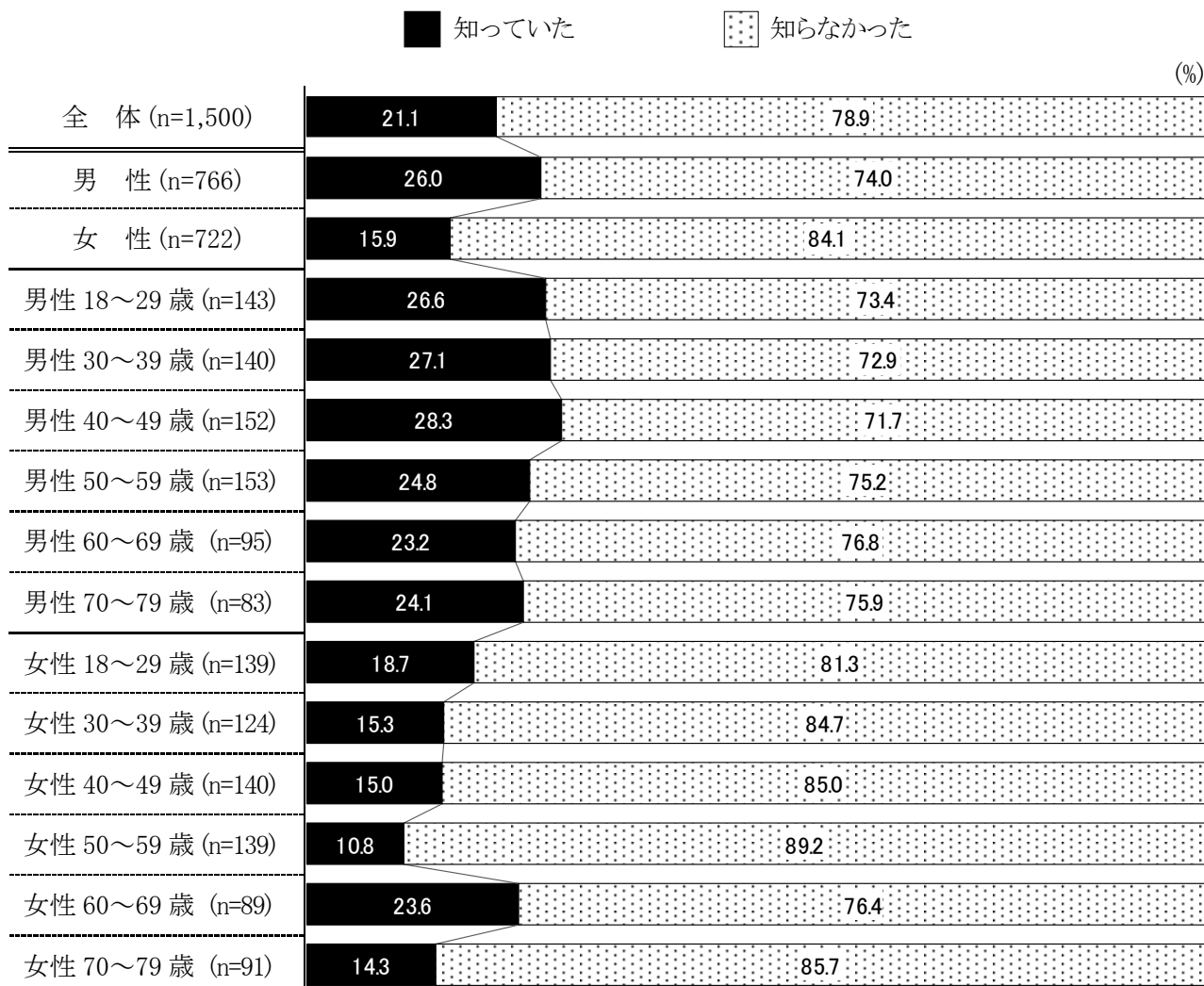
⑤「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。  
 (川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約255億円である一方、財源として確保される額は約43億円しかなく、約212億円が川崎市の負担となっています。)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性よりも男性の方が10.1ポイント高い。

年齢別に見ると、「知っていた」の割合は、男性は全ての年代で2割台であり傾向に大きな差は見られないが、女性は60～69歳が23.6%と最も高く、他の年代は1割台となっている。

【図表 70】「政令指定都市」について（性／年齢別）

「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。(川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約255億円である一方、財源として確保される額は約43億円しかなく、約212億円が川崎市の負担となっています。)

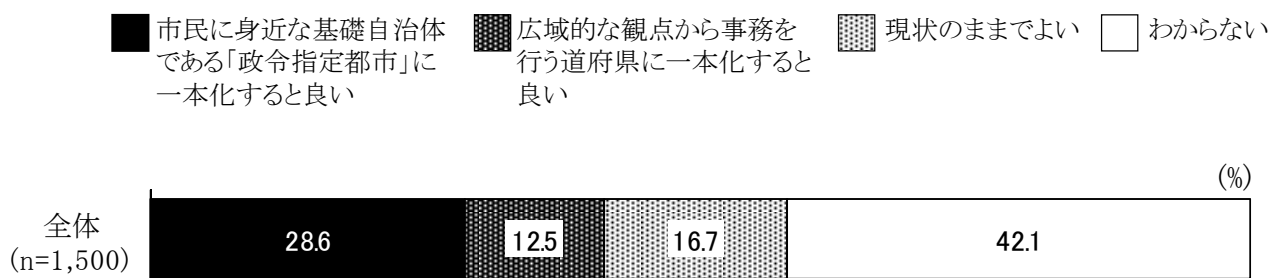


### (5) 取組や事務の一本化について

Q20. 「政令指定都市」と道府県で同じような内容の取組や事務を実施していることがあります。今後このような事務をどちらか一方にまとめるとしたら、あなたはどちらに一本化するとよいと思いますか。

「市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い」(28.6%)、「現状のままでよい」(16.7%)、「広域的な観点から事務を行う道府県に一本化すると良い」(12.5%)と続いている。一方、「わからない」が42.1%と最も高くなっている。

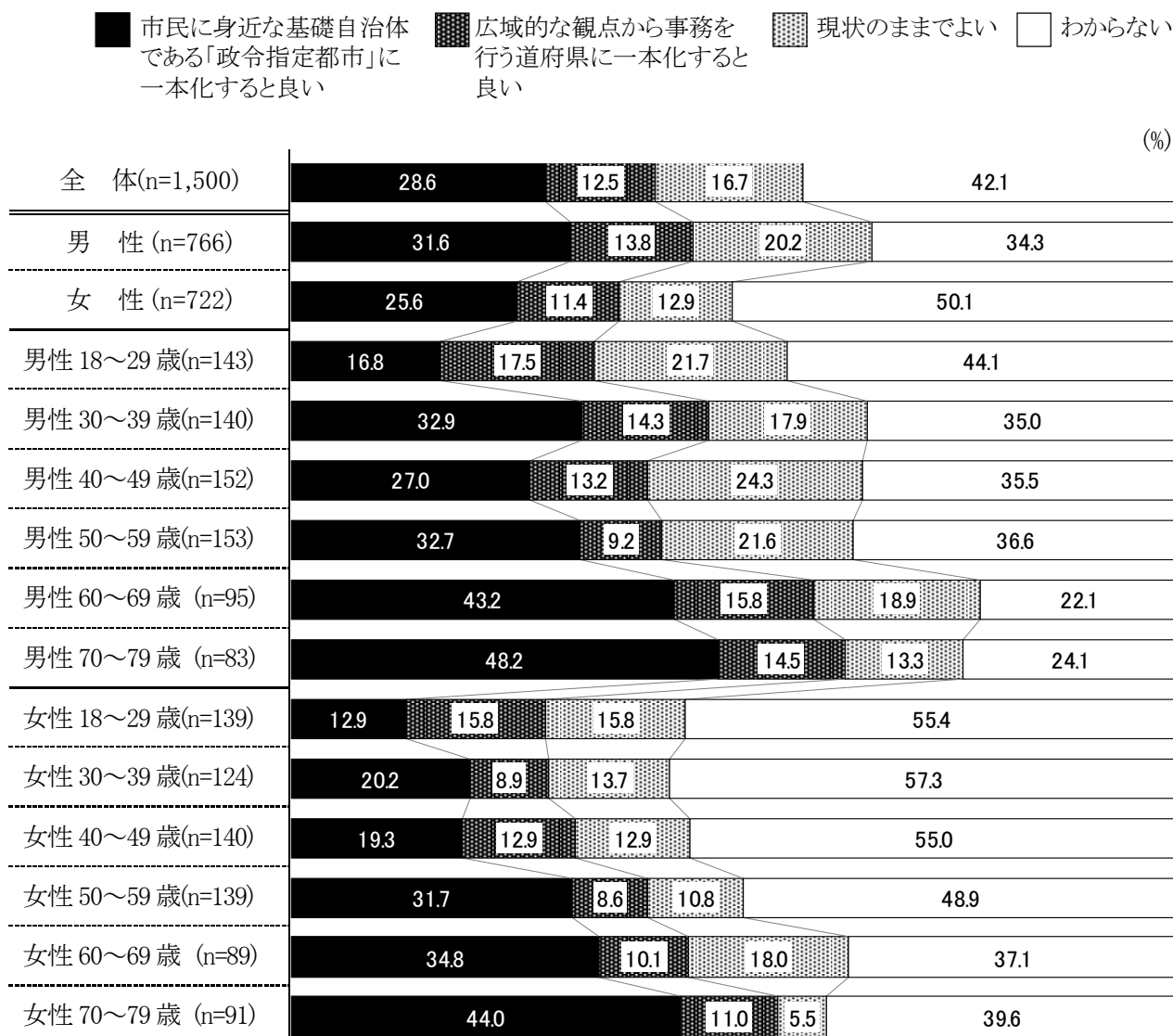
【図表 71】 取組や事務の一本化について



性別に見ると、「市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い」は女性よりも男性の方が6.0ポイント高く、「わからない」は男性よりも女性の方が15.8ポイント高くなっている。

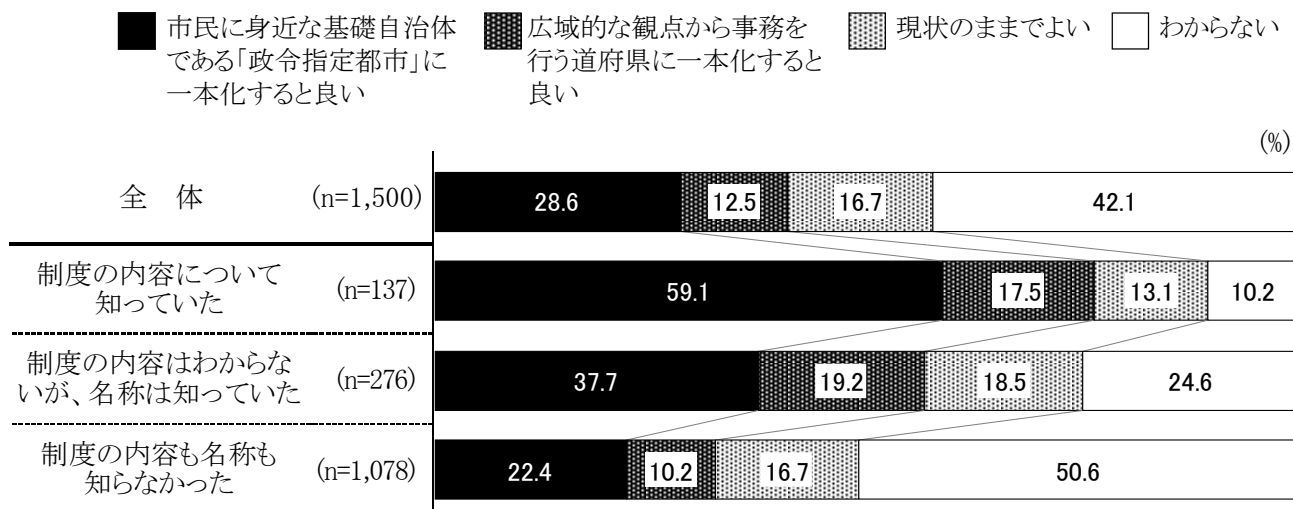
性／年齢別に見ると、「市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い」は、一部を除き、男女ともに概ね年齢が上がるほど高くなっている。また、「わからない」は男性では18～29歳が44.1%と最も高く、女性では40歳代以下が5割台後半と高くなっている。

【図表 72】 取組や事務の一本化について（性／年齢別）



Q16の「特別市（特別自治市）」の認知状況別に見ると、制度について知っている人ほど「市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い」の割合が高くなっており、「制度の内容について知っていた」と回答した人では約6割となっている。

【図表 73】 取組や事務の一本化について（「特別市（特別自治市）」の認知状況別）

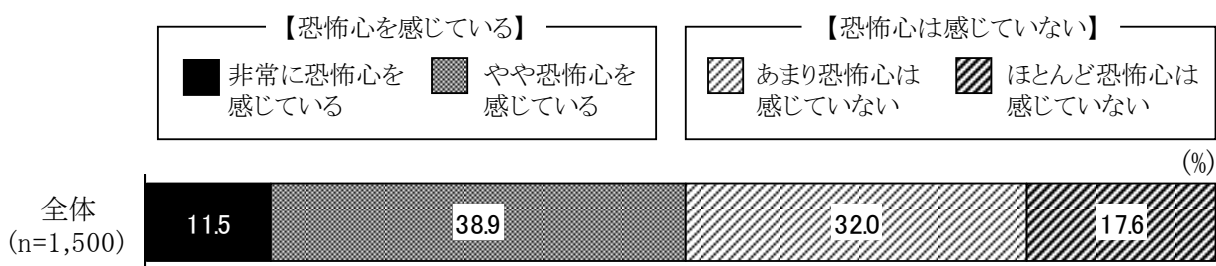


### 1.4 新型コロナウイルス感染症について

Q21. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

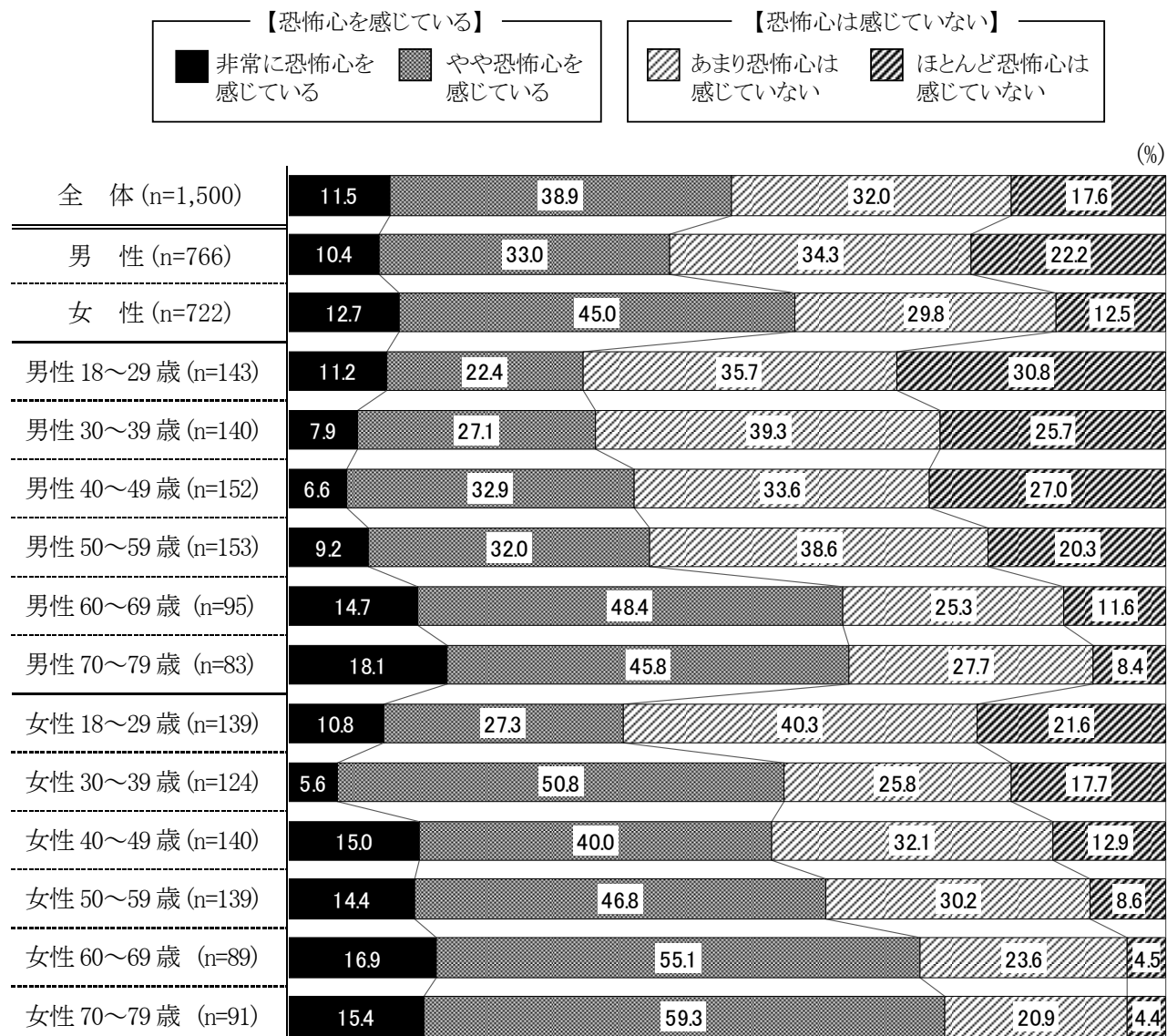
「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は50.4%、「あまり恐怖心は感じていない」と「ほとんど恐怖心は感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は49.6%であった。

【図表 74】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



性／年齢別に見ると、【恐怖心を感じている】は男性では43.5%と半数を下回り、女性（57.8%）よりも14.3ポイント低い。また、【恐怖心を感じている】は男女ともに概ね年齢が上がるほど高くなっており、男性の60歳代以上では6割を超え、女性の60歳代以上では7割を超えている。一方で、男性の40歳代以下と女性の18～29歳では【恐怖心は感じていない】が6割を超えている。

【図表 75】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（性／年齢別）



※過去調査との比較については196ページに記載しています。

